人國記　全

津田文庫
文庫 1
1845

巡國頒民古人恤

入國記

移風易俗今垂澤

010190617683

維昔最明寺禅公、諸國を巡行
して有司の代務を開き、下民の冤
訴を通せしめ政教の助とし給ふ。此時よ
民の性情を観察し、人國記を作る
是書を今此巻を披は昔年の風俗恰
も面出するか如し。是民を化し俗を
成の一助ならさらんや。蓋人情は國の風
水に関わまし此編を人國と號せは人情
國土の意ならや。其所は其風土の氣情

をあらされは其国を弁ことなかし
故山川の梗槩を疑りに小國の情を画、
聊大綱を示し其他は今政化實まま
及び風俗の俗変して往昔の風に何
らん民悉く善に向ひ撃壌含哺し
も各其生を楽むもの也

早稲田大学圖書館藏書

人國記巻之上篇目

畿内五國

山城 一　大和 二　河内 四　和泉 五
摂津 六

東海道十五國

伊賀 七　伊勢 八　志摩 九　尾張 十一
参河 十二　遠江 十四　駿河 十五　甲斐 十七
伊豆 十九　相模 廿　武蔵 廿一　安房 廿三
上総 廿四　下総 廿五　常陸 廿六

つた文庫

東山道八國

近江 七七　美濃 二十　飛驒 四二　信濃 六三

上野 四六　下野 六八　陸奥 四九　出羽 四十六

北陸道七國

若狹 四十九　越前 五十　加賀 五十二　能登 五十二

越中 五十七　越後 五十七　佐渡 七十八

1845

人國記巻之上

畿内五國

山城

當國の風俗は男女ともに其詞自清濁分りて若そたとへば流水の滯りてなかれてはなきよきが如し風俗は其六十の余土にすぐれたるといへども此國は水の潔きこと他國にあらぶことなし故に人の膚滑らかにして婦人の容色あらに尋常なり然れども武士の風儀柔和にて不宜されども婦人脱落の勇とも又淫もなきともいふべし

右ま王城のあたりなる國〻なれバ其の風俗もゆるやかにして
不知不識に奢をこのみ實なきことをこのむもの多く侈
人と交る情に富く心銘を忘れても薄に移
花の意ありとかや。
抑ま南ハ三方山圍て南ハ水臣と開き南低して
中に平地あり則平安の都ありて四神相應の地
四時の寒暑各其気のまゝにして故に其風
俗ハ晝ニ不況のかし生質自然と中正となり
一國の風俗も南北あのおかしらすもと

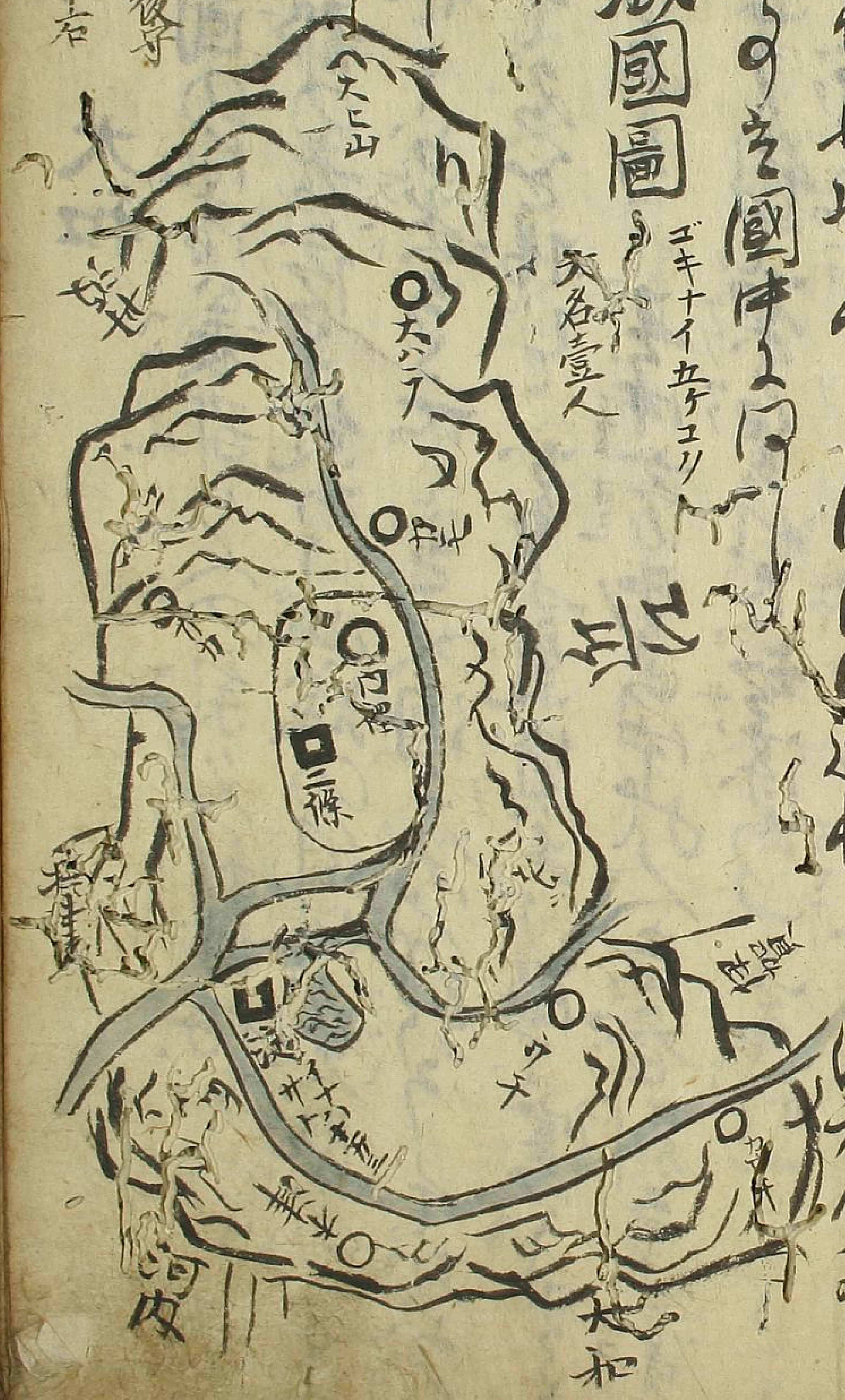
就中北山中心質朴なり京邊の者ハ育まれ
れハ此土ちるゝ國風の流れちまる淫乱偏頗なる
ろりと國中にハ

稲
拾カ二千石

山城國圖

ゴキナイ五ケ国ノ

大名壹人



大和

當國の風俗ハ表郡の人ハ氣みしかに利口を好むもの多し
奥郡の者ハ信ある氣あり山城の風俗に大概似たり
されとも尖なる不しきと又何にもかゝりて功か
しそ名を揚むとおもふ氣質あり故に實義ある
あそまくら其中芳野の山中此人ハ各別なる義
内よりもして潔白なる心ある深く無利なる
あるハ此邪僻に不陥太平なるを好むものなりされ
様に高くいふにもあらすして其華を開くと書に

所謂表郡といふハ平地の下にして京の故地なるの辺
をさすなり南ハ大山嶺を越て其しも深山
なり此國の人ハ皇帝一統天下を治て都をたて
られし故其の郡ともあれハ國俗甚規模
ありて自然と名物の質ありて書に説く
葛城郡ハ屈る山中にて風俗のかたち古く時
の寒暑も表郡ハ山より暖にして和なる山中
ハ是亦各別なり

大和國圖

大名七人居ル

河内

當國の風俗ハ上下男女おしなへて気柔にして譬ハゆ
きのあしたの庭前の柳ハ枝しけれともえたハ折
ることなきか如し然れとも士君子高尚の人ハ
強き気ありて他人を惑はしたくも心高き上にハ山城
ほかなれハ下ハ河内南部和石川の郡ハ智恵あ
りて気直にして只河内の気ハ何とかしく卑劣
なる風もありとそ
當國ハ東南山にして田地狭く水田多し中ハ郡の方

開て海氣を入故に温和にして風俗柔らかなり
是によし暖氣なれども但和泉の下郡の人の氣
直なりところあつかうの南朝の忠臣や楠氏の如き人もあり

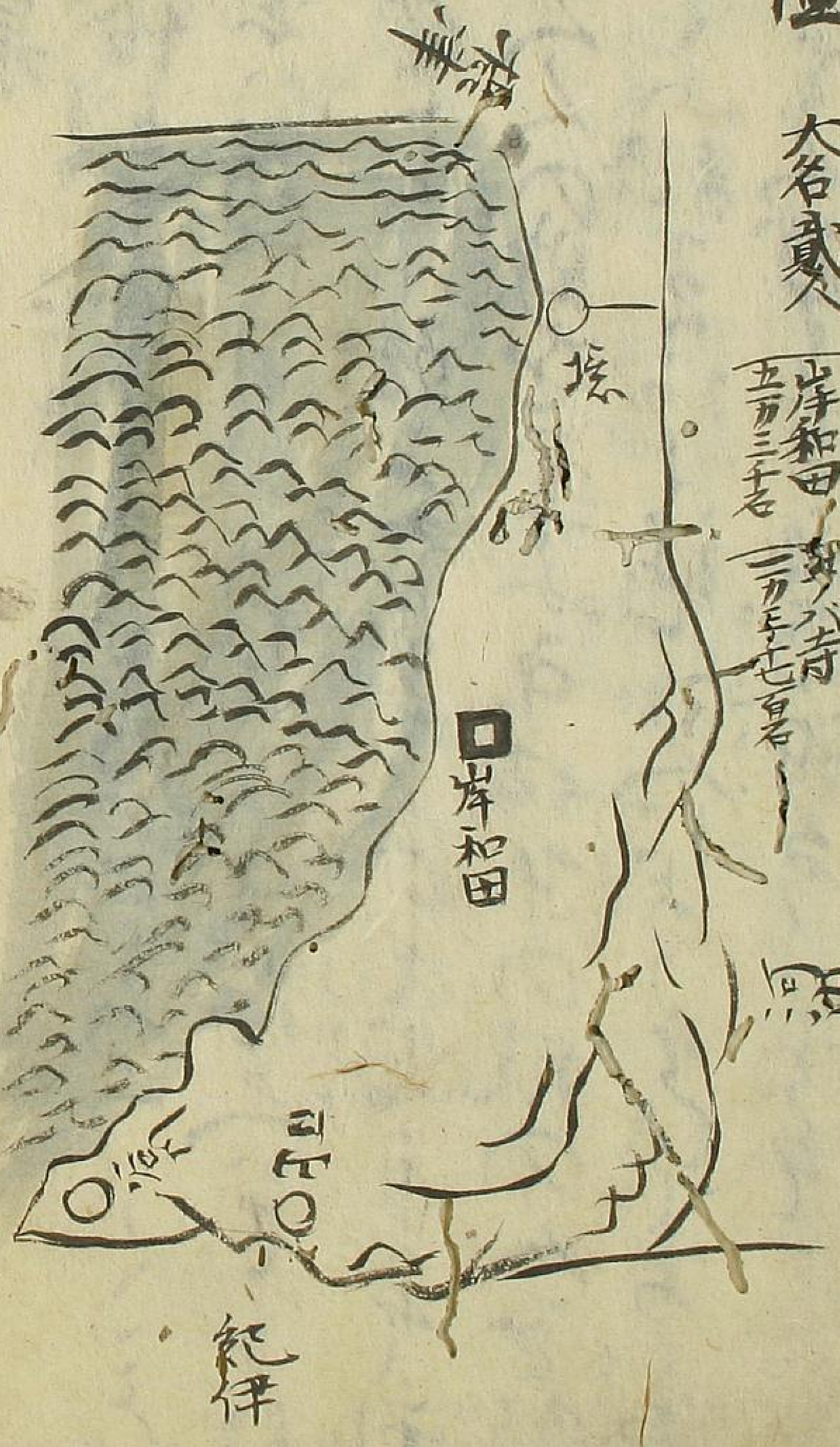
河内國圖

和泉

當國の風俗至て實義なりし古風をうつくしくこれ
れをも庭意にかつて用ひられさるすたれたへいせらかれ
うすき利力のことく強工商家町人の風俗にして利
ふかきゆへ人の財を奪ふす坂東の風の人を殺
害してうまふ熱るにはゞ諸て人によりそひてよく祖
せ流よ世ちへ人の交をさぎ欲ありすりとそ
一 摂の南は東よる北の海濱あり國中の市にて
もう良き方の用ゆ取書の下にふ實の資は海濱

草ふ數や殊ニ塩の地不浄の地ハ文間竹刀
なる人も出たり上手なるもあり

和泉國圖



摂津

當國の風俗ハ大坂山城ニ似たり殊ニ武士ニても
町人百姓のうちにも武藝を勤とのへて其意根
浮世利口の為に只子風ある無益なの事を詠ならひ
筝に男楽をも画しまくりなすをいとうてまれ紙まて露
しくの賊を捕もしむるや國中あし北郡と律条やまき
も謡ずすゑし志られて国風の見れたる事も力強く
うしたる和ハ城一の内の事られなて江戸の水土俗今もて
國られ文武をすもあるよ地て京師屋停の風やと

太名五人

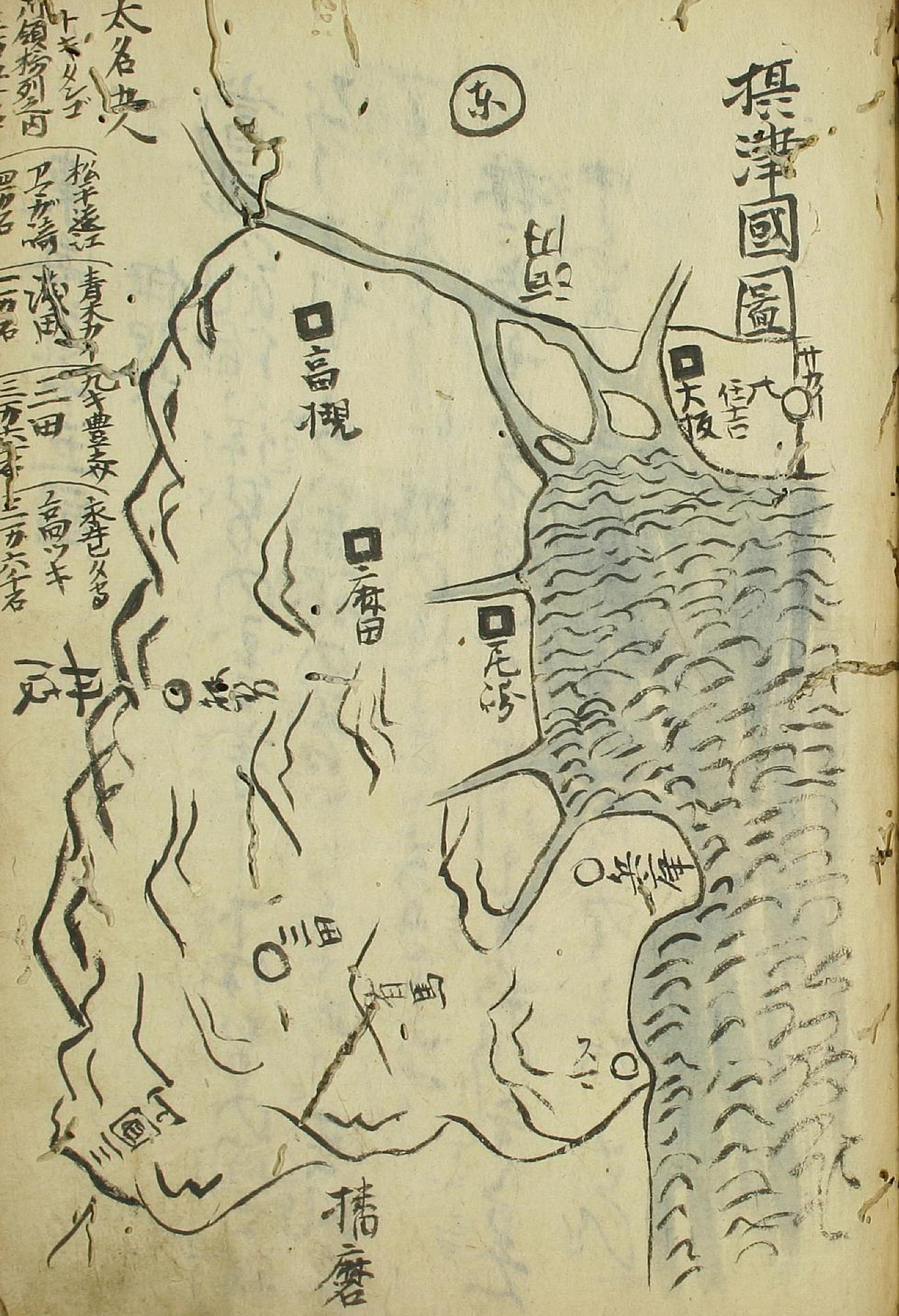
所領拾列之内 三万五千石

松平遠江 アマガ崎 四万石

青木甲斐 浅田 一万石

九鬼豊之守 三田 三万六千石

永井日向守 高ツキ 三万六千石



津とハしるそれ

梅ニ東ハ山城南ハ海濱を請北ハ皆山なり難波

津ハ古より八津集會の地にて時を異路吉

わきふ土あり古書五畿の民俗是皆海濱

朝會の故や北ハ豊嶋郡能勢郡有る郡のみや

是等ハ丹波の国に添てこそ風俗も海辺とこそ

別つされ此国凡ハ市ふられ候而運送の為

を醸せる商賣の利助を第一のるまる下

民ハこなまつるれそう

東海道十五國

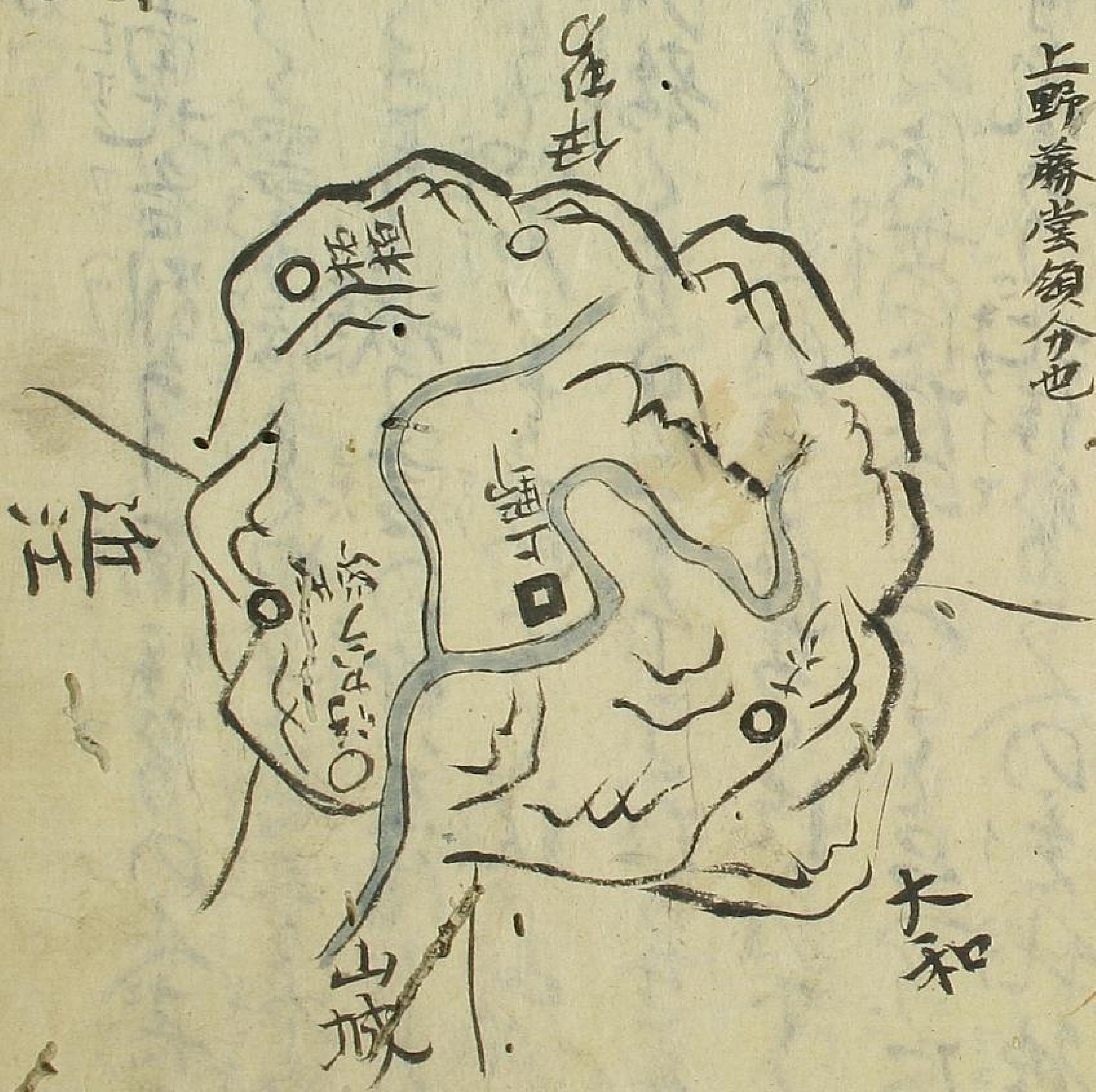
伊賀

當國の風俗ハ伊勢のまゝ等し下伊勢の國に詳なりされども少ハ意地の吉ところもあり芸風なきてい專として根の遊ぐるきところきとなり按二南お隔方路山多して川も亦おほく宜しからず中ぶあり民俗女書の不流守もたらさん

伊賀國圖

（トヲカイトウ十五カコク）

上野藤堂領分也



伊勢

當國の風俗南北各別なり。南伊勢の人ハ其心入を
若ち行たる器量らしくやかて其上をかくれの色
がりをしたるごとく詞の末に言の衍ハ志信しく儀の
分限といへとも心底ニハ一ち欲多く親子ハ猶さら
兄子ハ親の恥を方みてたるまきもや
侍も人をまたなく下人ハ奉けなくにいひ下人ハ又
主の為名の世にたのしむこと第一にたてたるハはた
のゝかさらきれなり。北伊勢ハ人の気強く新口も

おのれも是も譬言ハ下化を郷まて作り上ひ懐って在
ざる志られハ下地の土からく作り上ハちるゝまさ
つまれも元来郷まの所や約を遠めれも
赤名すゝ程の八あや婦人の形花ハ上方なる京
南国と並ぶ一なりとそれ
桜ニ南国ハ大底海濱にさまり但南勢ハ一面ニ
山なり川も有ずし寒暑ハ暖なる温和
なる故ニ民俗ひ書に詳なり土地軽く浮
風俗也

伊勢國圖

太名九人

藤堂大学頭
安濃津
三十二万三千石

同大学亮
五万三千石

松平下総守
桑名
十万石

土方内匠
コモノ
一万二千石

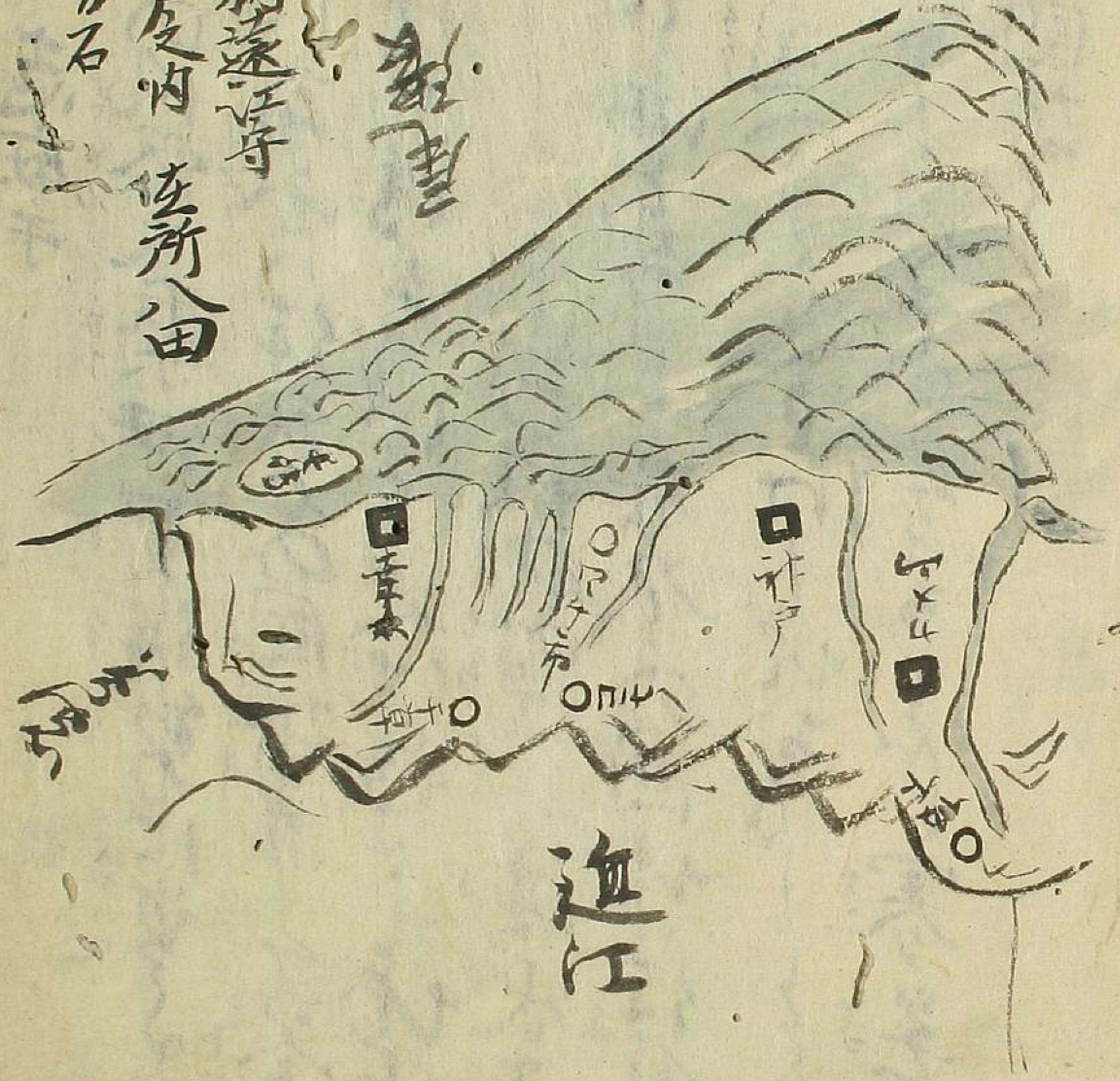
板倉相模守
カメ山
五万石

増山河内守
長嶋
二万石

本田伊予守
神戸
一万石

有馬兵庫頭
四日市
一万石

加納遠江守
神戸之内
一万石
在所八田



志摩國

當國の風俗大槩伊賀伊勢に似るなれとも殊に南東ハ伊勢の國續にして東南志摩海ハ海中の嶋ありて此嶋も此所にて一國をなしたれともいつれの時よりや荒涼なる岸辺なれ大かた海にてあれハ尤此の國地ハ伊勢の境内な當國へさきまたけしにおほしけれハ風俗伊勢に紛ハしきもの多かりしか寒暑も暖氣なる國なり

志摩國圖

太名壹人

稲垣摂津守　鳥羽　三万石

尾張

當國の風俗ハ進むの氣はやくして花を咲かせて
有ながら其言方ハ隣國の人にも似かよひ人の上を判
ずる作て一向に我意をつらぬかんとし人の善ハ滞
秘悪ハ揚の数々をし又万事根の負ざる事なく後ニ
大風流の儀あるハあがりごころくすむなるく退去
とするやうなる所ありてかごとき勇氣ありてきびしき
所あれども伊賀伊勢志摩の三ヶ國合て一度よそてなす
古より来たれしきこと又へたる下劣の人危理ありかこ

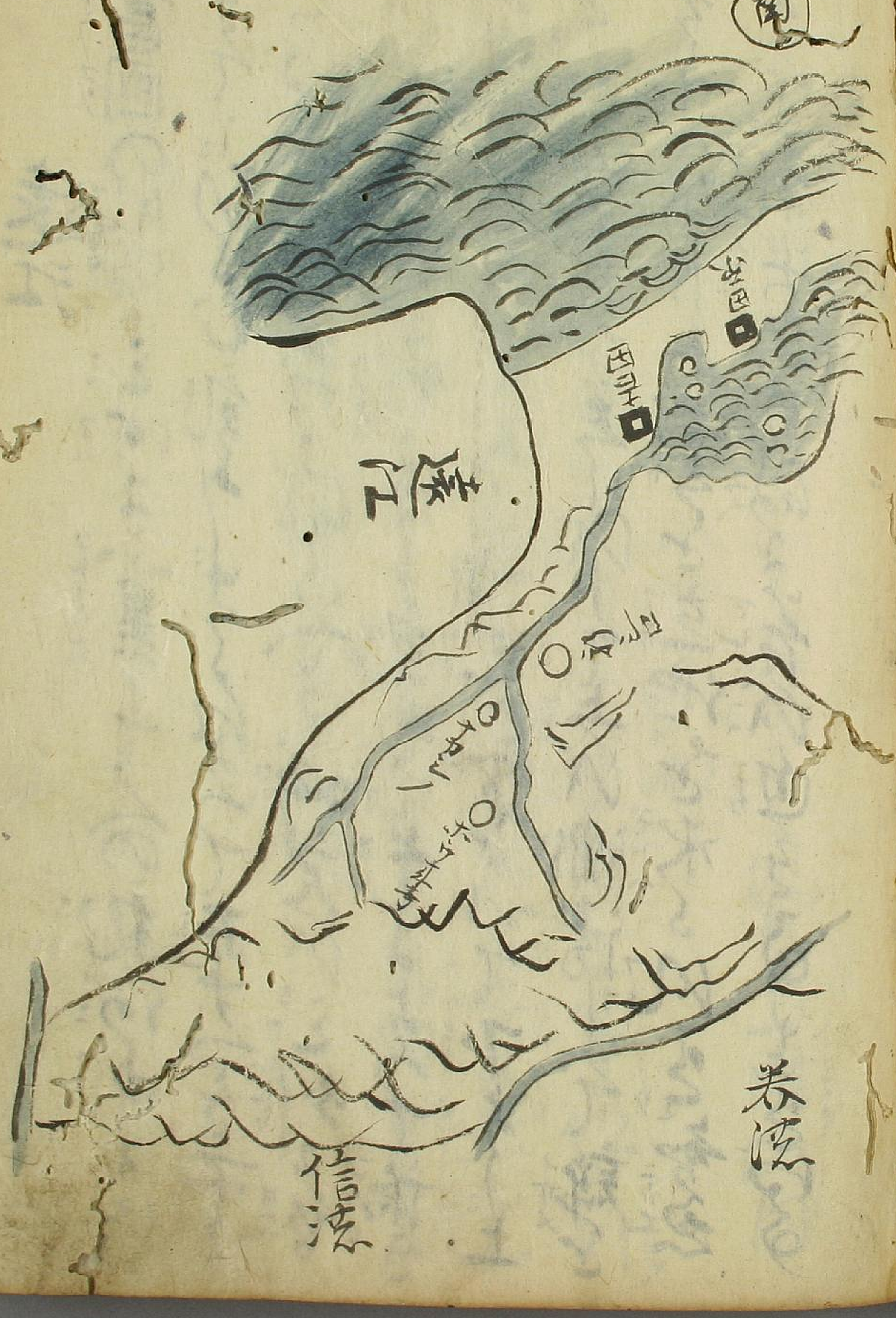
くなるやまひへ湊又一揆を発す事も古今これあり又
うぢるる氣すくなく故ニ万事実の人も出来や
又惣をみしても早やく是ハ懲して改るの人もまる
然ハ中の風俗の國とさへし男の言語をまことやうげ
てよきまでありとて
按ニ南ハ南北長東西狭北ハ山なして一國多く
陰地あり南ハ海浜おゝつき暖氣あるもの多なり
一國民巧才ある風俗ハ土書に詳なり

尾張國圖

参河

當國の風俗氣勝れて人の長すゝ七八のひまて其言語いやしけれとも實義ありて真の約して違さるゝすなし親子の間もたがひにちがひ虚談せさるすあしされとも偏屈にして我を立て人の言ひ事をいれさる也是によって今日のすゑのまゝ是あり武士の風儀若ゝあつて世とけるゝ恥とする所なり

抑ニ東西北ハ山南ハ海湏にて其ひろく午



原曠野おゝし寒暑温和にして人の心寛大
なり南は海も北は山中に少異あれども風俗相
に不乱れなし

参河國圖

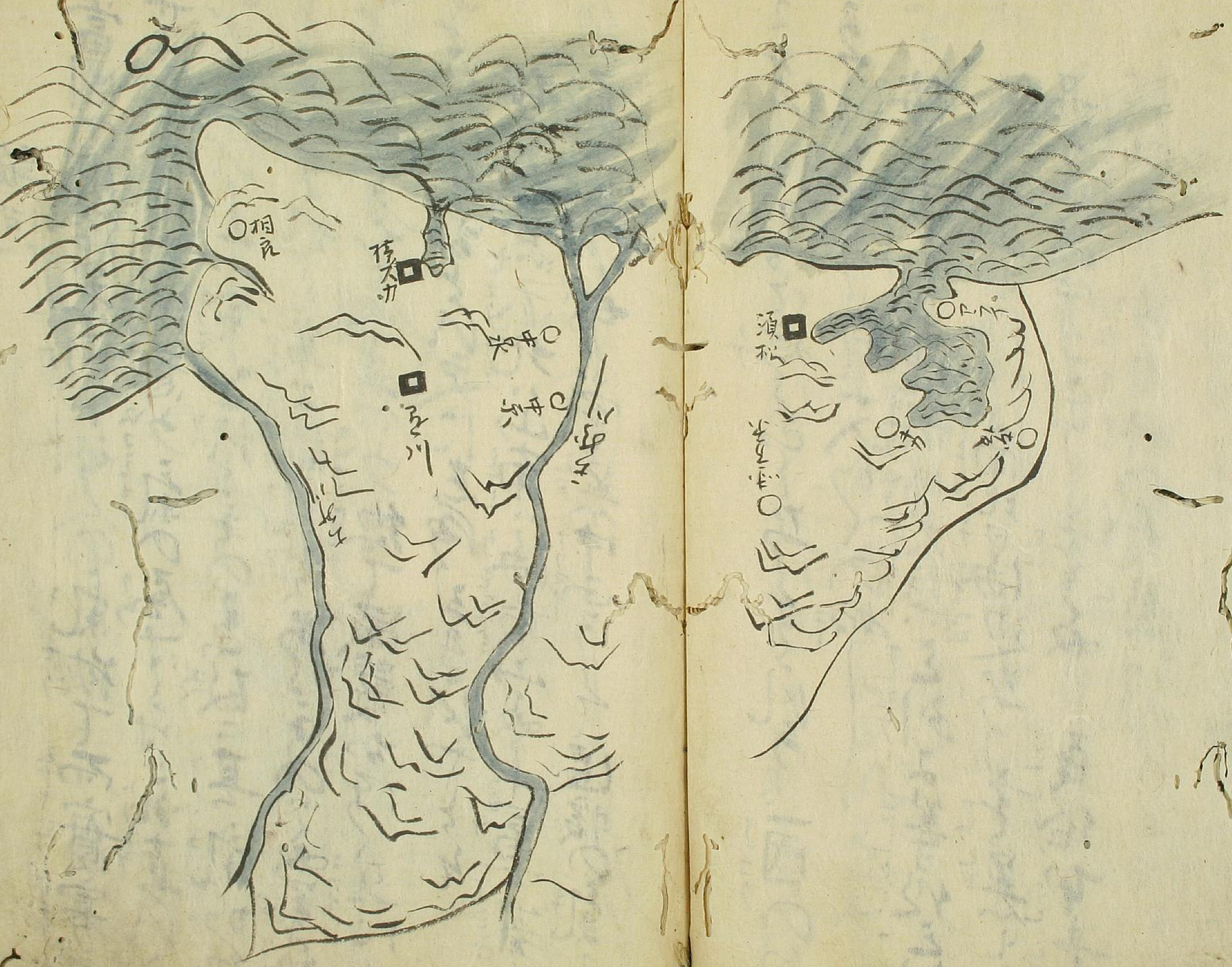
大名七人

水野監物	岡崎	六万石
松平豊後	吉田	七万石
松平ヌイ	ヨクトノ	一万六千石
本田兵ヱ	コロモ	一万石
三宅ビゼ	タハラ	一万二千石
ミウラシマ	カリヤ	二万三千石
奉アハチ	西尾	二万三千石

遠江

當國の風俗は三河にくらへ異して人の氣ゆるやかに
こまやかにひろむ氣ありされはとて死すへき所を
ものにそむかずあなとれは人と論して其に劣らぬ
たる所を挑と形にする氣あり其まゝにて諂き
ありされて人の中あり唯己が智をもつて下より上
をもうやまひ自をたのみて上を誹謗して謀を
なすもなくして黨を立他を求る風もなく智恵
ありて氣尖なりたる故に首は迎さるゝもとゆる

すなはち以て延るおとなしく其氣つよく風俗なり一國の内
にて東よりて一入かくの如し
按に當國は土地東海道大概三分に等しく三分
よりも山おほし南は白海辺なり寡悪して
所よりは山中へ入まゝに安し民俗卑賤
に詳なり自然の氣質なり



遠江國圖

大名四人

松平イヅ
濱ミツ
七万石

小笠原イキ
カケ川
六万五千石

西尾オキ
横スカ
二万五千石

本田越中
サカラ
一万五千石

駿河

當國の風俗ハ老若男女の氣大りて而實寡氣
せざるゆへ伸意の氣の屈する付ハ直る
事なくして命を終る其の故ニ其氣かた
くなれども常ニ諂氣少く あるものハ多く義利
を見て事を立る者ハ少 惣て威嚴なく互に人
をいやしめおとしめ更に志厚きことなれやそれ
東ニ西ハ相模北ハ山南ハ海最山多し富士の峯を
負て其の多し其中に居して温暖の氣あり

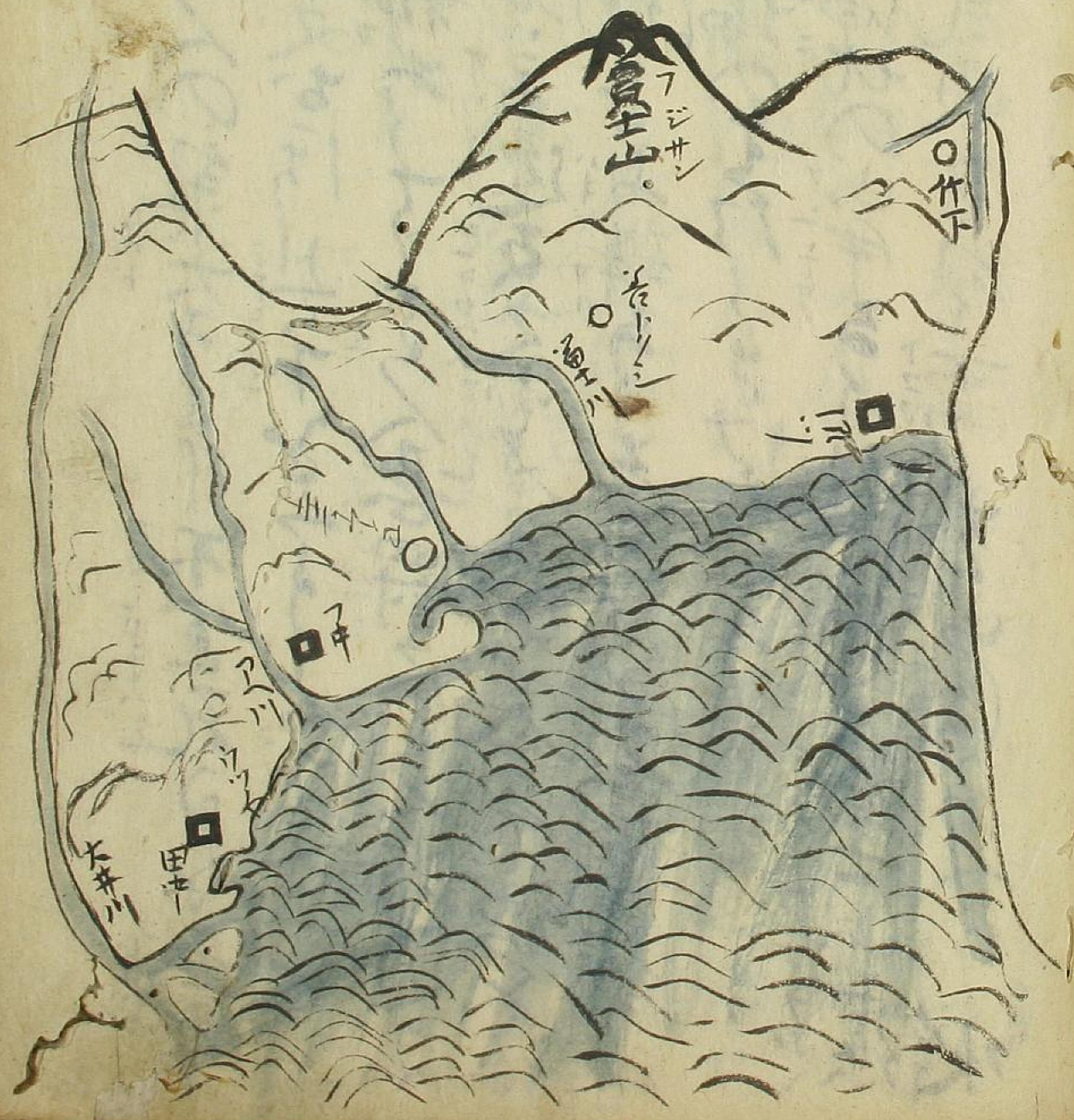
駿河國圖

大名貳人

本田伯キ 田中 四万石

水野出羽 沼津 五万石

松平源之丞 小じま 一万石



甲斐

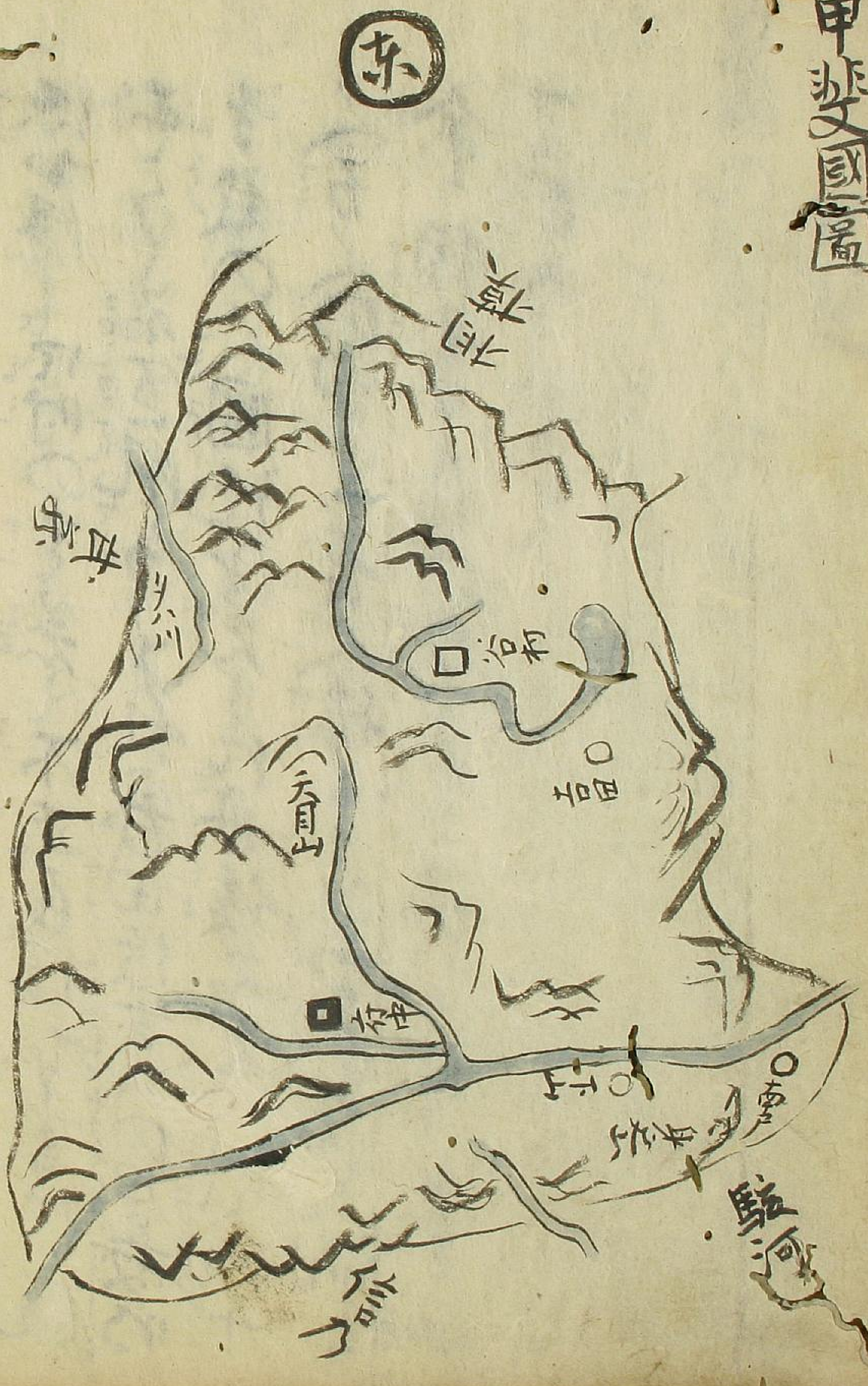
當國の風俗ハ人の氣尖にして不宜死する事を不厭傍若無人の事おほし上下をさらずして父上をも殿下臈に至るまでも人喜罰之人非道に下をけなし大なるハ逆反之小なるハ怨を含で讎を報ず惣て道理をも辨へず志るゝ喜隆勇にて死をも顧ず戦場のおくれをとらずとそ梅ハ南ハ偏北の山中なり勝る南に富士山霞て一点も乱のうれふる心も山はなれ水

源おほし此時の意を恭も不正民俗也甲州に説おもしろく不宜風になされ武田信玄の白最明寺殿の人國記を見るに丹後又の風俗に人万人の中より若人稀なると流る余が預王甲刀劔の民も是をかくて一ッなきふ宜風なりとぞ。

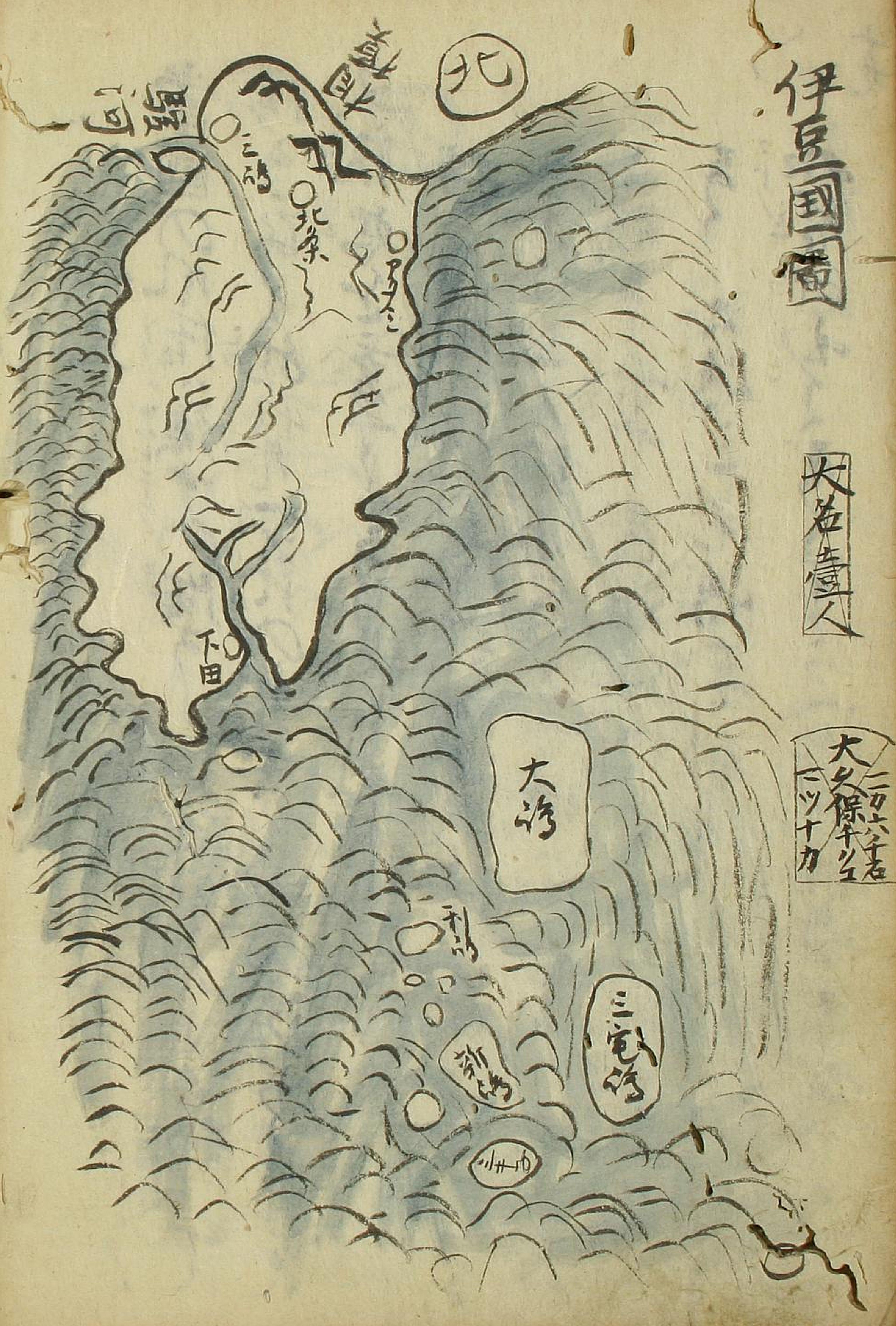
伊豆

當國の風俗ハ張中の隣にして氣ばやくして不都て
清キなり然れ共一旦の氣すこしの遠かまへて
又訴怨を重んずることあれ
梅ニ南國ハ駿河と相模の間ニ在海中南へ指出たる
所なり三方皆海岸にして中ハ山谷なり氣候
ニ暖なり然や民俗偏境なるゆへに萬事一節
なり大將ニ宅ル其外ニ遊女并八丈島の
如く皆山中ともにすむ人民風俗各異なり

甲斐國圖



伊豆国図



相模

當國の風俗ハ豆州ニ似たりといへとも人の氣ま轉變
易き所あり大形ハ縁を求て親をなし心やすきまて
眤し人にも時をえぬれは勢ありぬれは忽甚人の
非を揚て謗てあり権柄とある人をハ悪ニ掩て様
誉れハ飲食を好て栄耀を事とする事とそ
されハ十人ニハ九人ハ如此也其外ハ被官のやう
ちかく芸能に似て似つき着とするもの
もたるハ是とて仰る被官となり被官ならぬ人とある

を恥ざるの風あり智あれども却て智に迷ひ義を知れども却て義にさとりとぞ

按ニ南ハ山を負海を抱所ハ風土異なり故に気も異也又別ニ鎌倉の如き海濵の異なる平世なり箱根ニ嶺の山中ハ気も多く民俗大に文書の不況不爽但海濵の所ハ濱風又多し

相模國圖

大名貳人

大久保テ八 小田原 十一万三千百廿九石

米倉ダシ 金沢 一万二千石

武蔵

當國の風俗は活達にして氣廣し譬へは和銅の器を過て損ずる時は其器恐怖すれば真王都て是を厭ふも後悔の氣色なく其志を常て倭ば深くまた人の風儀は国家戦場の利をも知て敗軍をも入るゝ敵て其爭を不慮して改て数乱の兵士は集て再會戦の志ありて乱氣をも家にも氣にきくゆとも八雲洞の差とも入るゝ家てひらゆる時をも[illegible]とも敗軍の後再切

をもる時との一丈ひらく[illegible]て氣て利きるの時とき一けれ一條をけれ計は云を以へとして又氣廣成り乃孫の氣風ありとそ

按に南は武蔵山原林に海を受廣大の国なり古昔は武藏中として勝東都[illegible]續て自ら人の心も活氣や今江都の立城にして諸国都會の地なれは諸民皆各々都も又大君の風儀をもちて袂又山中の如く本質の古俗や總[illegible]諸四辺へ上那の風に今其宗の中央の風餘をも移して四辺の風にまた

武蔵國圖

大名六人

安ベツシカミ
チカベ
二万二百五十石

井上トウくミ
羽ニウ
一万石

阿ベブンゴ
オシ
十一万石

永井イカ
岩ツキ
三万二千石

米津テワ
リキ
一万二千石

秋元タシマ
カワコヘ
六万石

安房

當國の風俗ハ人の氣尖なる事譬ハ刃の如し常
に頑にして人と和する事寡なし是を以
て假令の事ても互に論をなして下の足楽
工夫をする事なし其中にも又稚き者も知恵
言語ハ早出なれとも道理あれハ一旦ハ失ニ
於ては武士ハ其程の器なれとも農工商も以
に力量ある事なれとも其後何の用にも立す
心の氣にて作れる所にして堕落するの事ならんや

安房國圖

大名貳人

酒井三千石
カチヤマ
一万二千石

水ノイキ
ハウ条
一万二千石

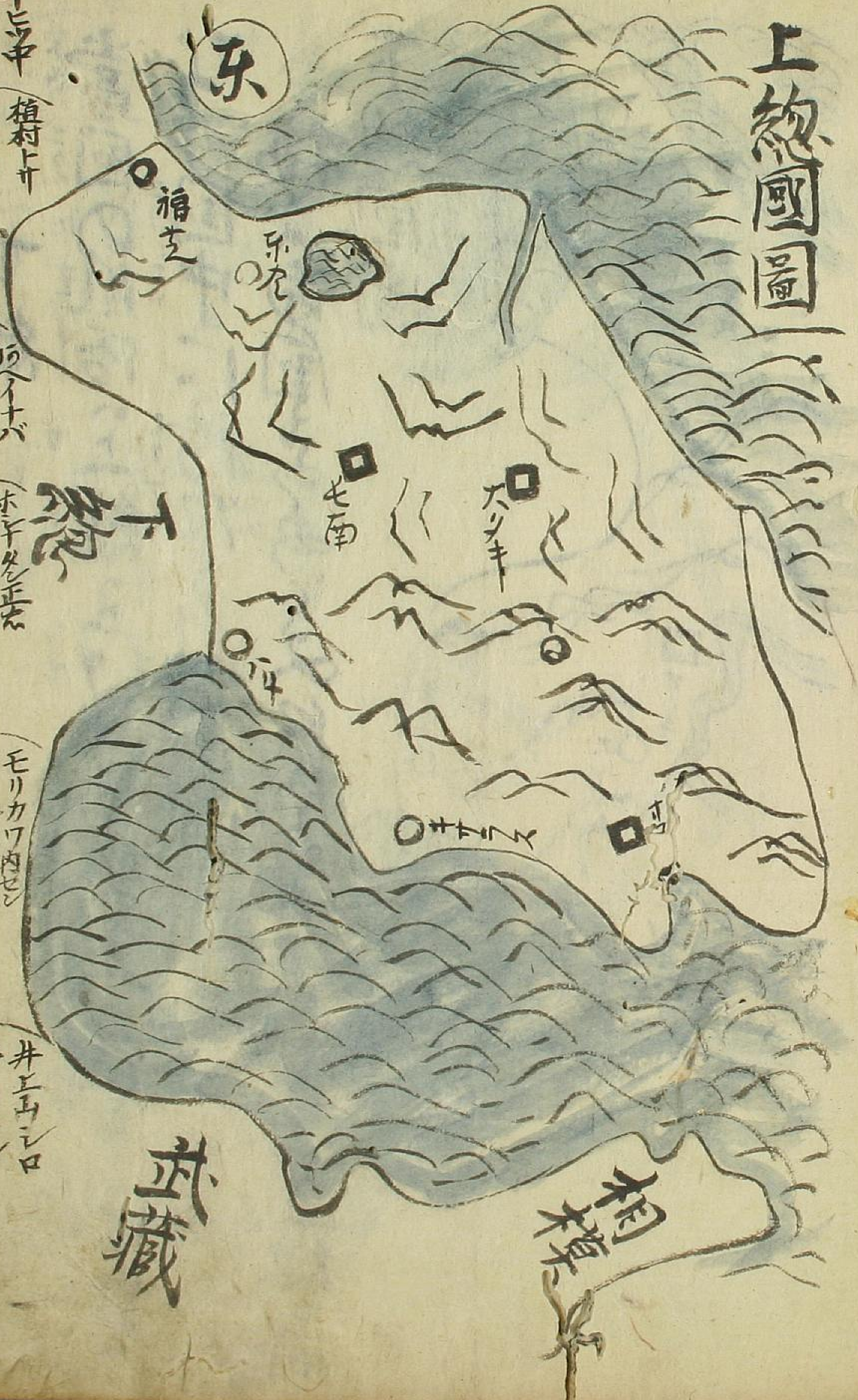
上総

當国の風俗ハ大躰安房国ニ異ることなし然とも此
国の風にして気儀盛なり庶民の所作ハ常ニ賤
夜付をむねとして正道ニ行人ハ希なりされとも
武勇にすくれていさきよけなる事関東二番とさゝれそ
扨又安房上総安房ハ海中ニ指出たり大洋ハ
江海中又山多く磯湖の所にて寒暑太盛
武藝類あり民俗ともに盡と獵ヲ但山部
ニ向ふ者ハ又秀て人ニ亢の気有り

大名六人

松平上中 オタキ 二万石
植村土サ カツウラ 一万千石
阿ベイナバ サヌキ 一万六千石
本多... イーノ 二万石
モリカワ内ゼン オユミ 一万石
井上山シロ テイウナン 二万二千石

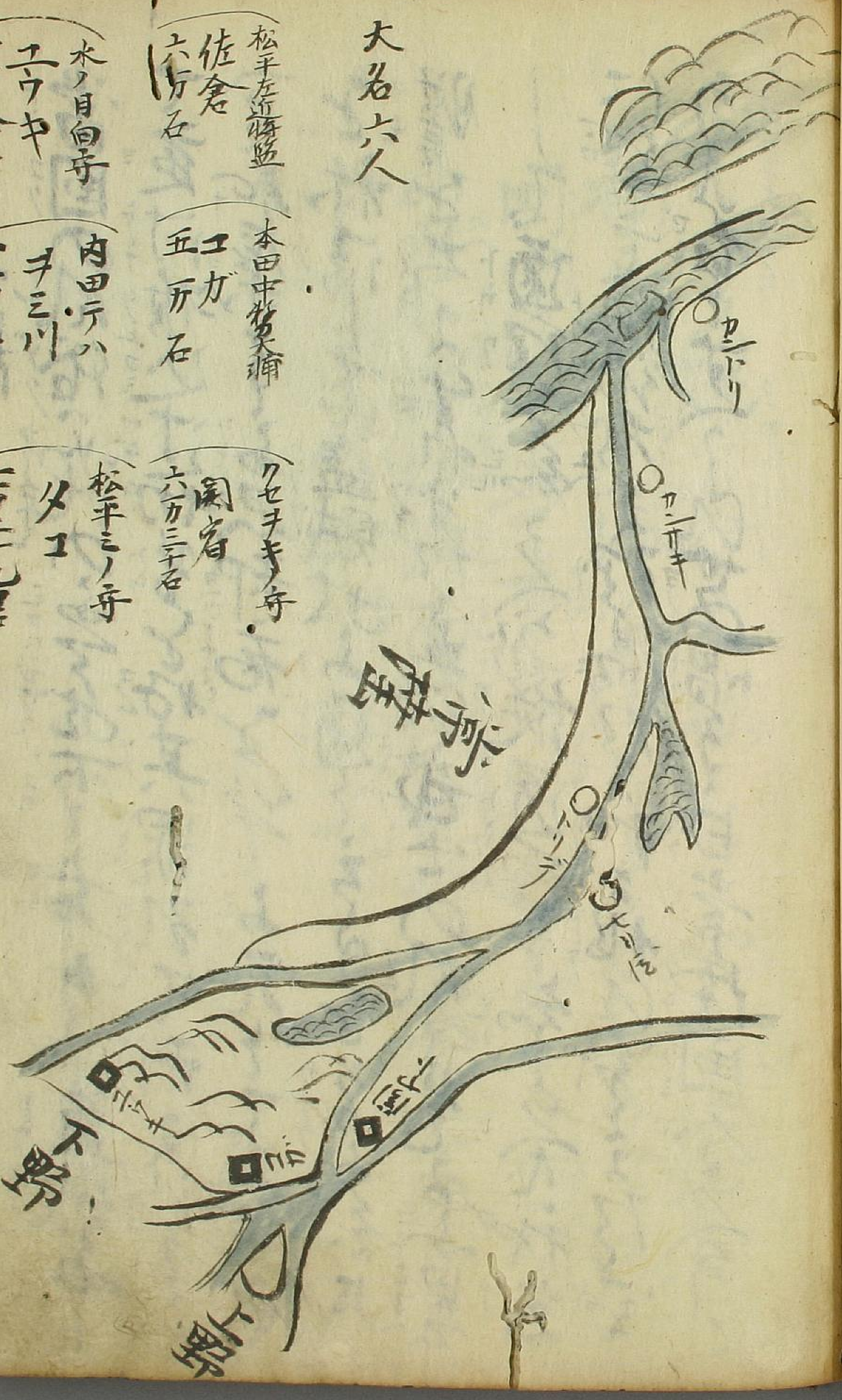
上総國圖



下總

當国の風俗ハ上總に同し絹織の人健なる世質なり国中に賤たる風やさしき
梅は南国に劣らず又山谷もなし名産ハ上總に同

下總国圖



大名六人

松平左近將監
佐倉
六万石

本田中務大輔
古ガ
五万石

クセヲキノ守
関宿
六万三千石

水ノ日向守
ユウキ
一万八千石

内田テハ
ヲミ川
一万石

松平三ノ守
タコ
一万二千九百石

二十五

常陸

當国の風俗ハ此の土地而て希なり盗賊多し
世匪付旅込辻切等を好其家乱れて刑ニ行るゝハ
人ニ恥辱とハ不思却而病とせずして子孫に
を祈りして盗賊ハ不道ニ至るとゝ知るべき
膳をたよれ付たる者ニ武士の風を異
して道理を知る人が縦近理と知て之ハ神者
に任せて利ハ理り行て理ハ根ハ事ハ不ハ家
あり其とすへからず世の唱ゝて曰常陸国今人多しと

此方時日の体方々の前となりし如く気風やされ
梅ニ南ハ東一偏ハ海洋ありて到ニ至り江海
国中にはあつて不同の風土各有ありて大国
の机に山中海浜南北の境地ニ寒暑のうち
あり民俗共に詳なり

常陸国圖

大名八人

三十五万石
水戸殿

シン庄スルカ
麻生
一万石

松平播ノ
府中
二万石

土ヤ左モン
土浦
九万五千石

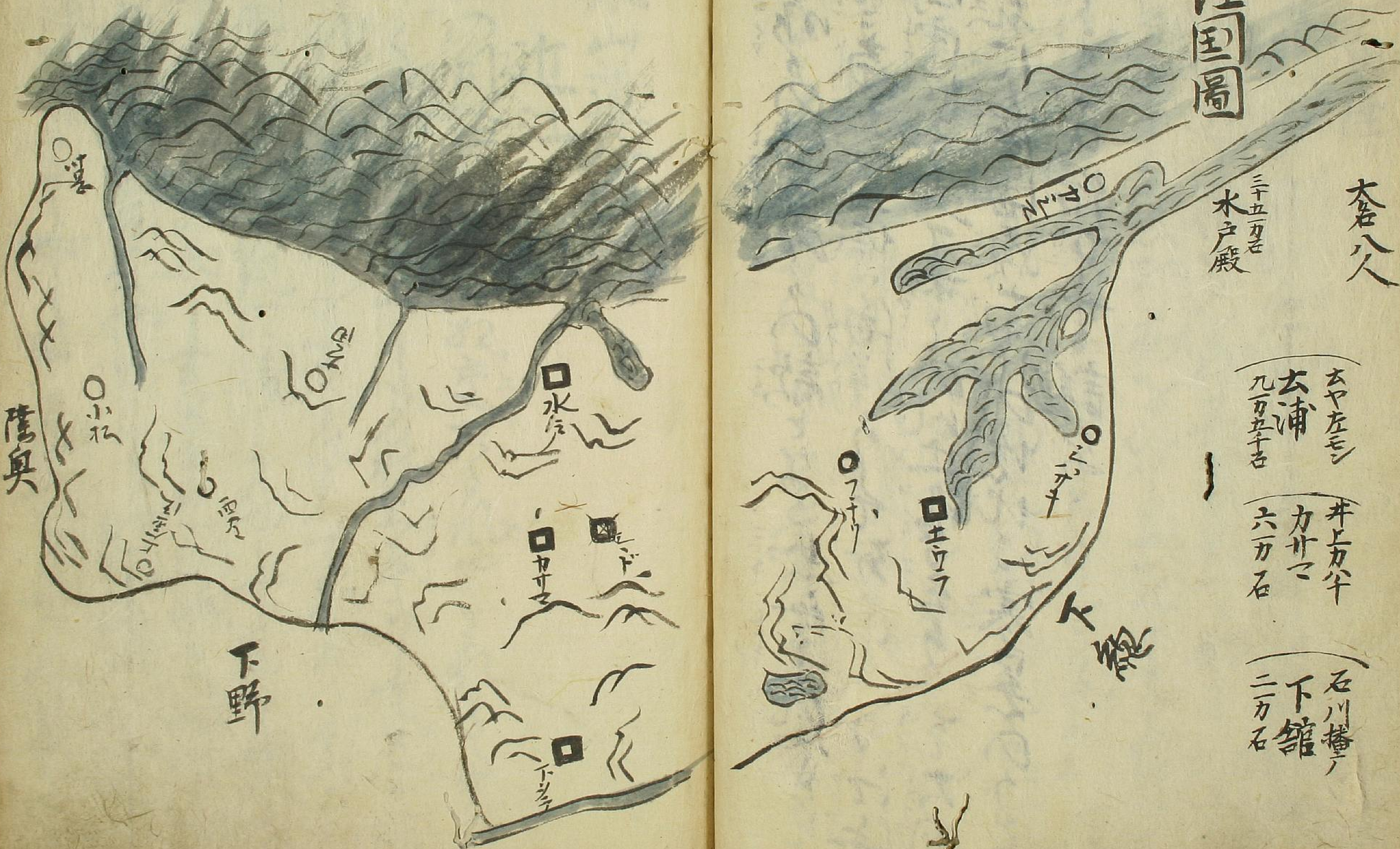
井上カ斗
カサマ
六万石

石川播ノ
下舘
二万石

松平三キ入佐
完戸
一万石

ホソ川玄バ頭
ヤタベ
一万六千石

山口修理亮
牛久
一万石



東山道八國

近江

當国の風俗ハ賢佞相交る風やされとも賢の方ハすくなく佞ハ多き也心地上手にして己か非をかくれて善をてらふ者なれハ外より是を見れハ此国の人ハ他国の風に勝て見ゆる也是を譬に金の如し又金ニ品多し黄金も白銀も銅錫鉛鉄皆金にして名異性異なり此国の風金の如しも金銀すくなきか如し故に佞の方多くなりとや賢も

近江國圖

大名十八人

イヽカモン
ヒコ子
三十五万石

トウサントウ
八ケコウ

イーミノ十六
ヒコ子ナンゼン
一万石

市橋井キ
ニシセウド
一万八千石

本田主ゼン
セゼヽ
六万石

二万石
分部葉
大ミゾ

カトウ孫三郎
水口
二万五千石

小堀伯中
小ムロ
一万二千石

稲垣アキ
山上
一万二千石

堀田大和
カタヽ
一万石

増田テワ
一トウ宮
一万石

エントウタジマ
ヤス郡
一万石

依て其才のさかしきまゝ〳〵なりけれハやさしく
桜に南国ハ山中多中にちかきを憑て聚落
会集して大国ろく南北東西風土少異なり
北ハ北国の情きおゝ烈雪原万亦偏僻なり八
音振ふれ南ハ南国の都あり乞を是も共化て
言こゑくも風文まけし民俗も書備れり

美濃

當国の風俗ハ人の意地奇麗にして水晶のごとし
されバ水晶も磨されハ光沢なし磨ハ則光を
やどさるごとく生質水晶も奇麗にして甚よく
すでに質朴にして呆なり此男女ハ風儀柔和言語も
風流にしてやさしや東西ハ生得の意地や目出の
凡下五ケ国の外風俗なり唯生得のまゝ如在
直にして哥男なるも聞え有此等の風俗
総様を磨ハ名高き人もおほくて万の法則となる

飛騨

按ニ當国ハ古国にして北東ハ山深く郷すくなし
て南ハひらけ広京水田多し木曽飛騨ニ
流く甚大ある流来て川境多く衆の
合流して伊勢の海ニ流入北国ニ
おもむく南ハ自由にして風俗切ニ従ふ
直なる民俗なり北岸ハ大論退の比多
其民多鄙俚本質や

美濃国図

大名六人

松平但馬守
高ス
三万石

戸田左近将監
大垣新田
壹万石

遠山和泉
苗木
一万五百石

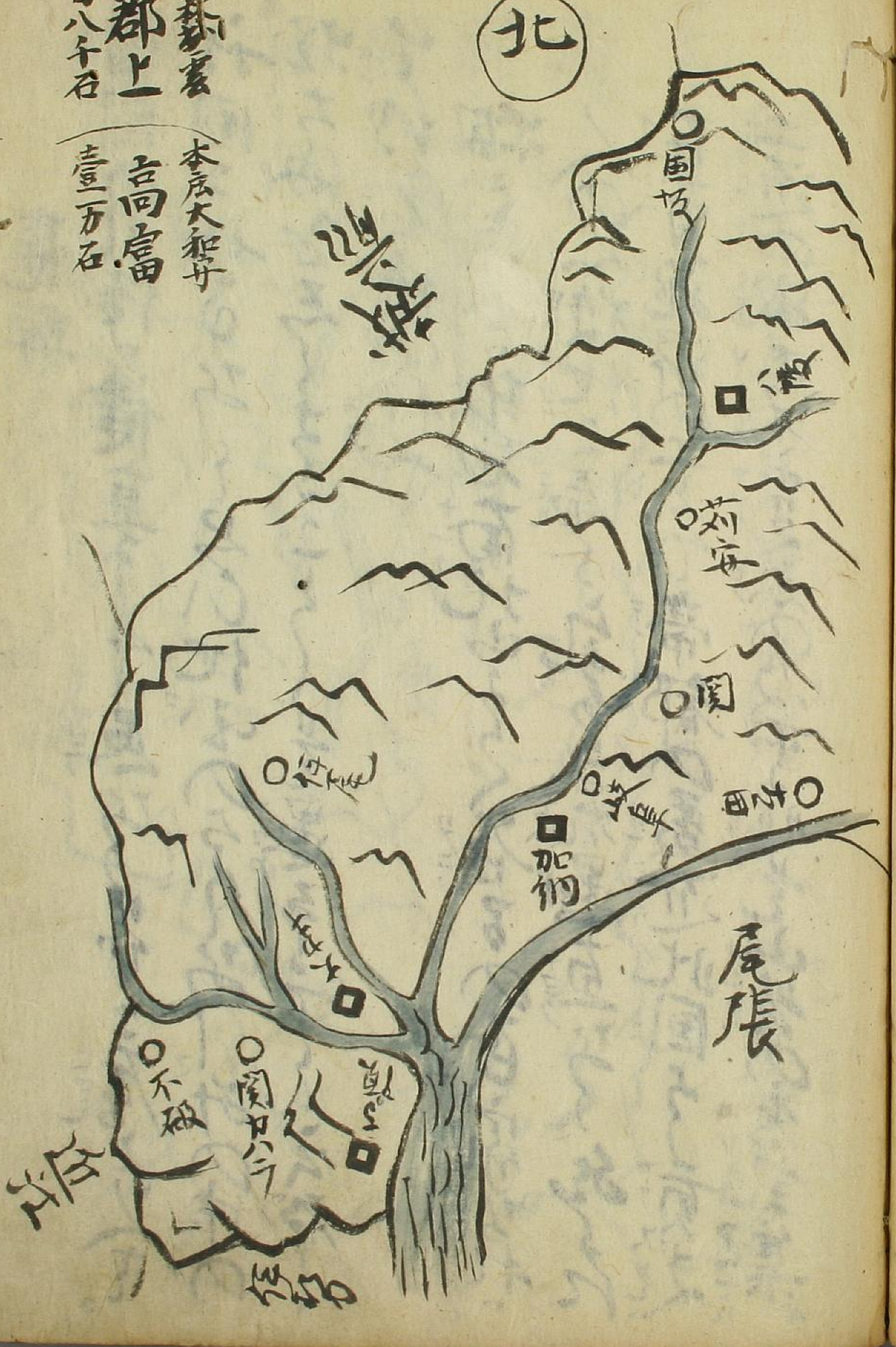
カノウ
六万五千石

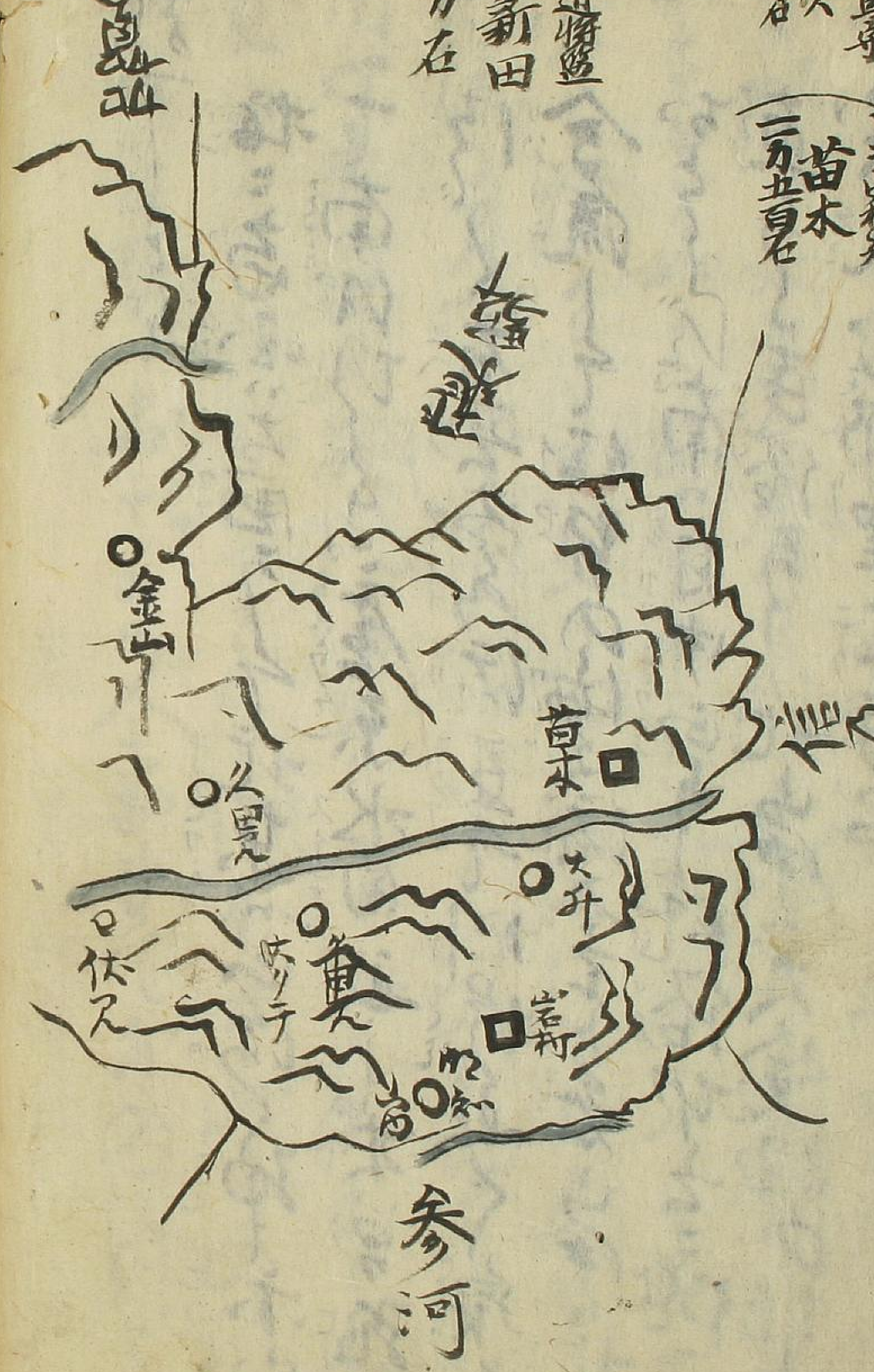
松平イト
イワ村
二万石

戸田イセ
大カキ
十万石

金森出雲
郡上
三万八千石

本庄大和守
高富
壹万石





飛騨

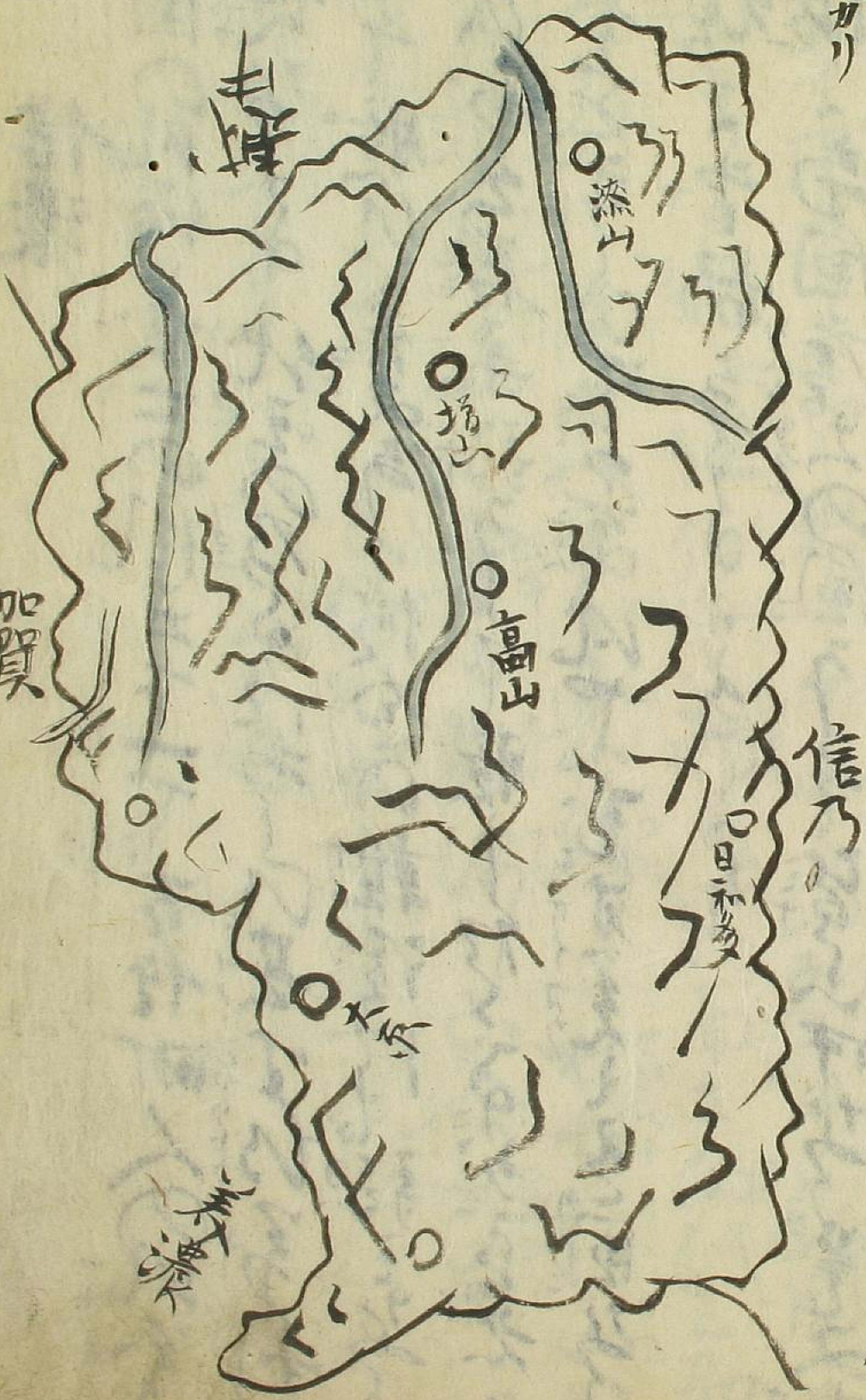
當国の風俗ハ健直にして愚なるやうに廣とし人たり我国ニ如るものと見ひ他国のことなしみの中の蛙大海をしらざるがごとし是愚なるものと云べし其のハ石鉄の性なるや

按ニ当国ハ東西南北山ありく谷間の民家なれバ人の心様他ニ漏る気なき故愚直なりと然れ古昔飛騨の工とて帝都の大内ニ此国より貢ニ工匠の職甚才ある足者の及ぬ能を出して其気ニ集ガ

高山加藤アツカリ

故ニ自然と工家の癖を好たるなるべし寒暑ハ左のごとしや

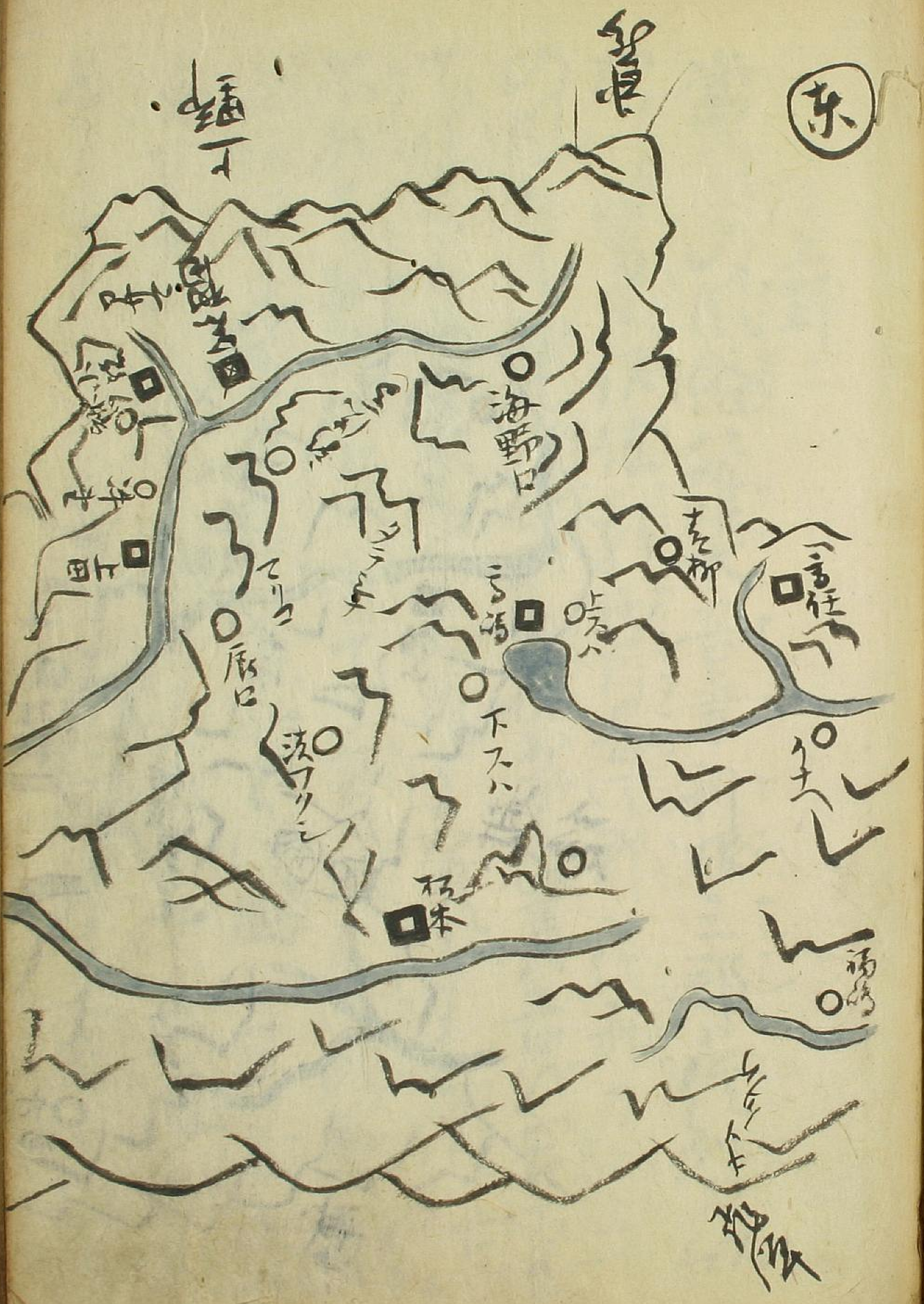
北　飛騨國圖



信濃

當国の風俗ハ武士の風ハ天下一や百姓町人の風義
も捷なるハ他国の及ぶ所にあらじ其上家業に功利
賢して勝れる事あり假令の雑話にても弱きなる
事ハ不言若年弱にして勝れたる事かなはざるに
ハ人気をまもりてよき風や其才覚もある国なり
住民ハ元来中郡なるゆゑにや
梅に南国廣大の国にて皆山中なる所也
然なれバ古より武士の器量を以て信濃

諏訪木曽松本飯山各この風をうけて寒
暑亦各異なるや然して寒の烈しき事北国よ
りもまされり但伊奈郡辺ハ南に向ひ三河
越後に隣ゆへ寒暑緩し松本飯山ハ
取分寒気多く雪も積深し又ハ北国に
かよふ所なり民俗もかくの如く異なれバ
しかしながら書にも大概ハ不遠



信濃國圖 大名十人

真田彈正忠 松代 十万三千石

牧野内膳 小室 壹万五千石

本田イセ守 飯山 三万五千石

松平伊賀 上田 五万八千石

内トウ下総 岩村田 壹万五千石

諏訪イナハ 高嶋 三万二千石

内トウ大和 高任 三万三千石

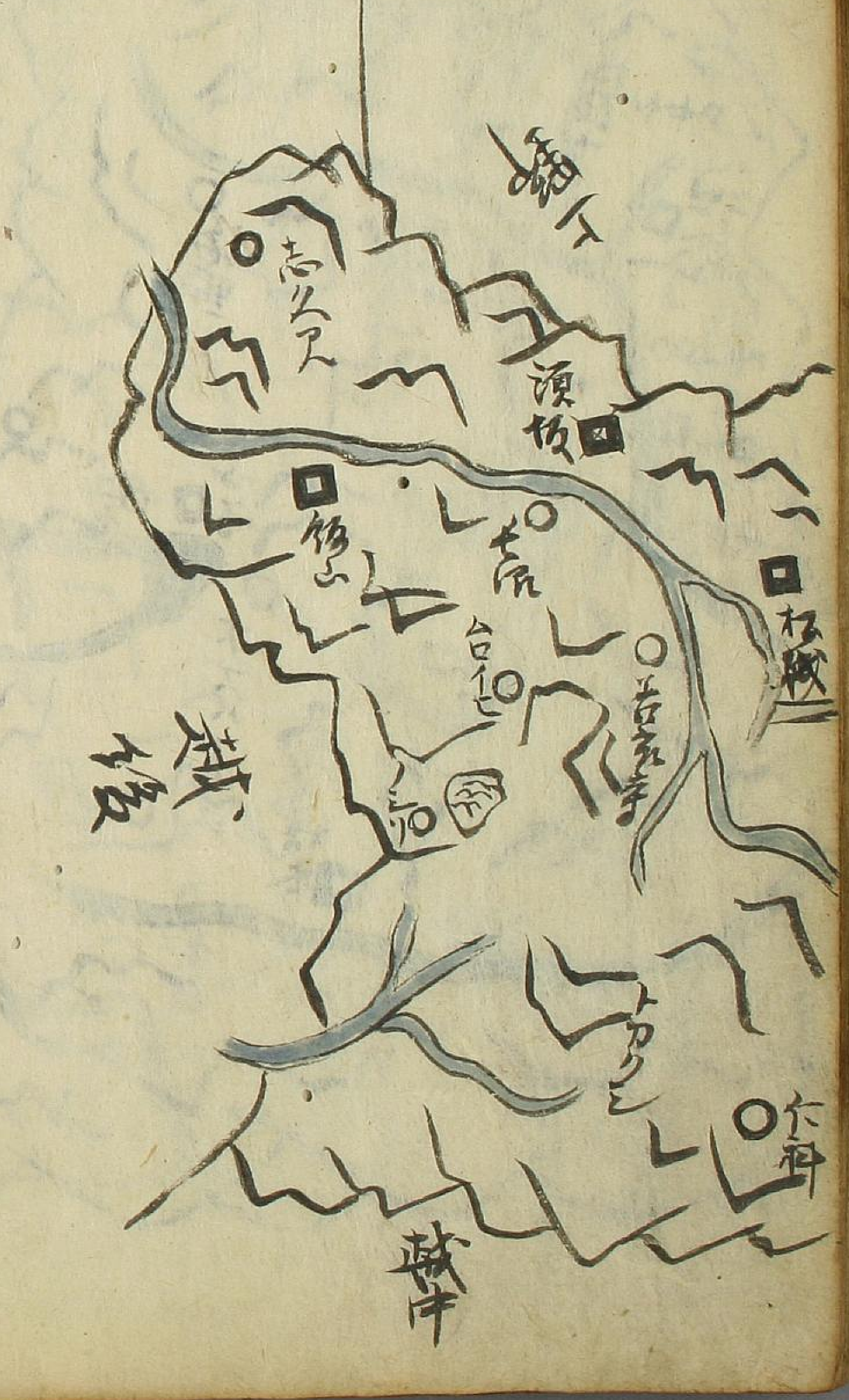
松平丹波 松本 七万石

堀三ノ守 飯田 二万石

堀アワチ 須サカ 壹万石

上野

當国の風俗ハ碓氷吾妻利根三郡ハ信州に似たり勢田佐位新田行邑郡ハ信州よりも上ての風ありと然共法令の気質ハ譬ハ吾ハ容をてうしなふ事に於ても尤罷よなるまき信州ハ不私あ義をそれぞれ守て気ハ不屈なる恥ハ雪志行りて実在も出来し遂くけ国ハ二三ヶ所ヨリ結て和利ハ得ハ別を以て寄をやうの気質を志うる更へ志ゆりかり又邑楽郡群馬甘楽多胡



緑甞那波當ゐ丸ね郡ニ一氣勢ありて一人氣をもちませんといふよりて一黨する亂流ありて手退人とかゝんずる氏やとそ梅ゝ南国ゐ山谷多く甚古国ら流ゝ深ゆ人気あ赤おに山入の不と喰但要害の不きと。堺东の国の中ゟく此所ミろく広ちりて開たるにもきゆへに上手のもとミろや山入ゐ路ら烈し民俗お書の不忍のごとく人心堅固にアを能に上列盗と洗さし云つるんこと北まで語

宮の齋釜は集れ猥ミ人を殺害するありの凡ありて世人是を恐あり是皆勇氣の過るゆへならん今は海畔年ありて人心皆善ゑ向ゆへまや彼盗賊の風ゝ改りて此国の生れよろしくなりてぞ見へたり

上野國圖　大名九人

前橋 酒井 十五万石

松平右京 高サキ 七万二千石

前田丹エ 七日市 壹万石

太田ビッ中 舘林 五万石

松平中務 日野 壹万石

酒井信ノ 伊勢崎 所在 二万石

才タ若サ 小幡 二万石

内トウメビバ 安中 二万石

黒田ブゼン 沼田 三万石

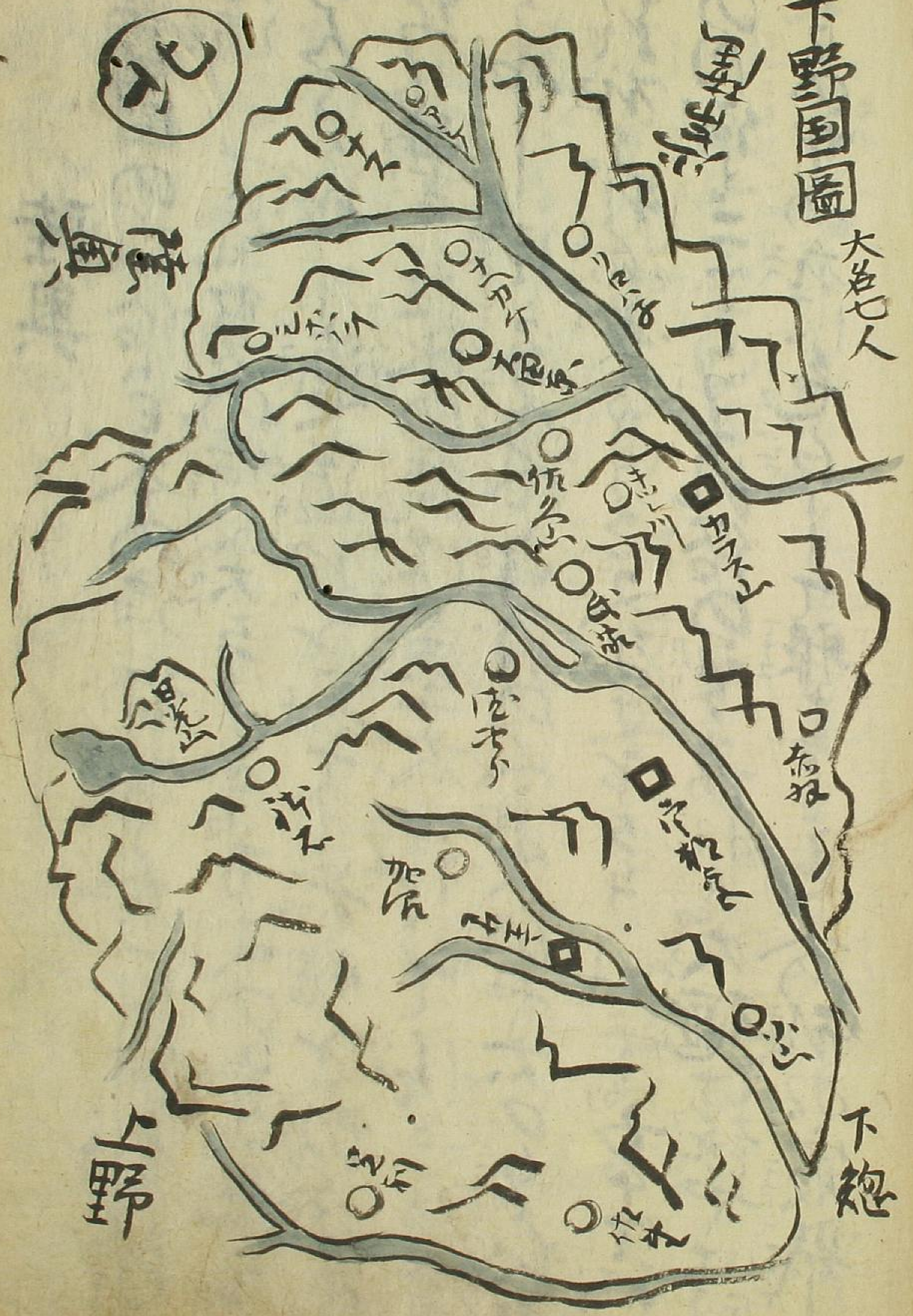
下野

當国の風俗ゟく表の中ゟ富を交ゟる人多して
是ひ隠るゝふ飾して邪気甚僞若き人なり
故に辛世は一切陰盗をしても恥ずるところなし
粉ん俗ゟり志れなくして而も己も知てかゟず
ほら交ろき徳ゟ無き風俗なりと
按に当国も山ゟく陰奥に近く田人に寒悪
民俗も甘鄙にして俚俗を訛つと

戸田越前 宇津ノ宮 七万八千石
戸田イヅモ 足利 壹万一千石
太田原ビゼン 太田ハラ 一万千四百石
大関信ノ 黒ハ子 一万九千石
鳥井タンバ 三ブ 三万石
大久保山ロ 烏山 三万石
キツレ川左兵衛督 喜連川 高十ン

下野国図

大名七人



陸奥

當国の風俗ハ日本の偏鄙なる所にて人の氣行
滞りて氣質の偏尖なる事丈の岩壁をと
なへるが如し適道理を知ても我非を改むる
事ハ譬ハ江水の流常に塵芥積て濁るのことき
が如し周之名人と浮行の人ハあまりや太のまとな
親類ニ於而も少なくして文なきもあるまじ凡も方が十七郡
の内何も二ツ三ツは風俗の替りあれとも大概は頑愚なり十国
は此の中の故に色々にして眼差しかまる人の心は家賤し

て言詞卑劣なれとも勇氣ハ甲斐よりも深くして
周之正直の風ともあれとも但偏僻なりとぞ凡
其の外潔白なる事なり女ハ容貌色白髪長く
麗しき但所は尚鄙すくなくして鄙劣なり然れとも其人
庶の貞正なる者は外の男子なりて続つる化南国及
常州上野下野上総下総常陸等大概人の言語
同子や風俗執るとも甚だ南部の事に
勤め又恩慮なる所の深きをしらず殊に此国牡鹿
郡載閉伊階上津軽宇多耕野の人別て是恩

のあらましなるを如此

抑ゝ当国ハ広大なる故、其の異なる風土までハ甚
化山おほき国や民俗ハ書に詳や。會津
ハ白川より西へ入遠き山谷打續たる国ニて醸
後ニ讓て是も至て雪深き事又北国よりも勝たり。岩城
相馬（相馬ハ相馬ノ守ひらきし此ハ鋭列の邪みろう　相馬次郎師常領此地任在より自ら名と成り、八州の海濱）
より故ニ其おほより八舎ら續し、白川ニ並て松前伊達三春
白石福嶋等の所ハ皆山岸の和氣ありて仙臺
のぬきハ当時盤居の地ニて風俗上国ニ劣らす

奥郡ニ至てハ南部（是又南部ハ甲斐国南部ノ荘より出て此地を領之、自ら名とす）ハ仙臺なせ
米ニ宮城郡宮城津軽ハ南部よりも至て甚風
土ニ随て人心も自別や、松前ハ蝦夷の境ニて
風俗又異なり。猶も書ニ洩らく一偏の鄙
屈なる事ハ多かる事なし。古昔ハ奥の夷と
て人倫ニもふ通ぜ禽獣のごとき風やしニ中古
上国の人君長となりて政治を施すかよりて元
ニ化せられてつゝ人ニ乃の道をも知られるや。
されハ今ニおゐてハ民家も子をはやしと云る者。

孝子ニ乳ス及ぬれバ其父母老を經ル所すだ人
是をバつやしまバ父母も又悟ぬとして惻然之退。
之より仁ひろまりて實了夷狄の風まりしが誠
にに仁風の是て及ぶるや殘惡の俗絶して今
其事なしとされ

陸奥國圖　大名貳十人
自白川西會津ノ境

仙臺　松平陸奥守　六十二万五千石余

白石　仙臺家行片倉小十郎　三万貳千石

松平長萬
会津
二十三万石

松平大和
白川
十五万石

内トウ播アキ守
岩城湯長谷
一万五千石

丹羽左京大夫
二本松
十万七百石

松平右近将監
棚倉
五万五千石

松平大学頭
森山
二万石

内トウビゼン
岩城平
七万石

秋田信ノ守
三春
五万石

田村ナキ
一ノ関
三万石

南部修理大夫
モリ岡
十万石

南部甲斐守
八戸
弐万石

板倉伊ヨ守
イツミ
一万五千石

相馬弾正少弼
中村
六万石

板倉甲斐
福シマ
三万石

津軽出羽
弘前
四万七千石

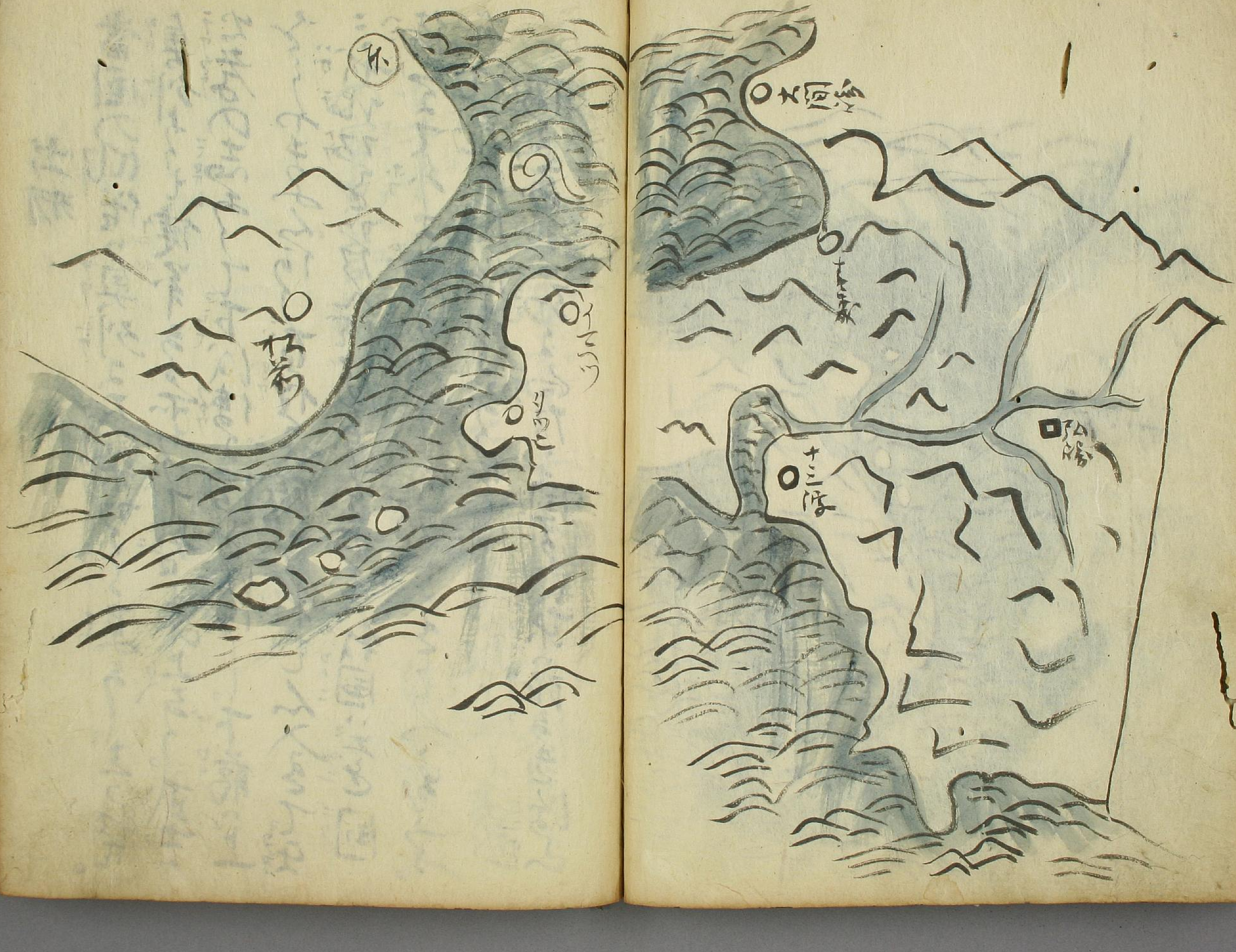
松前シマ
エゾ
高十シ

松平玄蕃頭
来折
二万石

上杉弾正大弼
米ザワ
十五万石

上杉スルガ
米沢新田
一万石

蝦夷地
野辺地
馬門


ホ
松前
十三湊
弘前

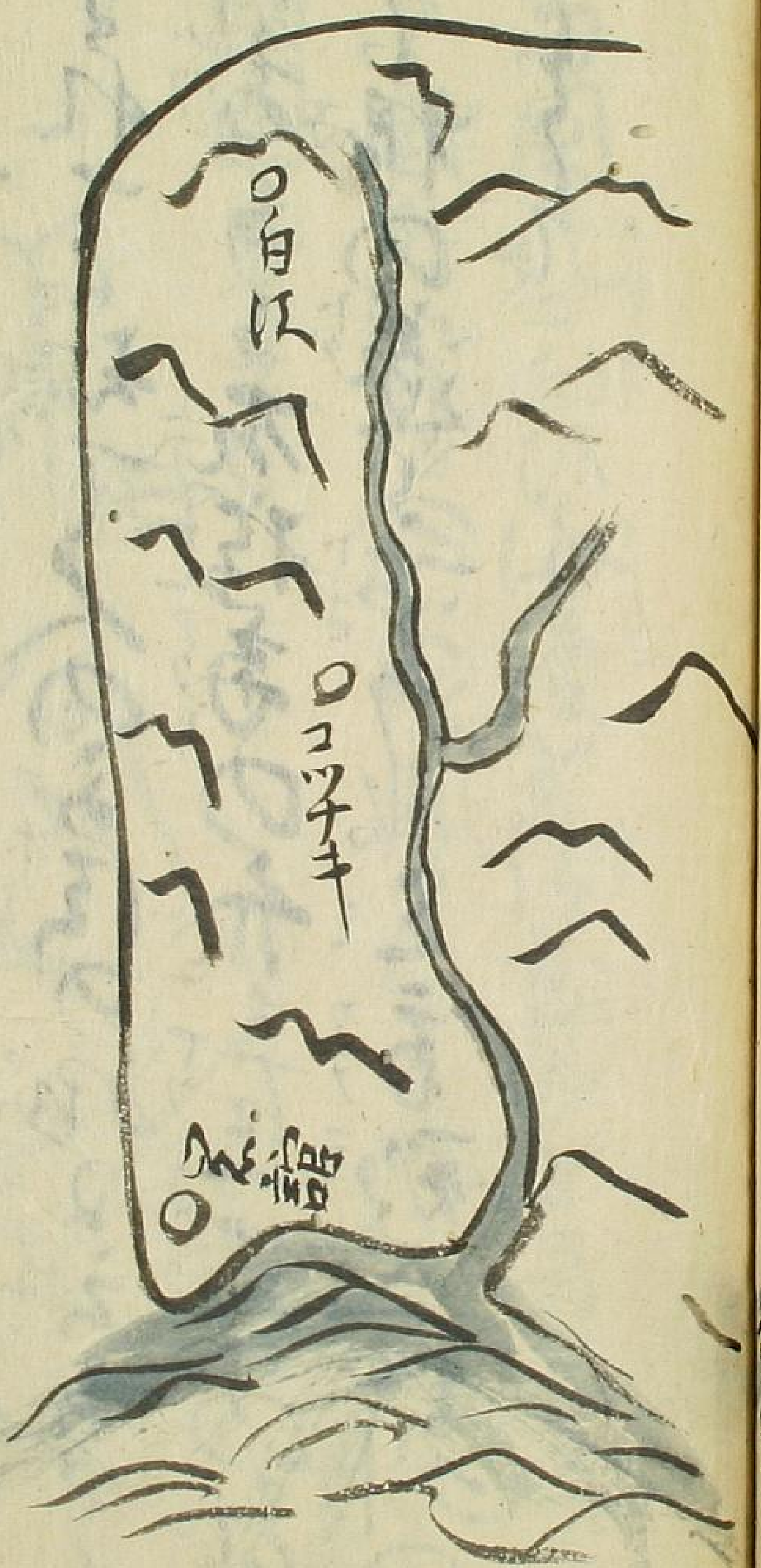
出羽

當国の風俗ハ奥州に大槩かはる事なし去れ共。奥州よりも健義なる所ありて智も又上なり武士ハ忠孝の志ありて下々ハ僕の情をはけまし下﨟ハ上をうやまひ百姓ハ地頭を和むハ人をまて主国こ新地ひろをかたんばなるなき所なき我国ハ是を国備とまて外に向ひまうしきあることをなくてある。亦こ乳見の風俗あるなりされ極ま高山ハ海に向たる国なれバ東ハ限なき深山峡岨にして甚だ遠し雪ハ深し奥州に近くこなたち国なれハ又ことなる風にあり民俗かまのまに詳なり海辺の風ハ又淫風ありて人の容皃言語極て卑劣なり

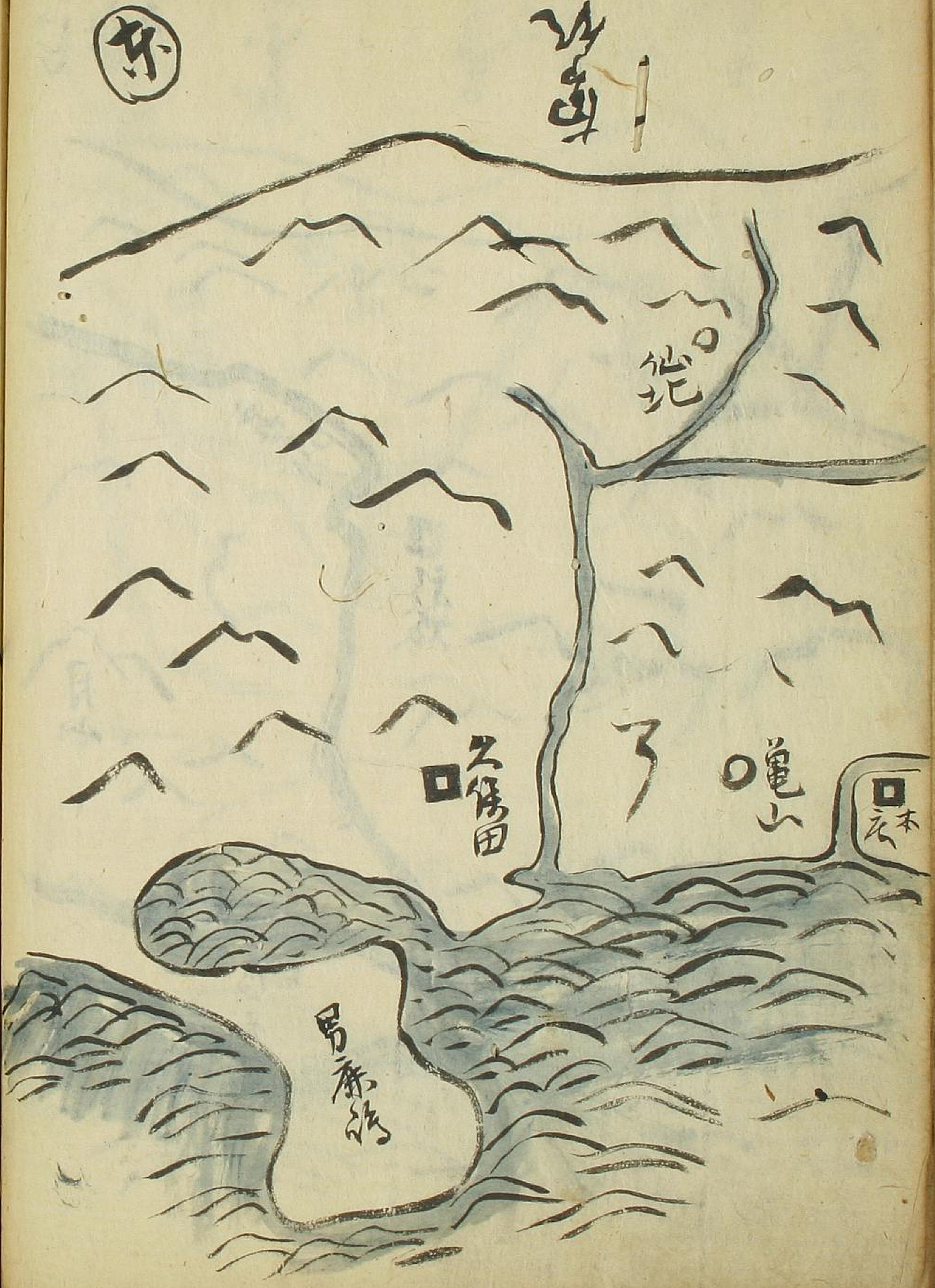
出羽國圖

大名九人

堀田相摸守
山形
十万石
戸沢上總介
新庄
六万八千弐百石
佐竹右京大夫
秋田
二十万五千石
佐竹壹キ
秋田新田
二万石
酒井左衛門尉
庄内ツルカ岡
十四万石
六郷兩波
本ジヤウ
二万石
岩城河内
カメ田
二万石
酒井山城
松山
二万石
越後
松平山城
上山
三万石
月山



白沢
津軽



東
能代
久保田
亀山
本庄
男鹿嶋

北陸道七国

若狭

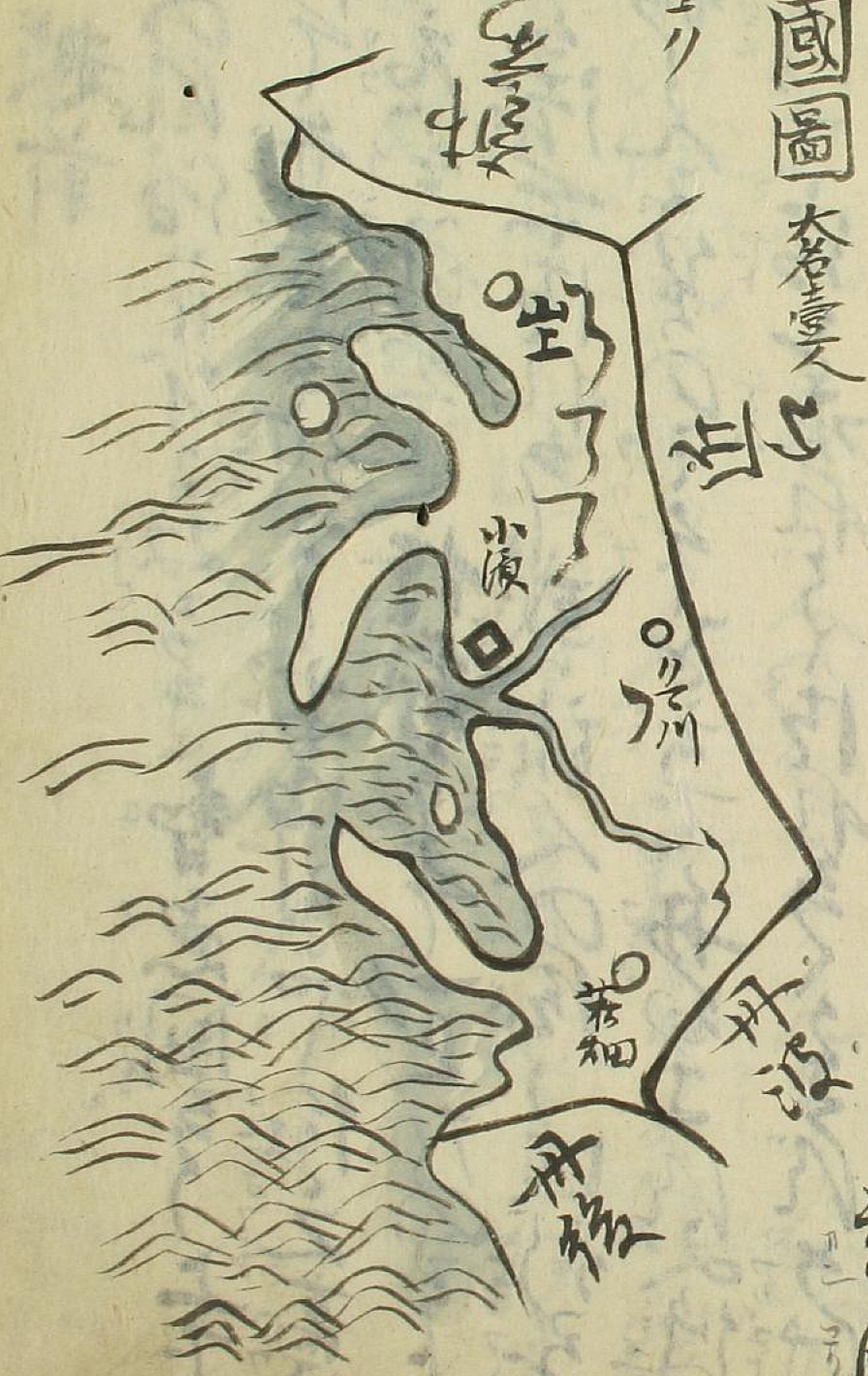
南国の風俗ハ人の気和することなく心の
詐多く口唯ハ睦かりけれとも内ハ勝りて
言根を挙は風俗下として上ハ欺き所
をたくまれては却て人の不法の形ハ云ふことなれ
共利発なる所指南の弁に百一花の気勢
なれども根の遂る所なし　三方郡ハ江州の風を
ひきしとて

梅ハ南国に北に向ひ海浜を請ふ所を肩に合ち上一
言なる国府に自人の心根直かたく風俗悪しき国や

若狭國圖　大名壹人

小ロクトウ七ケコソ

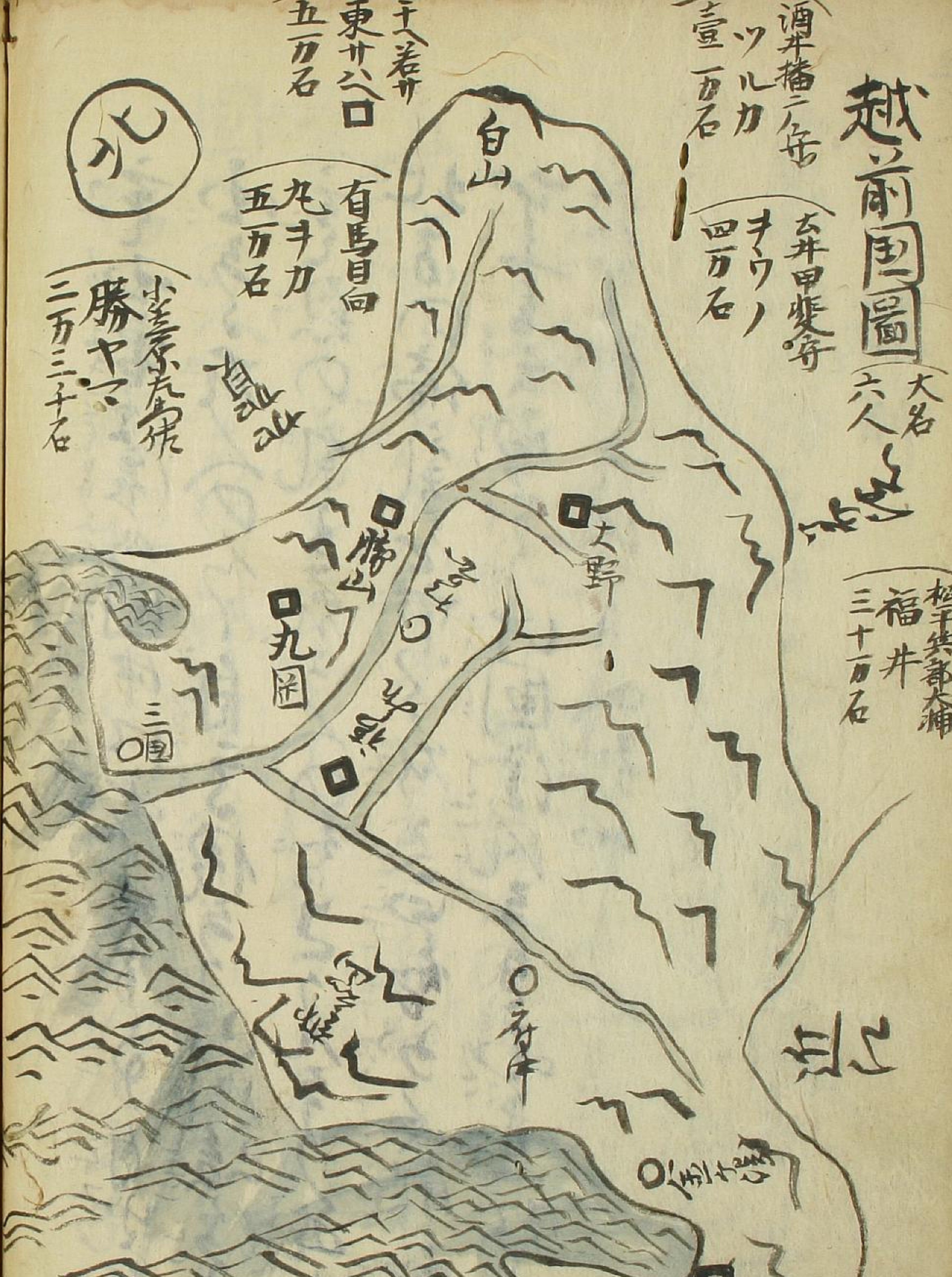
酒井讃岐守
小八
十二万三千石



越前

當国の風俗ハひとへにみちすき智恵有て上下共に
すぐれて弁古尾到(?)て労(?)なきや但之高僧に
して后ハ我知し惜有て一旦存のことき
やうなる流れハ清れ或ハ諸人の為にして行ありて
舟をかへんと賃のことを云て舟かきんと又修行者
のそちのみ乃って宿をもとめて清れなく貪れ共風
国中の人ハ下のまで邪智ありと云つへし されハ
按ニ当国七北陸ニ向ハ其も山深く年来ニ無し

寒国雪深流水凝て国中に無して而自由なる
なる旅人の為に自ら便なり山川険阻にて
寒烈の気きびしき人の智さかんなる所にて
北方の偏気を受て旅人に智多く邪智あり
故書云西より十国淫風あるきまた上下ニ
敦賀郡ハ風俗又別や



加賀

當国の風俗ハ上下大体風俗をかしてみを容ヲ持
風あり中にも江沼能美郡ハ別てめいし石川河北
の郡ハ少氣のびやかなる武士の風ハおとなしくやうて
尖なる事すくなく武勇の功なくて表するをおこたらず
其の上の綱手をとれて其ことをさむる事や候へ
他国ハ合戦ありて是より以後国をすゝる
も自然と合して生まれ変るかさまにて神村の
和らうてに切れたどするすゞ盗賊などとて煙つゝ

皆人は其流にて賢人の風やさしく地にて解
急ちちょうる風ありて加州国一方にあまる風
ありけるとぞ
按に当国は西海に対向ひ山を負て前北へ
らき流る国なり民俗遍利なり但書
深なりて気は風まげしとなりて越前より
は雪も降し

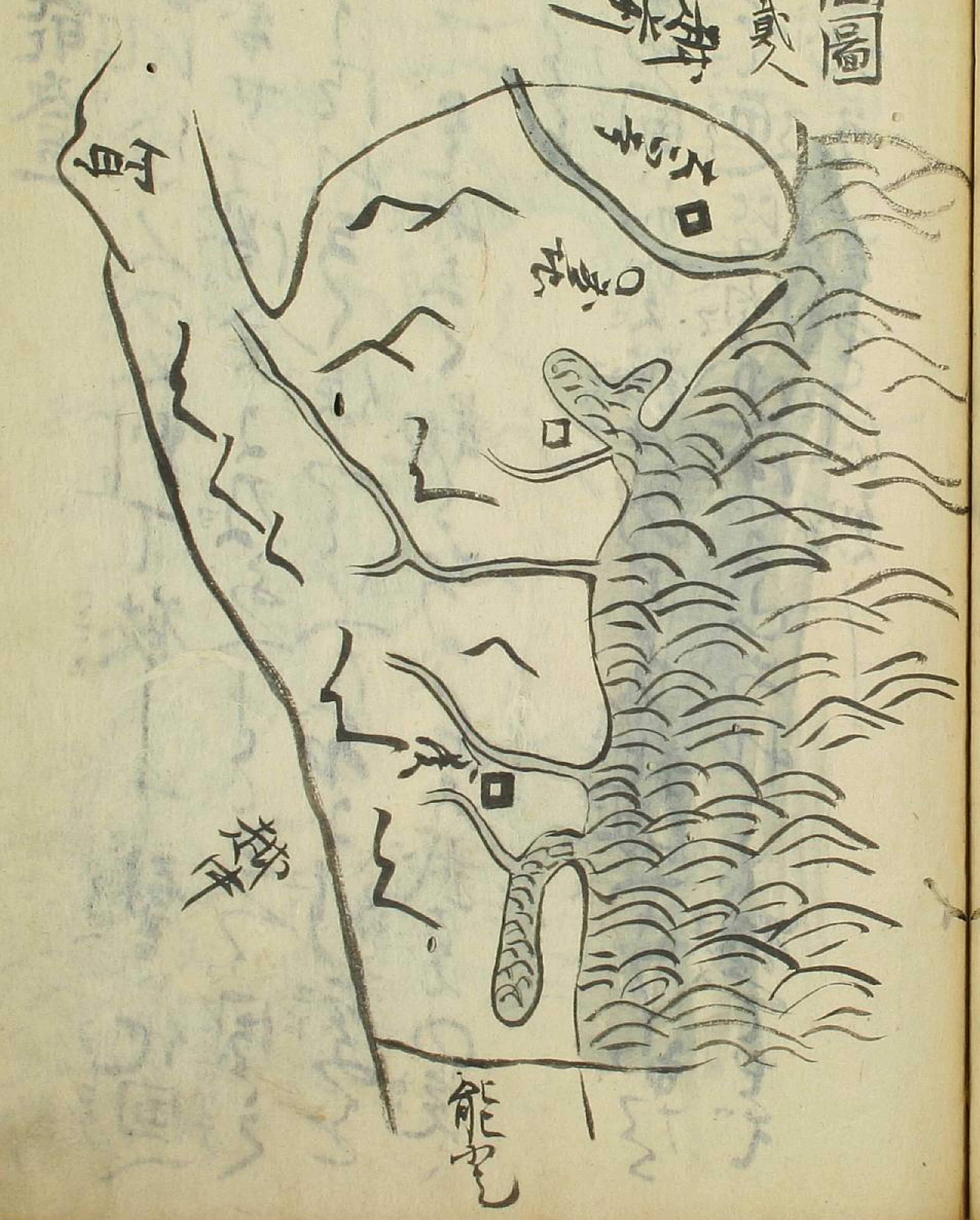
加賀國圖

大名貳人

南

加賀中将
金沢
百二万二千七百石

松平ビゼンノ守
大聖寺
七万石



能登

当国の風俗ハ人の心別て狭して譬ハ他国へ一足踏出せば渇命に及ぶへしと思ひて困窮え主人より情なく使れても[illegible]を知ハ猶言をとかりして也出来る勤るなり此れ武勇の覚、悟よしとされ

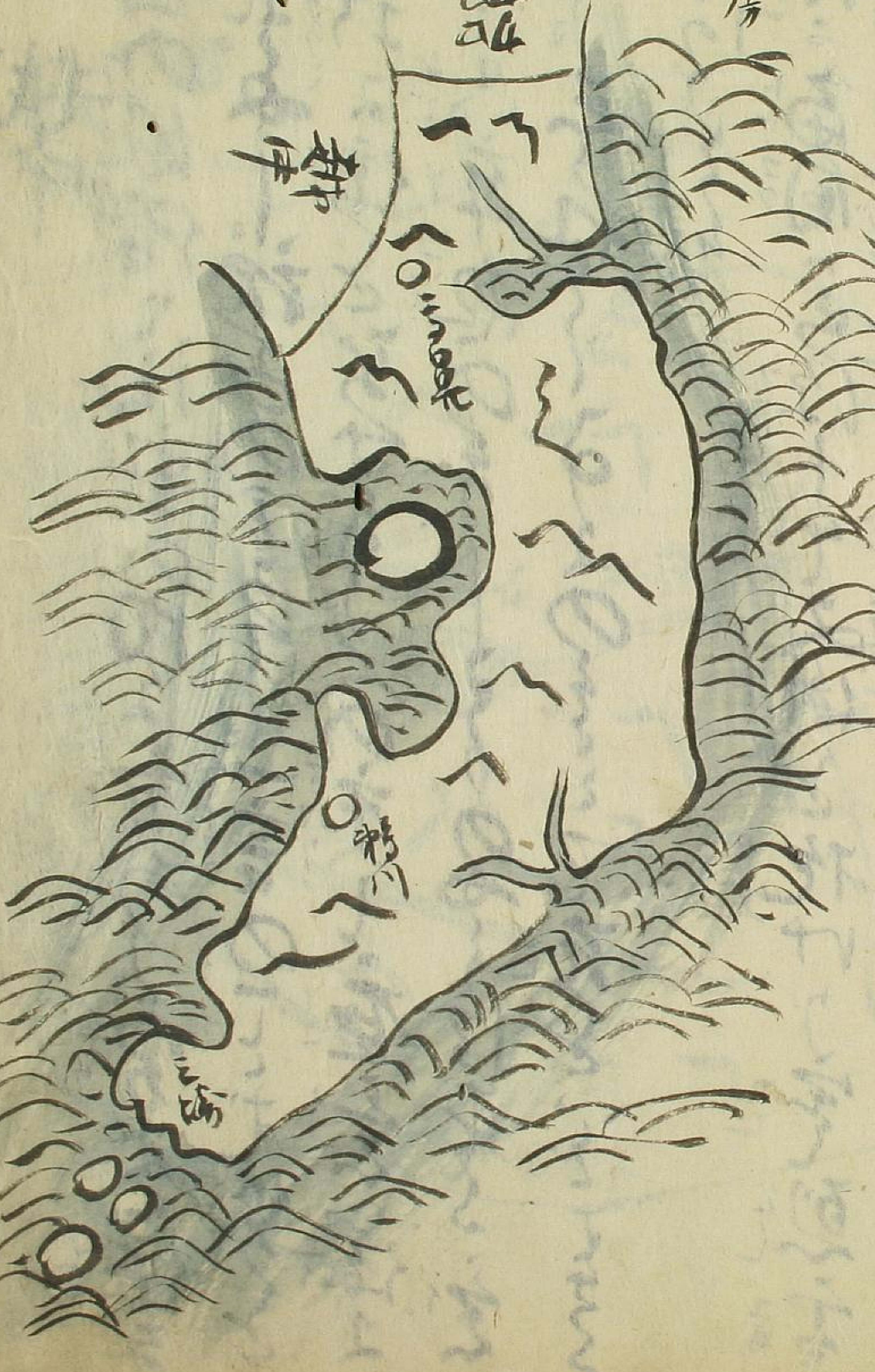
梅ニ当国ハ加賀越中の呂より北海へさしいだたるよって通路遠けれハ山あれハこに積てせむこを発らちもさし尻甚し

能登國圖

加賀領

加州家本田安房
ノウフ
五万石

南

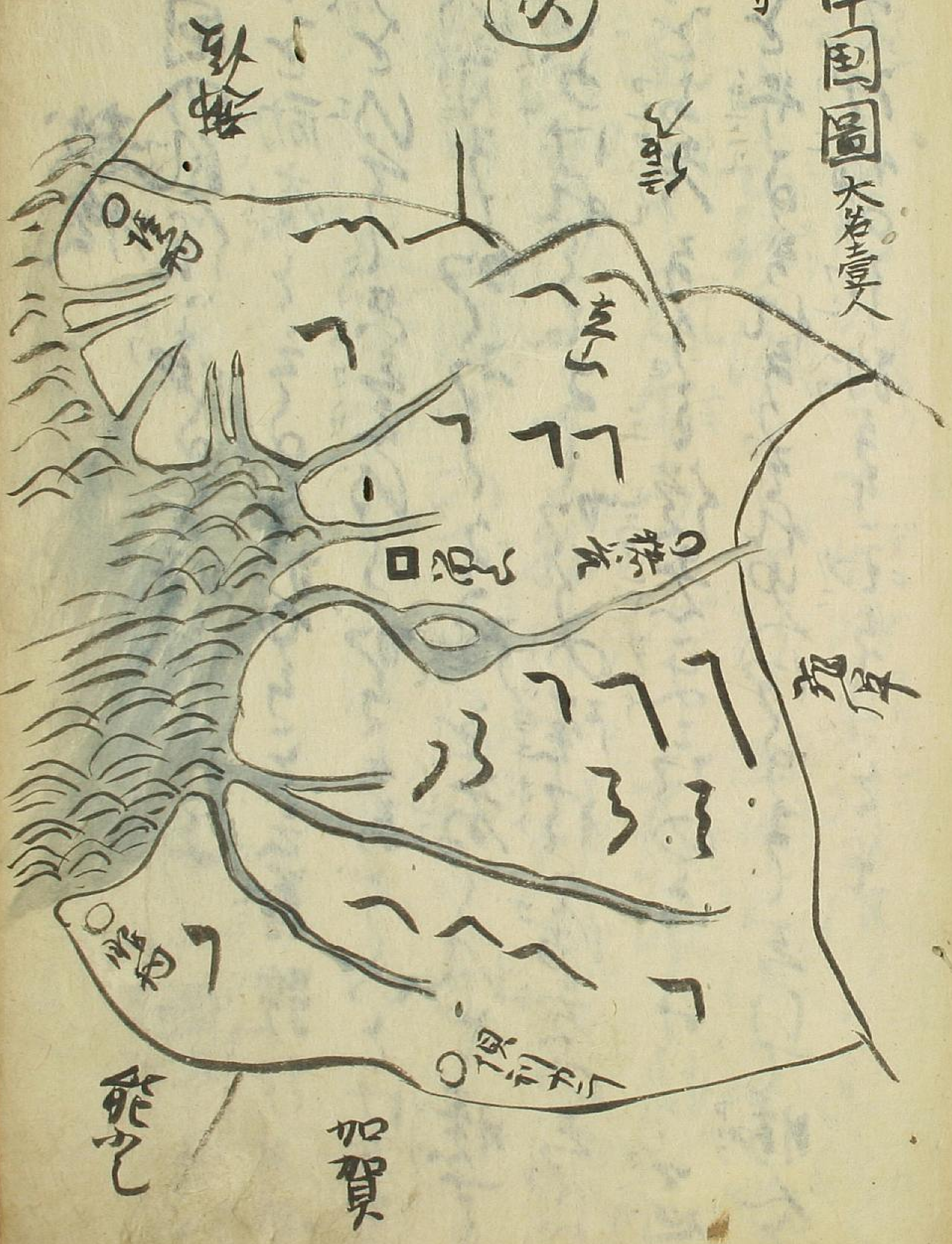


越中

當国の風俗ハ気の内ニ智あつて勇も亦有
短気なれハ親子のあひたにも一言のことばに悪事を
起り巧ミに偽をなす事人の心を知り底意ハ偽ニ
して只卒忽のましきのみにあらず意
むかふに寄れハするものゝまゝにて事をいたすなる
風ハいかにもあれ
殊ニ當国ハ深山にして又海を抱けり寒気雪
深し民俗ハ物ごとに浮きたり

越中国圖 大名壱人

松平出雲守
富山
十万石



越後

當国の風俗ハ勝ことを好ミ気荒あらく假令にも
勇を励痛とするをかゆきと云若躰ありそれ
痛をいそしむ只気のさかりにいとけなき
者の育つもかくのことくにて膽を養ふ風や暁する
氣ハみけれど古しかくの障り後へ遺交の言ま
ゝとあるうちに從来まことのなけれた道
理と弁ることなくそれゆへ何ほまでもおいて勝を
しても理非の分別も一向わきまへさること

極ニ當国ハあまねて出羽奥州のすたる山深く
して頗北ハ海をうけたり国中ハ何あく寒く
氣も至て烈し雪ふかく深し上越後下越後
少の節ありて下ハ狹中をも烈しき代も又野や
鄙ありて一国中の下民ハ怎ふうきのたる
かりしびの民俗なり法とはしやう

越後國圖大名十一人

牧ノスルカノ
長岡
七万四千石

内トウ孫三郎
村上
五万石

ミツロ加賀守
新発田
五万石

堀左京亮
村松
三万石

堀出雲守
椎谷之内
壹万石

松平河内守
糸魚川
壹万石

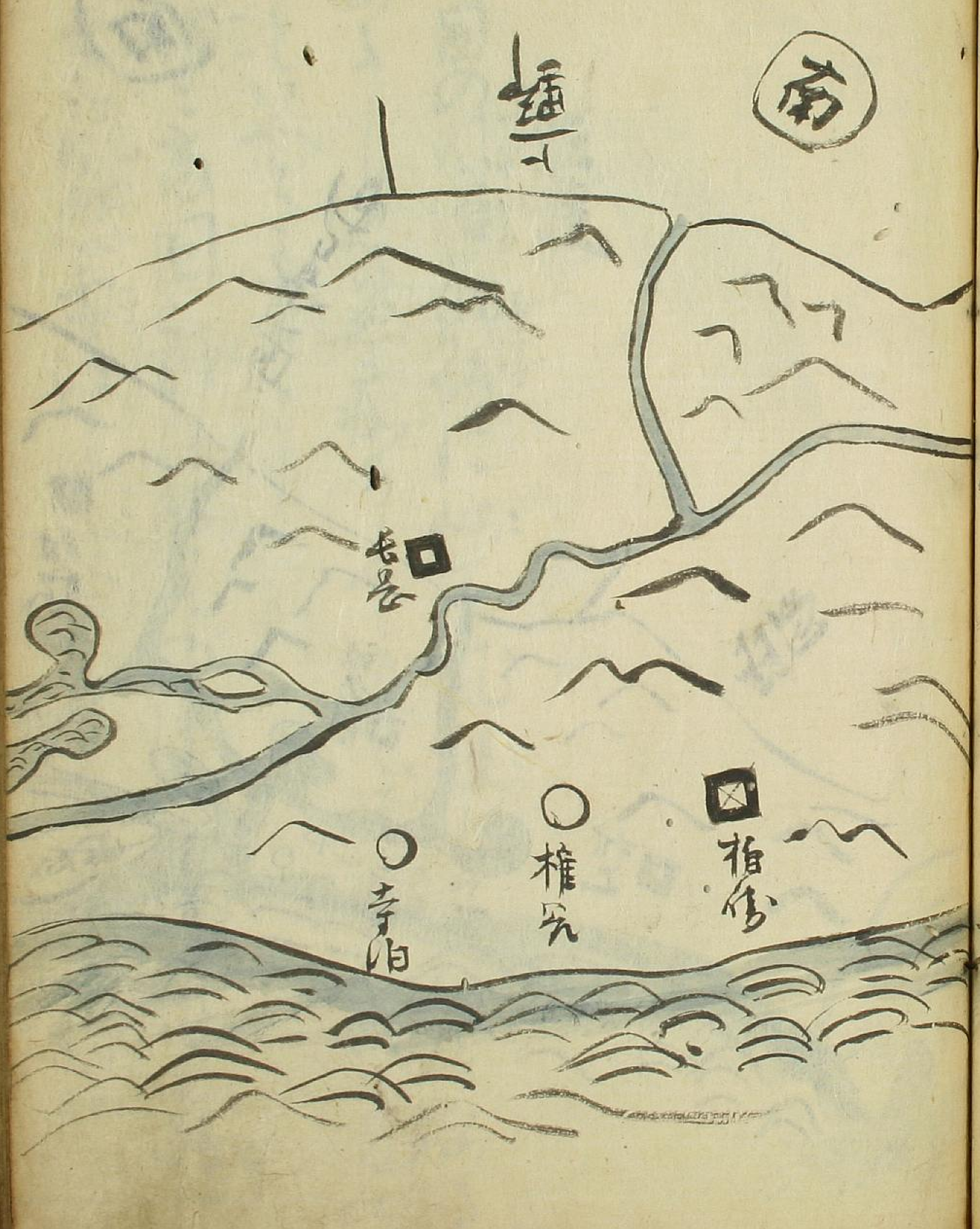
松平越中守
高田
十一万石

井伊伯耆守
与坂
二万石

丹羽式部少輔
クビキ郡高柳
壹万石

柳沢形部少輔
黒川
壹万石

松平[illegible]
三日市
壹万石



佐渡

南国の風俗ハ越後に似て気捷して和やかなる
方もあれとも人愚ニ添ふして極て頑ちうに武勇を
隠とひふて吾としてしかれとし
極て南国ハ越後能登の間の中中にて島や
寒気ハ雪深し民俗古風をもちて北溟洋や

佐渡国図

小木御代官所

人國記巻之下編目

山陰道八國
丹波 一 丹後 三 但馬 四 因幡 五
伯耆 六 出雲 七 石見 八 隠岐 九
山陽道八國
播磨 十 美作 十一 備前 十二 備中 十三
備後 十四 安藝 十五 周防 十七 長門 十八
南海道六國
紀伊 十九 淡路 二十一 阿波 二十二 讃岐 二十三

伊豫 六十七 土佐 十七

西海道九国 二島

筑前 五十九 筑後 卅 豊前 六十一 豊後 六十三

肥前 六十七 肥後 六十八 日向 七十 大隅 七十二

薩摩 七十六 壹岐 七十七 對馬 七十八

人國記巻之下

山陰道八國

丹波

當国の風俗ハ人の氣懦弱にして而も各おうて己を自慢し人の他を誹人の是をも非と云けれバ又婦人の人相よりも百性農業をもよそにして商賣をおかかわりく身の富有を求めて勇氣すくなくして諂ひよく明々の体にも女のハ敵となりせまたつよ第一の風俗なりとそれ

按ニ南西ハ北方山にして皆岩石の人家あり
寒冷にて北風強くあたれば尤も烈し山岩の内
の民られ偏居にてもかゝるべきゐる風尤も甚だし
ゆゑこと〳〵く懦弱なる所なれば此城郭に隣
て都にも近き上京の風俗となりて自
気の情出て末隆の僻を失はず婦人の風
俗一入兎しかんなくして疎末なる所あり

丹波國圖

大名七人

山イントウ八ケコリ

小出信ノ　ソノベ　二万六千石

九キ大スミ　アヤベ　二万石

松平キイ　サヽヤマ　五万石

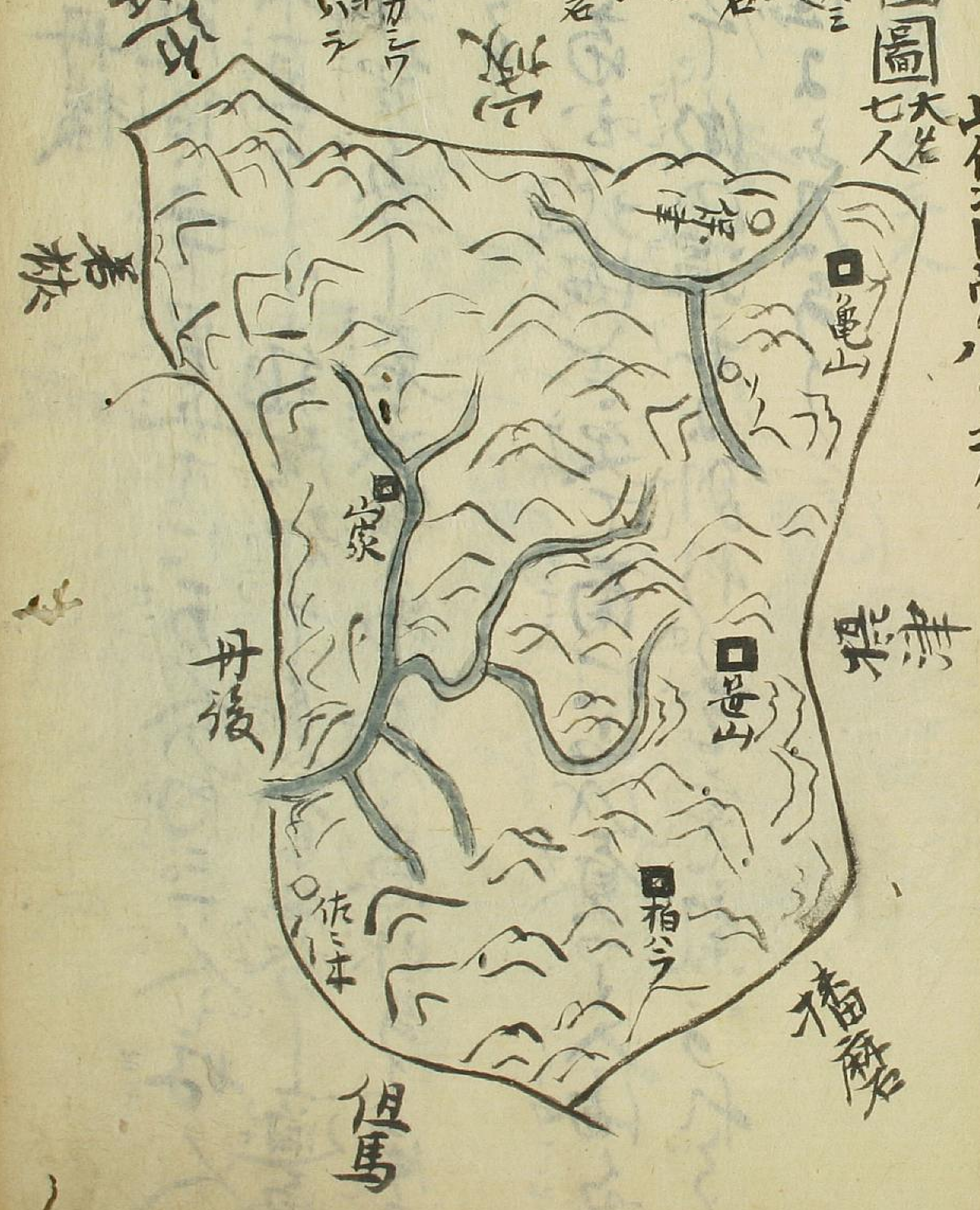
谷出羽　山家　壹万石

東

朽木トサ　福知ヤマ　三万二千石

ヲタイツモ　ヒカミ郡　カシワバラ　二万石

青山伯耆　亀ヤマ　五万石



丹後

當國の風俗ハ上下男女共に万人の内ニ人も好人あり不直にして氣隆却て勇なハ寡し適々あれハ邪智多し若又賓ある者ハ愚昧なり周に不壊とす

梅と南山ハ北海と交て南に山の負つて入海多しして激の温和に別れり。もつとも氣たれども

北陸よりも及なり

丹後國圖 大名三人

牧ノ河千 田十べ 三万五千石

青山大セン 宮津 四万八千石

京ゴクヒンゴ 三子やて 一万千百石

但馬

當國の風俗ハ丹州よりハ少よし。出石、乱多、城崎、二方の郡ハ賓てたのミ多く、気花きことなく、盗人多し。両丹の風の中らこして、善ろくに悪にて従うところ、然ニ市中ハ土地の大庭丹後よひとし。但丹後より、ろし半里郡ありに尼时京と見も丹波ろ国府ト添風あり

但馬國圖

大名貳人

仙石信ノ イヅシ 五万八千石

京ヨリ路リ トヨヲカ 壹万五千石

南

因幡

当国の風俗ハ八上智頭邑美の三郡ハ實ありて
而も勇ありて約を不違高草気多法美巨濃
の數郡ハ實ありて邪智あり武士ハ利欲に拘泥の
族に方に従ふ風や一国のうちにても風俗の変
識ることハ性自然の理なりされ
按に南ハ北海をうけ其ほかハ南ハ山深くして嵯峨
の国よりもなほたかきものなれや其気も陰として民
俗海濱と山谷とハいづれの国も異なるや

因幡国圖

大名二人

松平サカミ
多トリ
三十二万五千石

松平ツノカミ
多トリ新田
三万石

松平近江守
多トリ新田
二万石

伯耆國圖

高トリ家 荒尾但馬

米子 一万五千石

伯耆

當國の風俗すべて虚實相半ばする人に交て己を
省て善んずれとも其人を離ては又悪ん
に移し易し 形有迷ひの氣に乗て定らざる所を
みるなし されば今世下賤の者の諺にも此の格りたるを
やれ怠る者とする偽とぞ云ふ事けるの風より
始まるとは云へども勤て勤ては又怠は勇氣あるを
持こ南面の風土も同列に似ざれば有海濱安
し民俗は書にあるべし

出雲

當国の風俗ハ万支の作業寶貫ニ氣ちよ勤てまし
まことゆるれなれど明闇の險路にひて其理
をわ辨ず若愚邪見に佛神よ祈て加護をた
のミとするもの有り。謀計ハ罰ニ當り正直を
構をハ神ハ悲憐をたれ給ふ。正直の首に宿
ごとの支をおもふ。色味のみかりとれ
按ニ南ニ山有りて海を抱て寒気風あり

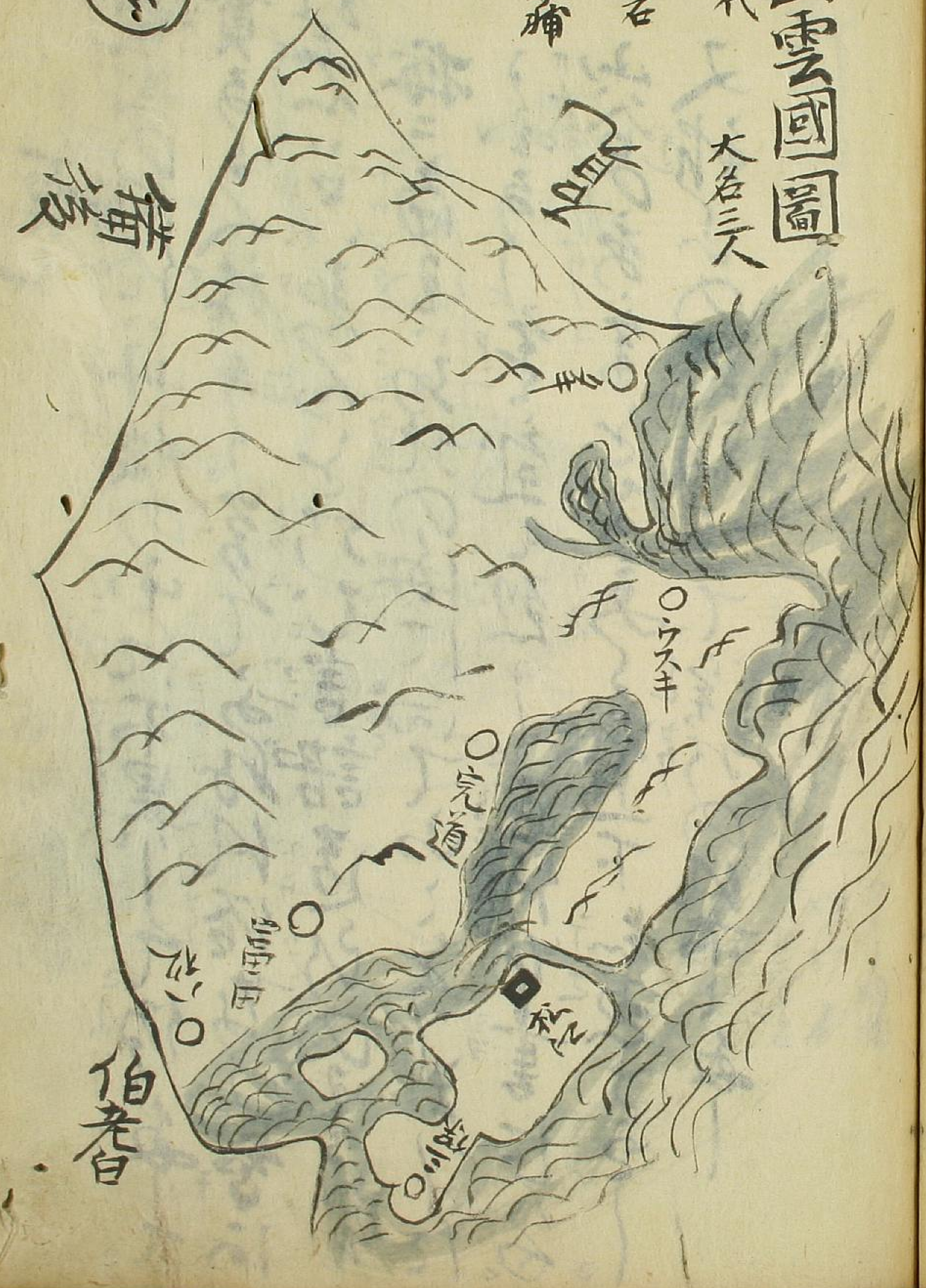
出雲國圖

大名三人

松平幸千代
松江
十八万六千石

松平式部少輔
ヒロセ
三万石

松平ミシて
母里
壹万石



石見

當国の風俗ハ丹後のむに不異して働ひ多して
實なる人稀なり常ても怪しき風俗なり智に
乏しい只忍んを巧む言語道断のものなれ
梅ニ南もハ北の海に向て山こをまいりた
ら少なりきをしてるにして医俗は書にあり
山谷の民家とを多る也上下知恵さらし
又能ゝの風俗して泥行の風なと多し

石見国圖　大名弐人

松平スヲウ　濱田　五万四百石

カメイ同縫　ツワノ　四万三千石

隱岐

當国の風俗ハ桑麻にして放逸なりた知夫一郡の
三貢なくしてたのしミ示あり其余ハ風に志
たがふ事のごとく吾思する花もひきまたがふ
風なりしが折中をも絡されども石剣よりのハむるく
上の風とそれ
此国ハ雲州を去る事三十六里北海中の
嶋にて寒雪甚し

隠岐國圖

山陽道八国

播磨

當国の風俗ハ智恵ありて義理を不知親ハ子を諂ひ子ハ親を欺き又被官ハ主君をかくして好人を嫌ひ我をたてず被官も亦忠勤なく二股にして洞が峠を不知をうるりとけ乞偏ゟ盗賊の根ヲ近侍ハ中くふ及さ近風草なとそ播ハ南国ハ南ニ江海をうけ山を負てよその風土よりハ気も暑温和にして五ヶの富有の地や

民俗は書に取説めてく然れ風土の噸氣を
うつるといへども憂患に生て安楽に死する
のたのしみをして喜んで秘思する事うき旅や
寒かる古昔の武士にして赤松黨が如き諸利
んより出て功名の所得をなすを勝とと云なり
あるべし

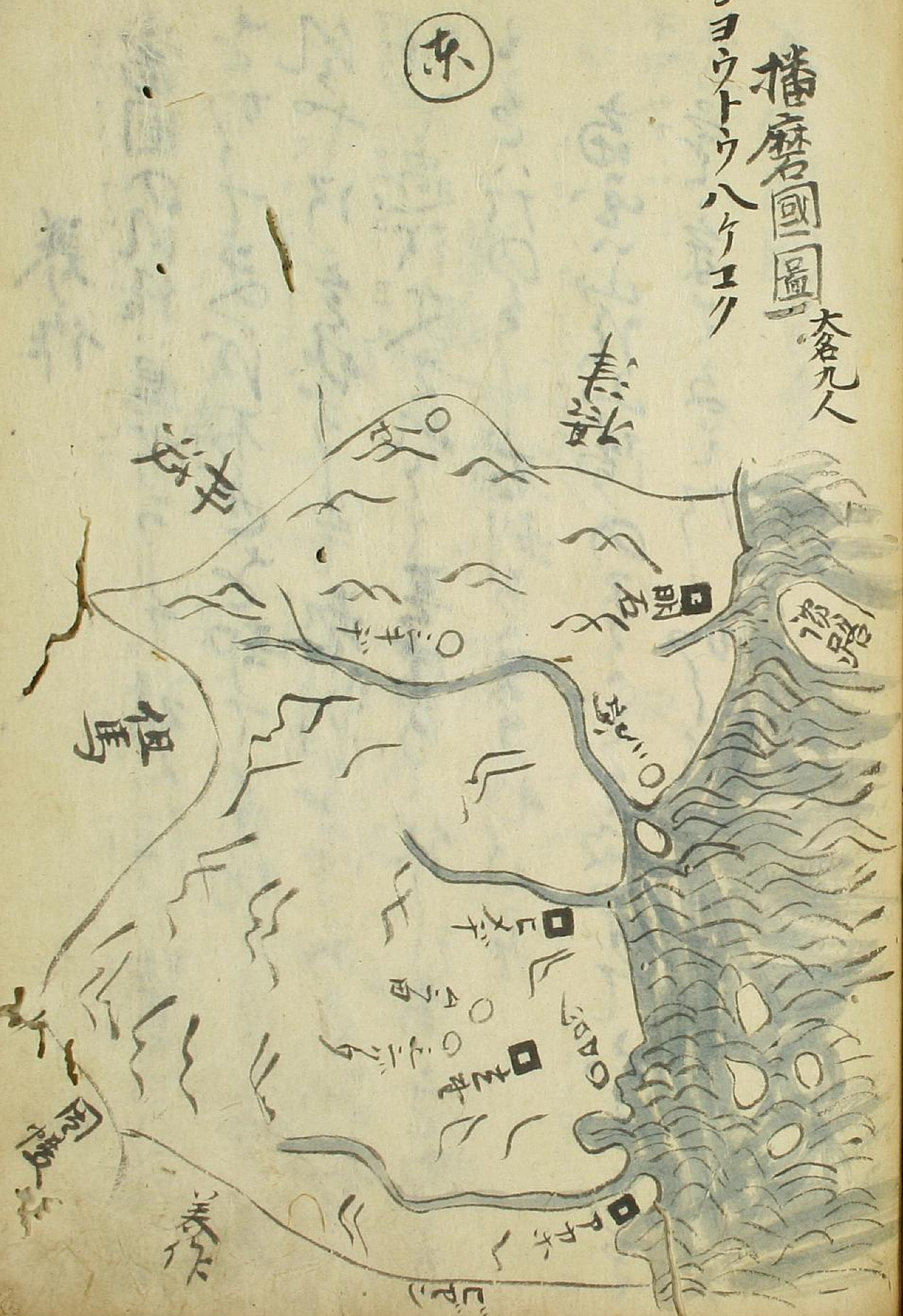
松平左兵へ督	モリイセ	榊原式部大輔	モリアキ	ワキ坂中務少輔	ハヤシタ
明石	赤穂	姫路	三ケ月	立野	建部丹波
六万石	二万石	十五万石	一万五千石	五万三千石	壹万石

本多ヒゼン守	一柳トサノ守	小笠原信ノ
シミクリ	小野	アミムラ
一万石	壹万石	一万石

播磨國圖

大名九人

サンヨウトウ八ケコク



美作

当国の風俗ハ卑劣にして欲ふかく諂ひ人の物
をかすめて[illegible]を却て手柄のよふにする也乃
風やさ行之柢にして教訓をうけざる邪知ふ
依て過文されて其中にて化し易きかくせ
もまハでのもし石剣の如く甚きれとも其
当国ハ山陰山陽の[illegible]にて此玉なる
京も家なるをたしかなれ

松平越後守
津山
五万石

美作国圖　大名壹人

備前

当国の風俗ハ上下ともに利根をむねとして万事
さかしき故に候て言行の相違する事多し別て
諂ひよくして上下ハ上の好むに随て内心にこそ
さかしくさげすみ誇りて人ハ威をもつてかた
ましくんとして人に被皮ハ主を欺門ハ皆形をかざる西
をも衒ふなりて外を都て智恵ある生質上を
飾られれバ中年も後ほど繊ま若ひさるも
て凡筆直なるところところそ

池田丹波
新田
一万五千石

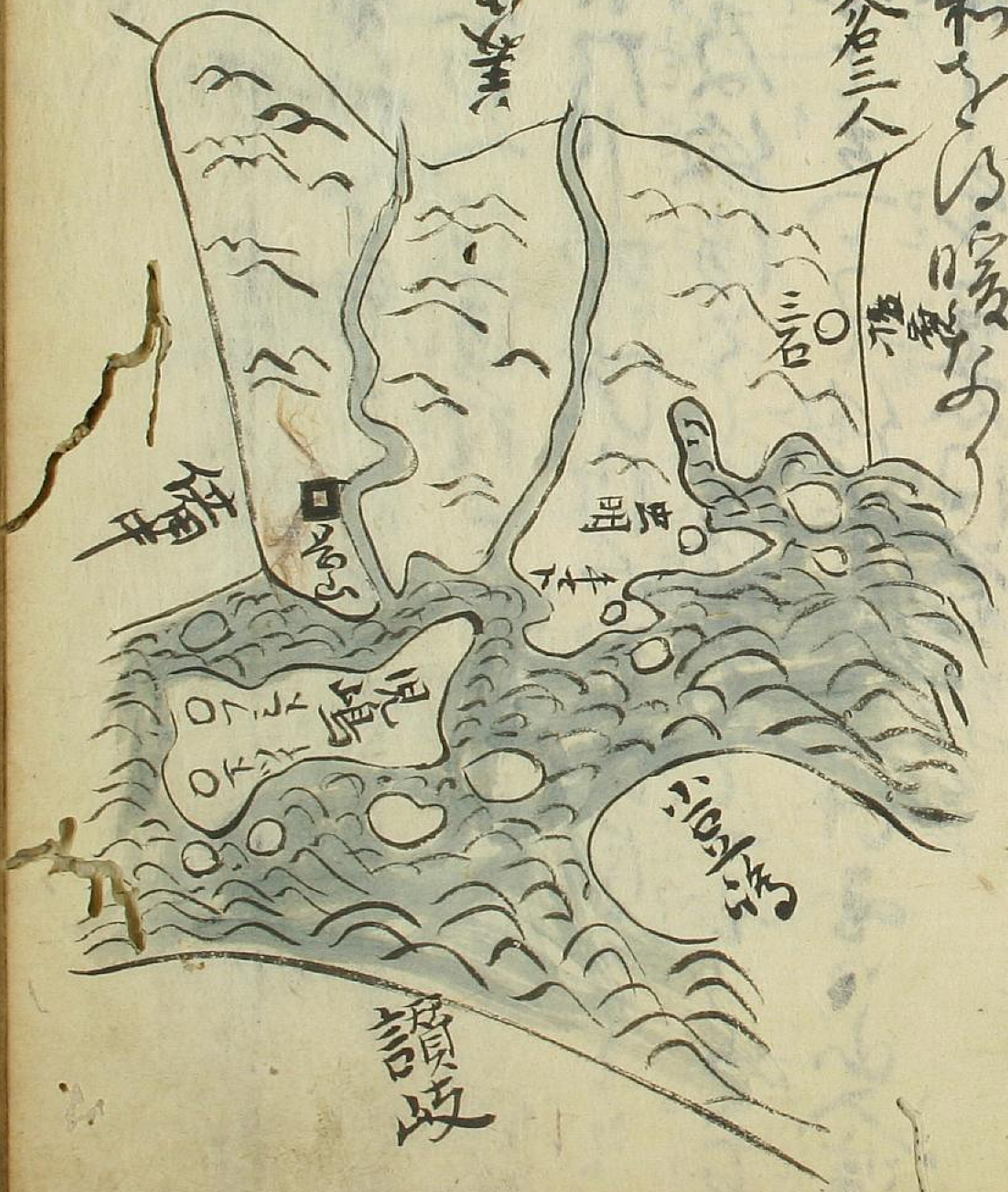
松平大イ乃
ヲカヤマ
三十一万五千二百石

池田内近乃
新田
二万五千石

北

備前国図 大名三人

東ハ南ハ山入海ニ添て海濱を抱たる所なり
是ハも中和なる暖なり



備中

當國の風俗ハ都て気性ゆうし上下男女共ニ勇
氣ありて義利をも励まれ共心常まぎれに
ふてきなるもの人ニハ道理よこしまなり但備
前播州辺ハ取しかりにはびこりひの風をそれ
按ニ當國及備後ニて又備前と一国なりし古ハ
吉備の国と云ふて備前よりハ分れしにいかに山陰
ありて深しきも異同前なり

備中國圖 大名五人

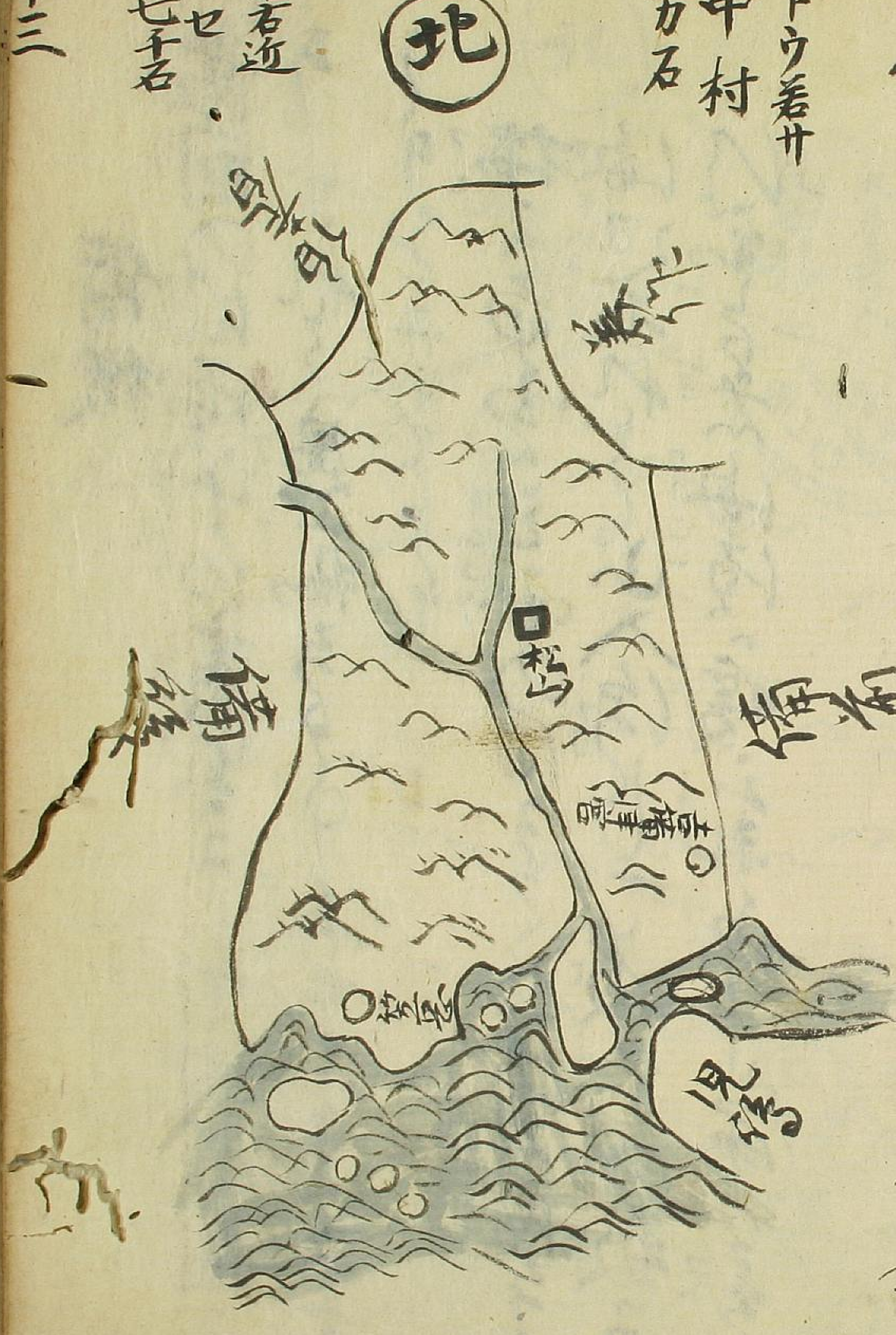
伊トウ若サ 中村 一万石

板倉右近 ニワセ 二万七千石

石川トノモ 松やマ 六万石

木下ミノ アシモリ 二万三千石

関ノ宇治部 新ミ 一万八千石



備後
當國の風俗は柔和にして狩を業とする
ありされども愚痴なる者も有りといへどもふびんな
ることを弁へざるなり
此国は南は三方の海にて八ツの大国なり
海辺は入江多くして備前の数々あり
良き所もあり海浜は暖気多しといへども事多し

安藝

當国の風俗は質實なる風にして気自然とおごらずして諸人ひとへに人をたすけて人の憂をよく判するものなく更に一分を守る風ある俗にして抜群なる人少し世間の嘲をおそるゝ事なきはてなるはなるきやうなれども虚気は實なるも一郡は至極ほどよき佐伯郡の人健にして二心表裏の風なし殊に安藝郡は海辺なれども三方ことに南は海山にして嶮岨自らも能国なり是故に並の

国とは風俗各別なりといへどもたゞ噯は安し山陽道の一郡にて暖温なるゆゑあり何ぞ南に四国の中にこゝろ北に山陰の山にて西は備中に海の湖ありつゝ故に自然と風気和なり民俗は又一国中の風土よりなり

安藝國圖 大名貳人

松平アキ、廣ニテ 四十二万六千石余 十六

松平宮内少輔 廣嶋新田 三万石

周防

当国の風俗は律儀なりされども数代の法に三郡は義理寡なる所々まで有るを並べてよけれは主君と仰ぎ風ありて古跡を破り阿賀毛二郡の人は東郡よりはかいまされされども俗儀の方より劣れる風や好みあるよしして智あるも文少し悪惣て気小わく残悪なるのみ多し

但し南の方は海辺多くもっとも人を負て深く心ある是へ兼ぬ別にはひとし

長門

當国の風俗ハ方々の二義あるにハ人の心情
も下賤ニ上洞子あるもあり人ハ直ぎるにも一思
案して答ふる心あり此まゝ人たのみにして左右思慮
多き仁を勤との人民も土民を疾くれども古来急
惰の気を養す周防武士の風俗也と云ふが如くそれ
接ニ南東ハ北西の海をうけたる事ありそ南あて
海濱おりとして女ハ陰氣をいたむなり
依し寒風烈しく雪も又山陰ニ同し

南海道六國

紀伊

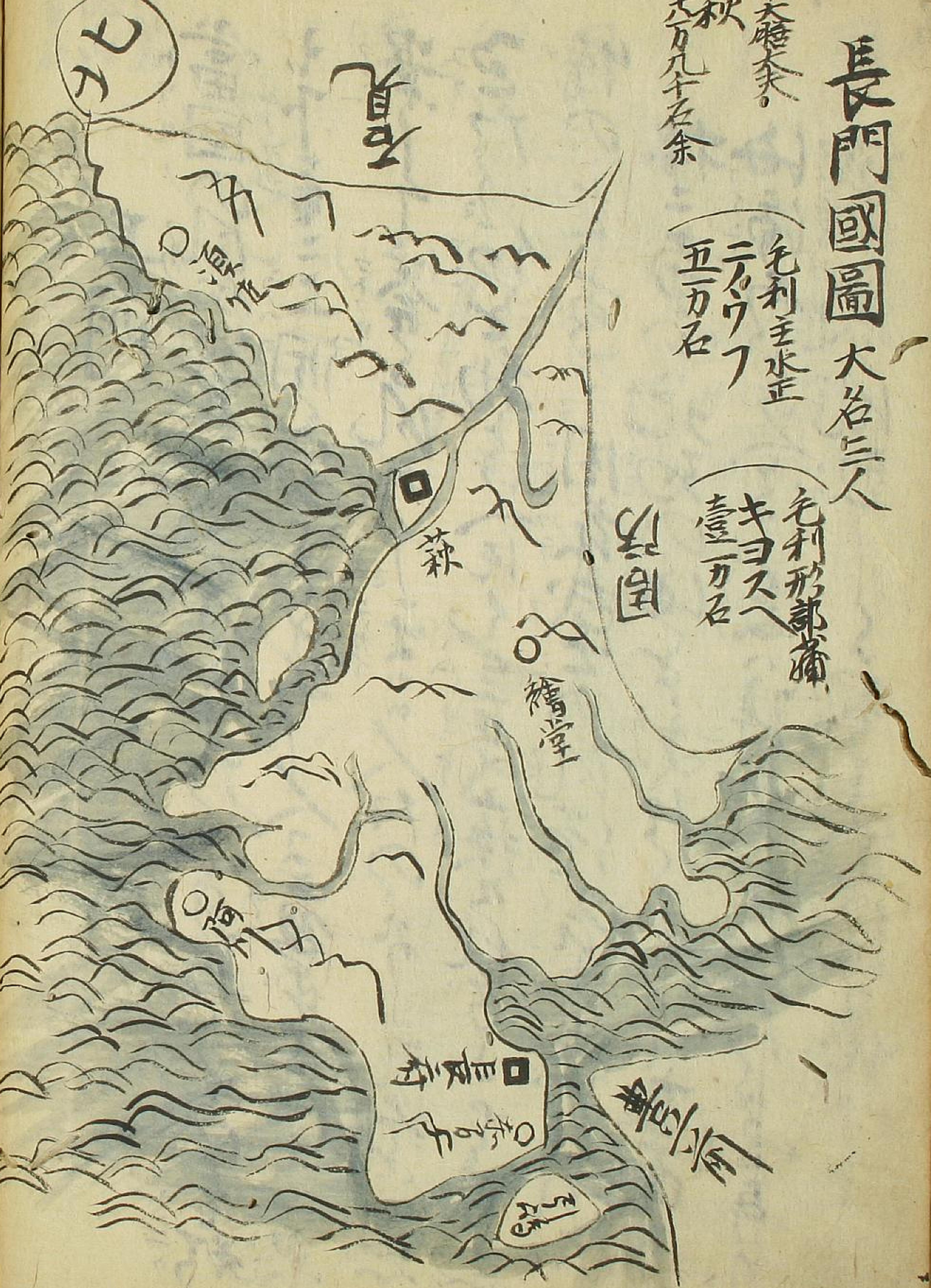
當国の風俗ハ不健義勇にして陽氣甚しく上下
下を貪りて下ハ上の法令を守る國就中牟
婁日高在田郡ハ我侭優りて気比を施すかと
是ハ文弱して法る示の奥宮不絶譬ハ明る敵
となりし人々もかるに従ひて文せんにも要あれは
已上方の一揆を企つの裏ありけれはや郷にて名を
元日と号して一方にて冤をなつ沼氣の乱の時ら

長門國圖 大名三人

松平大膳大夫 萩 三十六万九千石余

毛利主水正 チウフ 五万石

毛利刑部少輔 キヨスヘ 壹万石



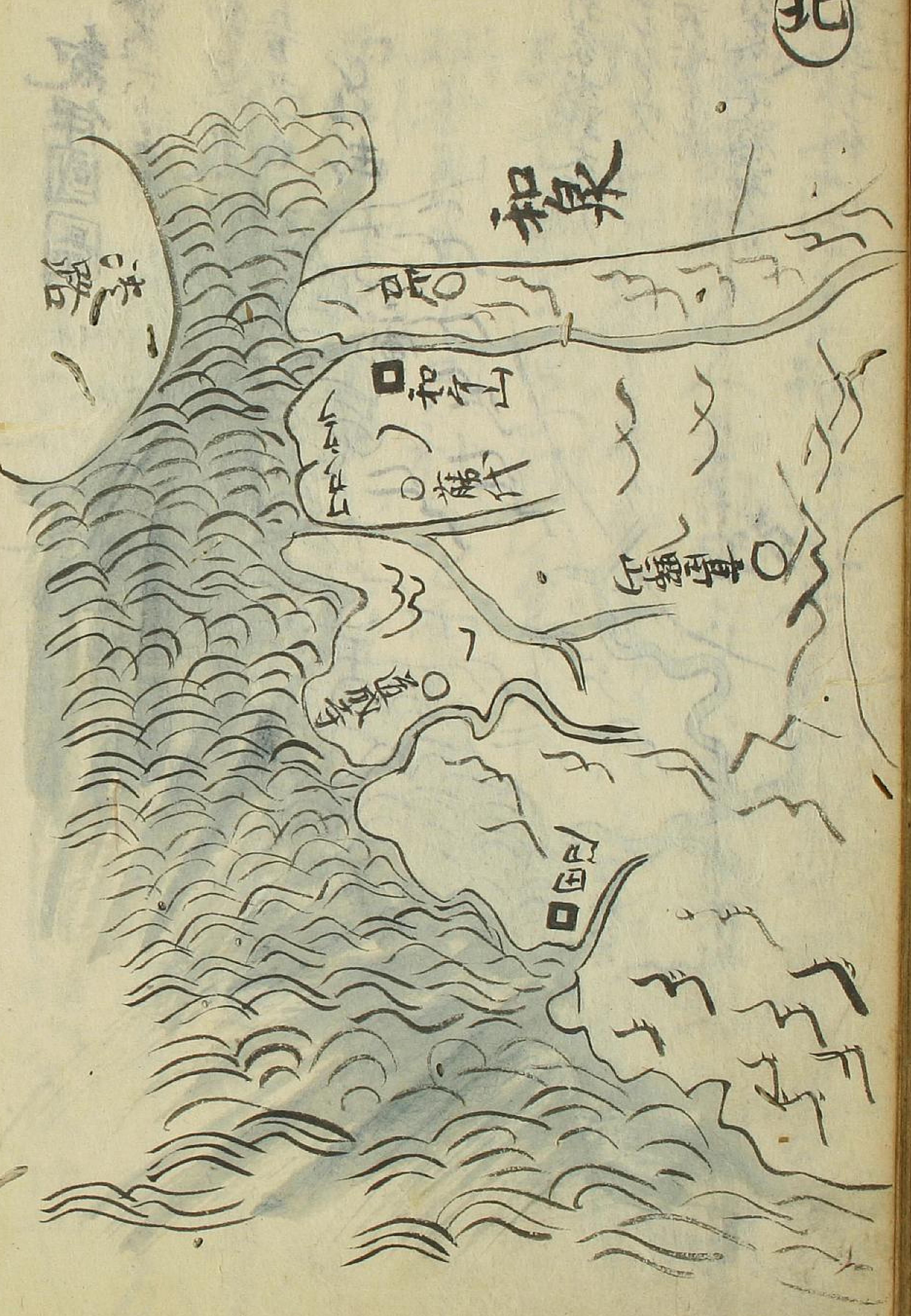
よつて紀伊は国風上にあらはれ伊那名草那賀
海部郡の人は南郡よりは氣柔にして能く指導す
有る寛恕の心をもて徳を法りたるも在聊もなし又忍を
もてはよく随ふ程の其心けれど節の候あてり
双ひまた出し只利にと而前を亂し実業家もなし
両作両丹石引さけゆえに比すれば寛恕語し
但三南わいち国にして元海浜より生理の
終の府にもとゝいへども色すは海辺より南方
の国なれば人に風土暖氣多く柔和の民俗や

紀伊國圖

南海道六ヶ国
和歌山紀伊殿
五十五万五千石
名所
紀伊家水野大炊殿
シンクウ
三万七千石
紀伊家安藤帯刀
田十べ
三万五千石

淡路

當国の風俗ハ生得のまゝ人の氣健にして
何事も偽りなし諺言ハ訛乱偏志とも申てこそ節
見とゆし然ども貧窮乏の者も多く求の風
ありされども都て怠惰かちにして志薄きなく
退屈の心なし武士も実義ハあれども達人の
わづか少なきなり
按ニ南ハ紀伊阿波の境海中の湊や
四辺皆海にしてむかしを境界に廣きなり



南方ゆへ気暖なるにして民俗柔弱にして
志まりなけれども浪蕩なれ共実儀なることも見え
たり

淡路国図

八千スカ余

北

稲田九郎兵衛
スモト
一万四十九百石

阿波

当国の風俗は大度気健にして智きされども
智ある人は奢道へ行き気ある人を好む
かし降盗をとなへる数の人多くして志ある
地強し勝浦那賀郡名東郡阿波美馬郡いかし
人細うとえ
極こ南海須東より向貢山深し南海衣家
暖気あり東方の秀気とまじる故に気ます
元やうに智きなるべし

阿波國圖

大名一人
松平淡路守
徳嶋
二十五万七千九百石

讃岐

當国の風俗は気質弱邪智の人多し武士の風
別て偏強く方依とれ立あをすべきなどく
只多は太田寒川三本三野山田香取郡別て
け風悪しとも

伊豫

當国の風俗ハ古郡まで分ちに別れ東ハ八郡ハ気
質柔和にして實第強く西郡ハ郡て乱気強く去
実ハかく[illegible]古よりけまる海賊満して住
其の舟ハ[illegible]の中[illegible]
堂を[illegible]て一[illegible]を[illegible]諱無し[illegible]関東乃
隣通けまの海賊門葉にして武士の風俗一
[illegible]
[illegible]

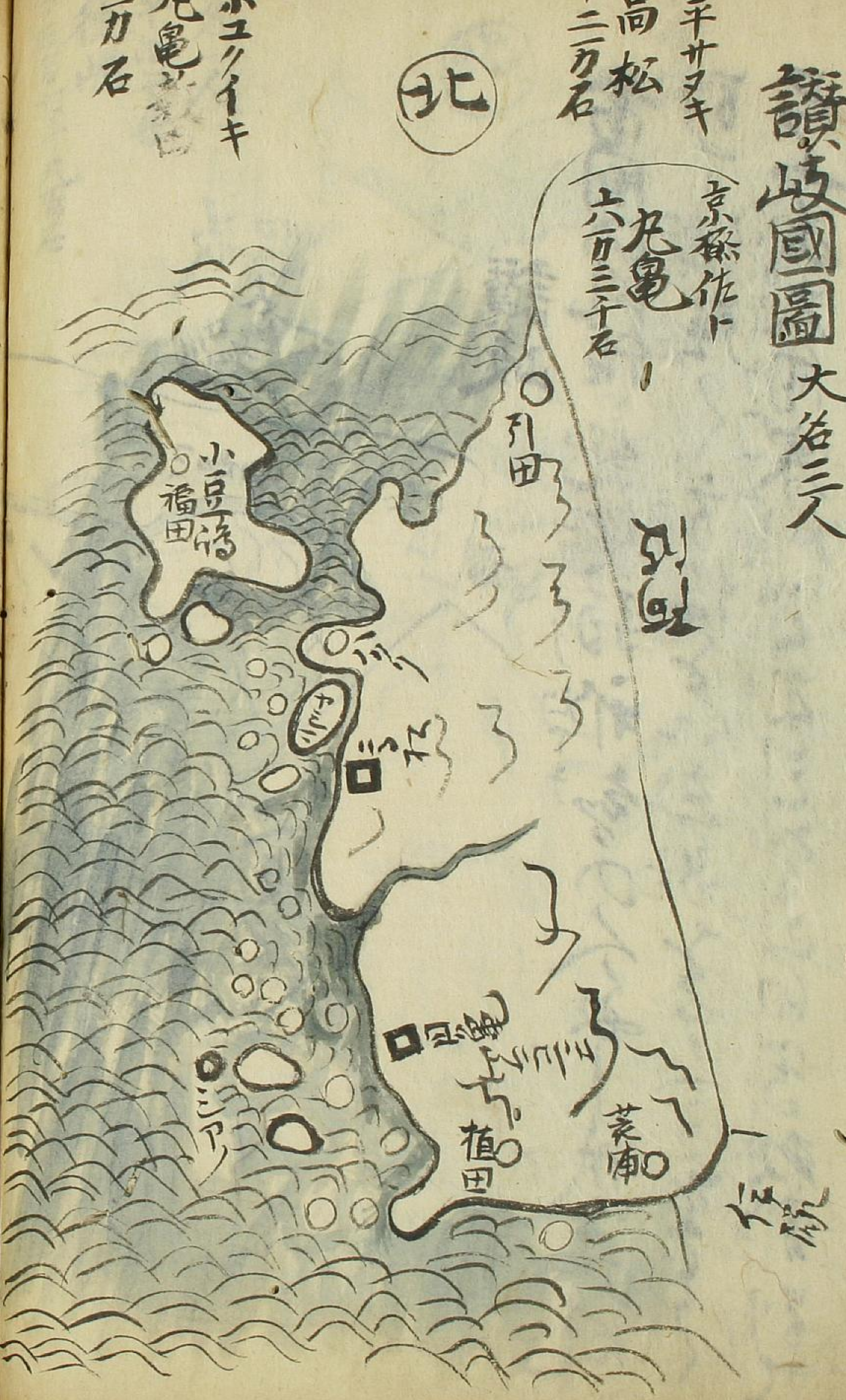
讃岐國圖　大名三人

讃岐国ハ北ハ海を[illegible]

松平サヌキ
高松
十二万石

京極佐ト
丸亀
六万三千石

京極ユワイキ
丸亀[illegible]
一万石



伊豫國圖

大名九人

松山わよ国ゟしてむかしを通故に風ぎて
あしからかまほとりむ嘘偏の国や

松平ヲキ
松山
十五万石

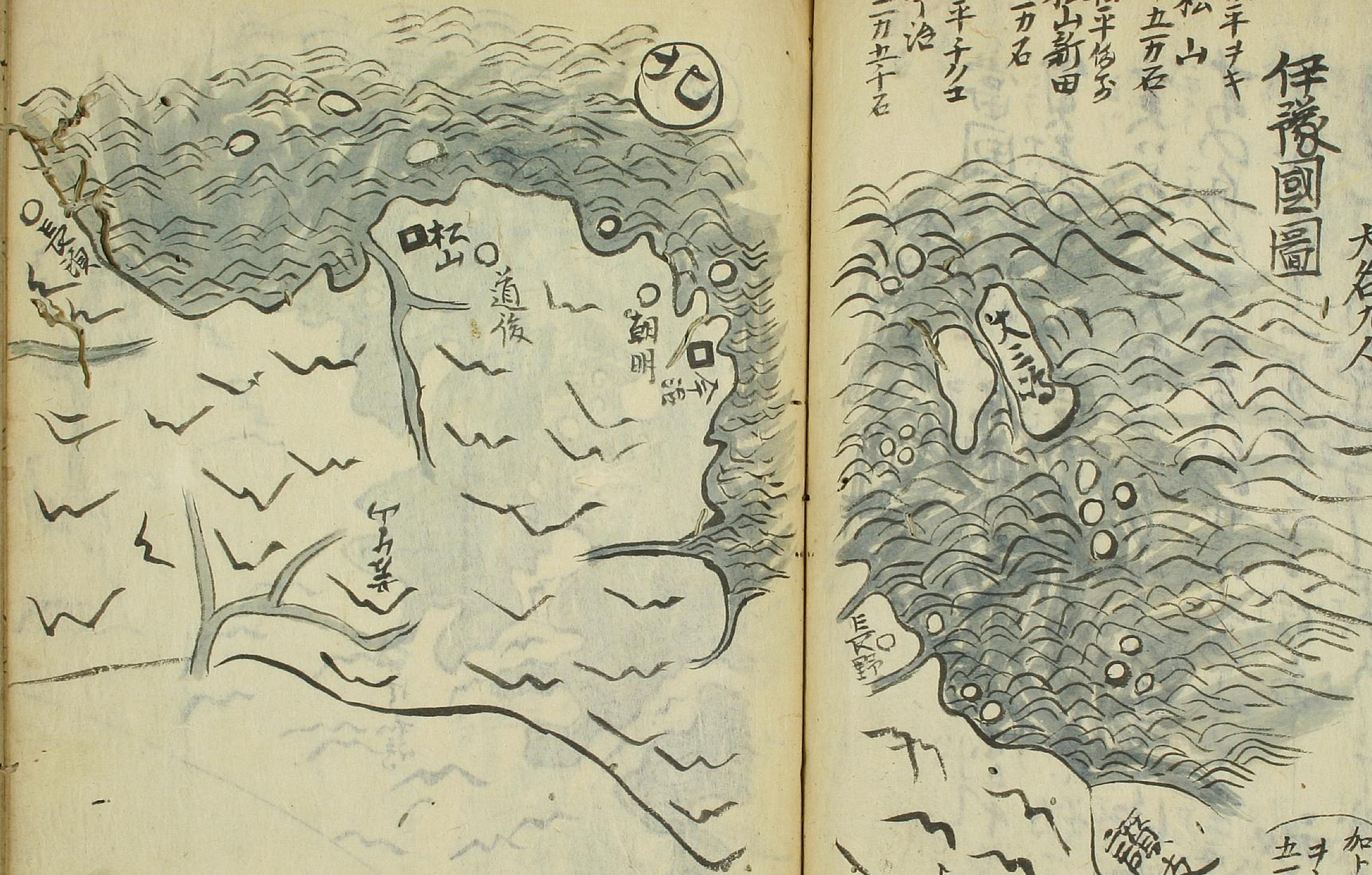
松平隠岐
松山新田
一万石

松平チノエ
今治
三万五千石

加トウ遠江
ヲウス
五万石

カトウヲリベ正
新谷
一万石

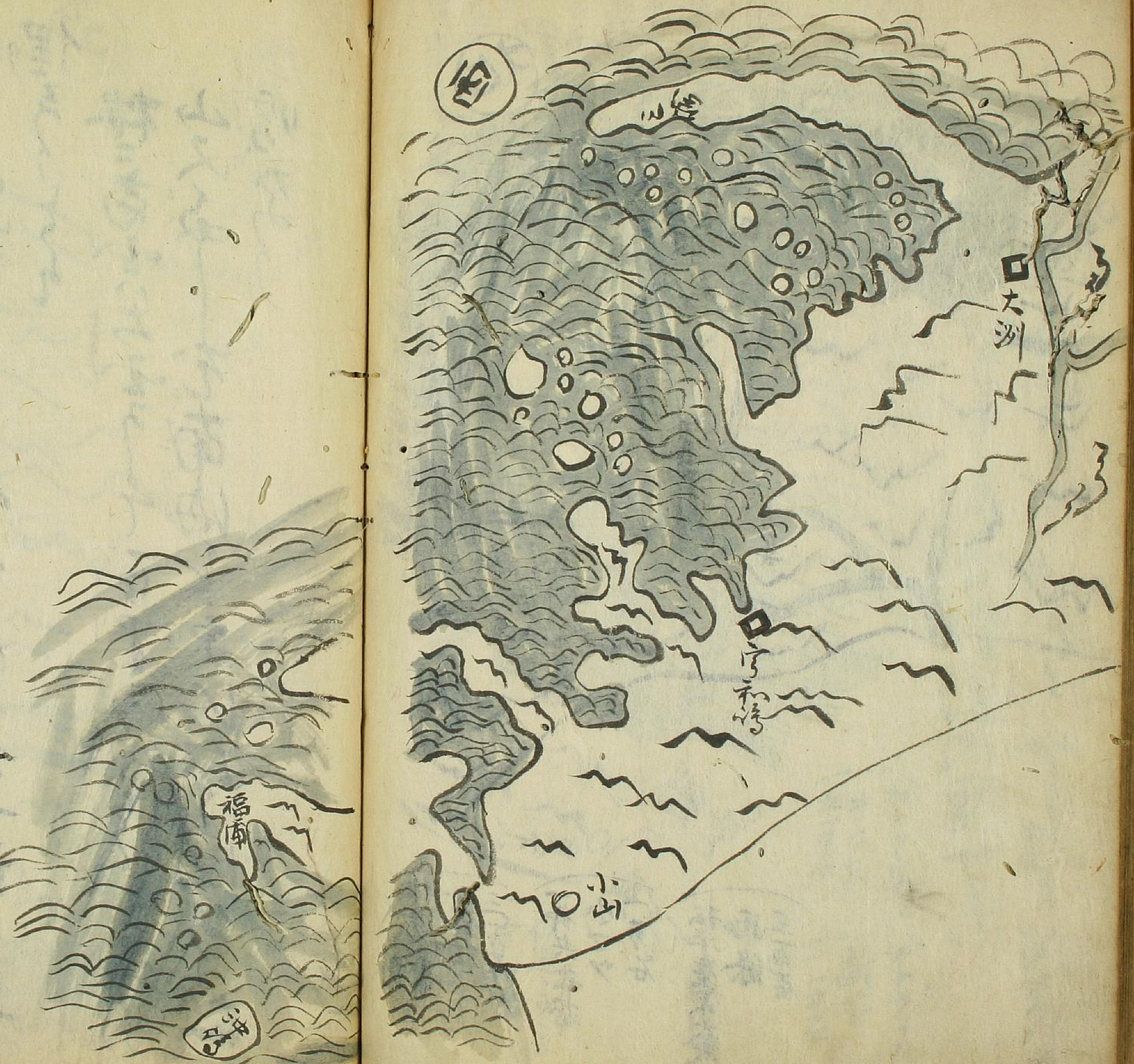
伊達トウミ
宇和嶋
十万石



伊達若狭
吉田
三万石

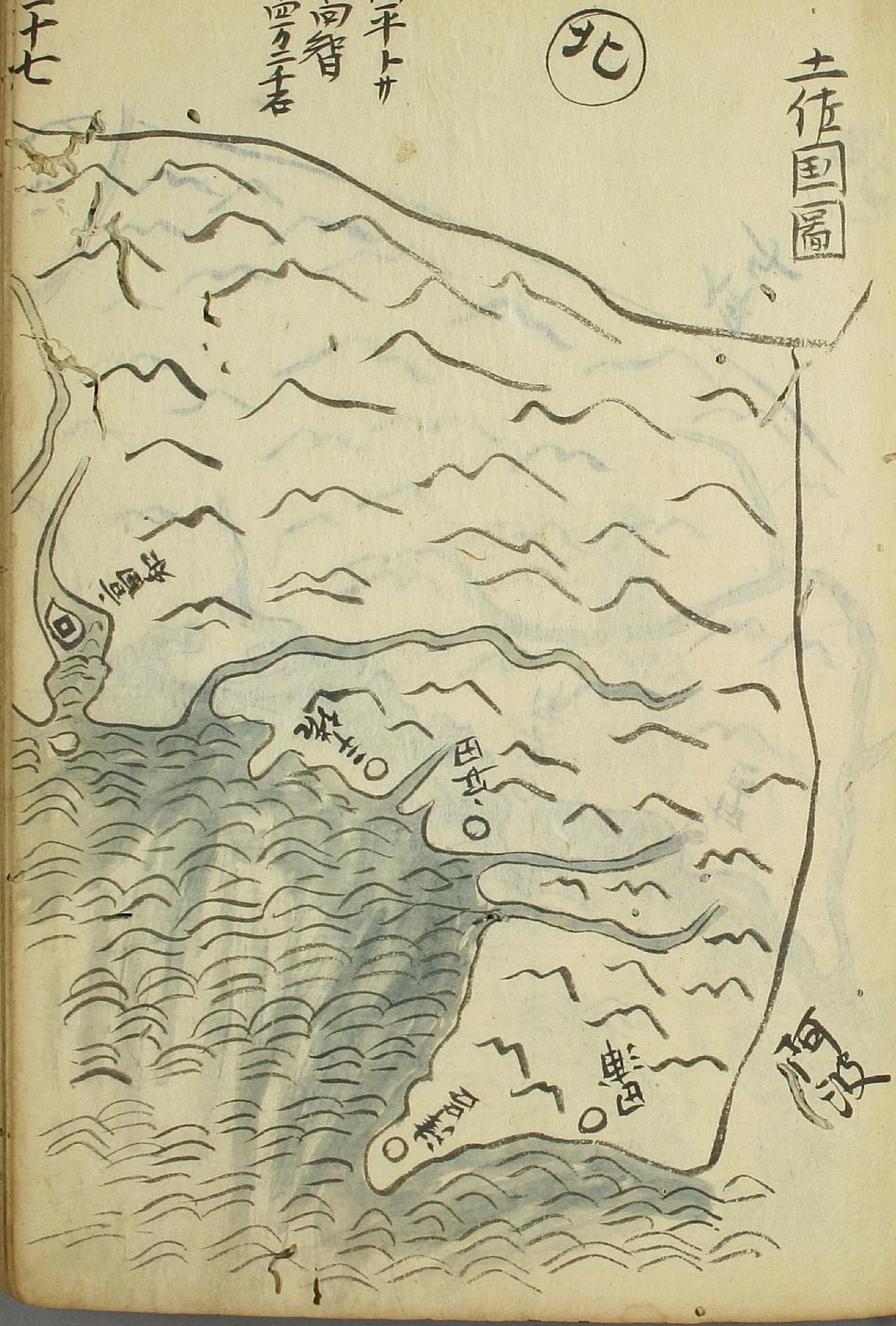
一柳兵部少輔
小マツ
一万石

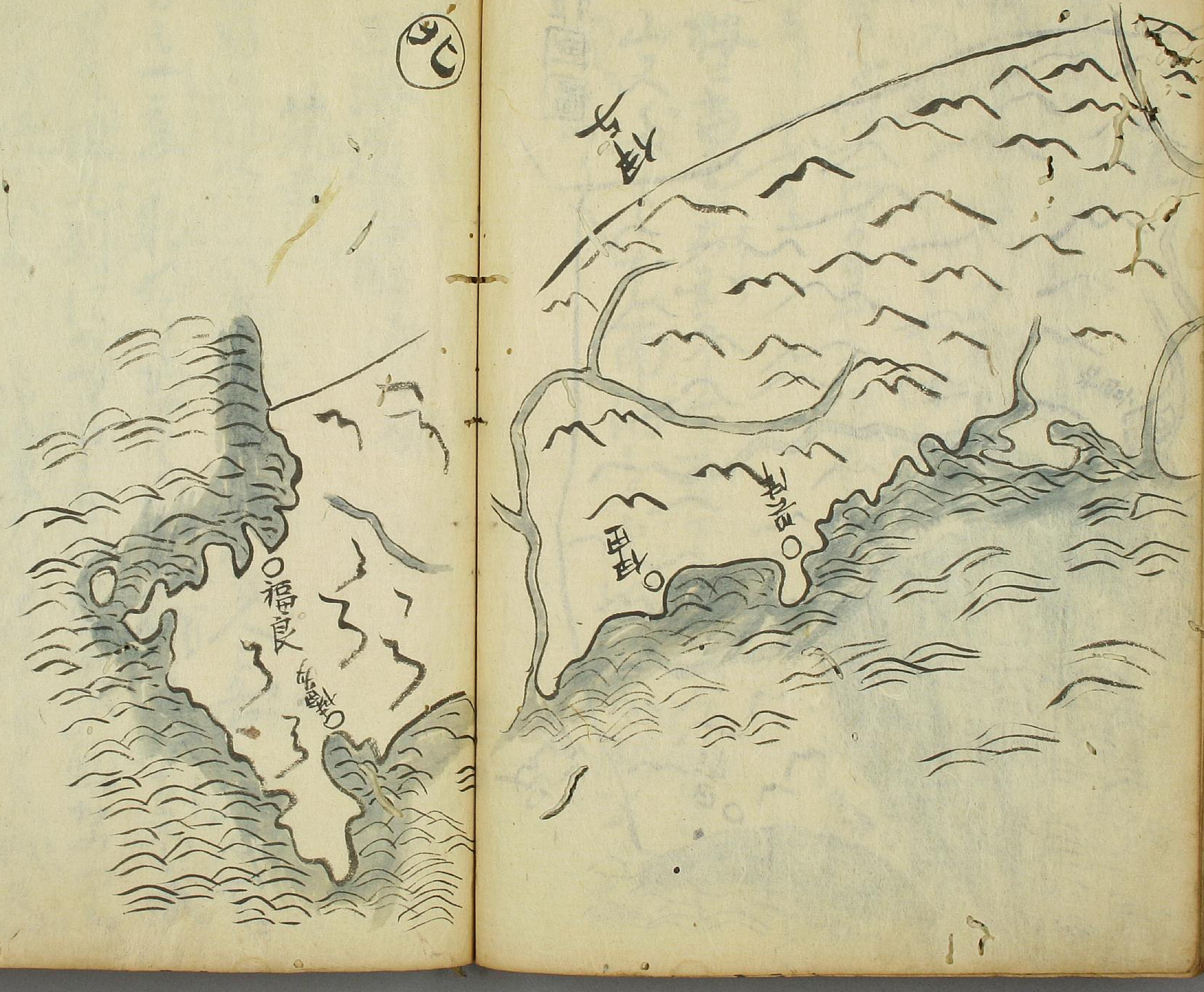
松平左京大夫
西條
三万石


西
大洲
宇和島
福浦

土佐

當国の風俗ハ極て真ニて氣質すなをなり
土佐長岡吾川の郡別てけんやくニ節
しの稲ハそのまゝやけの穂するをもつて
藝を仕つけよきや　但左ハ国ゆ（其諺云早
俚ろうとそれ
梅ニ南ハ大洋ニして百里の間ほどきあり
山又多し北ハ南海を受ほたる国なる故
暖なり




福良

西海道九國 附二嶋

筑前

當国の風俗ハ大底飾多して人に名りこの心や勇も一致ハ新れざるにかぎる風流終ニ伊事も成就せざれ但九州にあつて古來太若の国なりて酒色ハ好人多し就中博多の名たてらく我為にげきる人ありとよきれざるふれるて甚子も高とも按ニ南気風を変て以て又多し風土温和事に喰楽多しに古昔ハ太宰府とそ九ヶ国

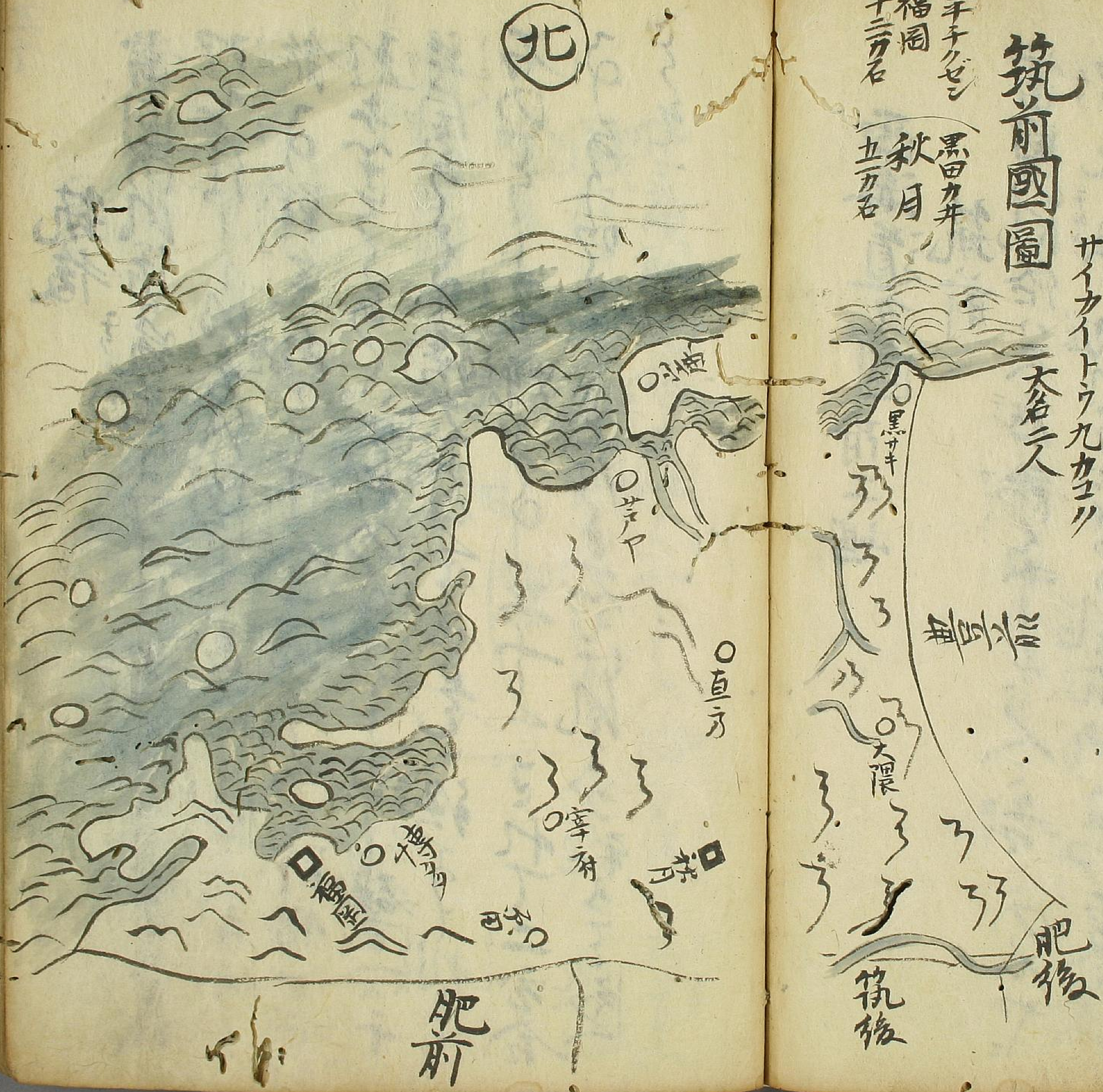
の宰頓の宰府あつて是は西都といひし筑前博多の津は異国の船津なり入船外の国より風景かうりよし人の生路才をはかるまでに物ごとさかしやなる者多し左上たうつくしき風なりとぞ

筑前國圖

松平チクゼン
福岡
五十二万石

黒田カイ
秋月
五万石

サイカイトウ九カコク
大名二人



筑後

當国の風俗は筑前にかはらず實義を常とし義理を信じ偽り[illegible]貴を信じて言語を飾らず鮮少くして下人に一涯にして理非を弁へ[illegible]剛き志かくも言行のすゞのこのむ譬へば堅固なる鐵のごとし鐵は是に鍛へてこれ石のごとし其鍛へるゝのあてられて二つ合するものかなしも上たる者も風にかなひて[illegible]こそ

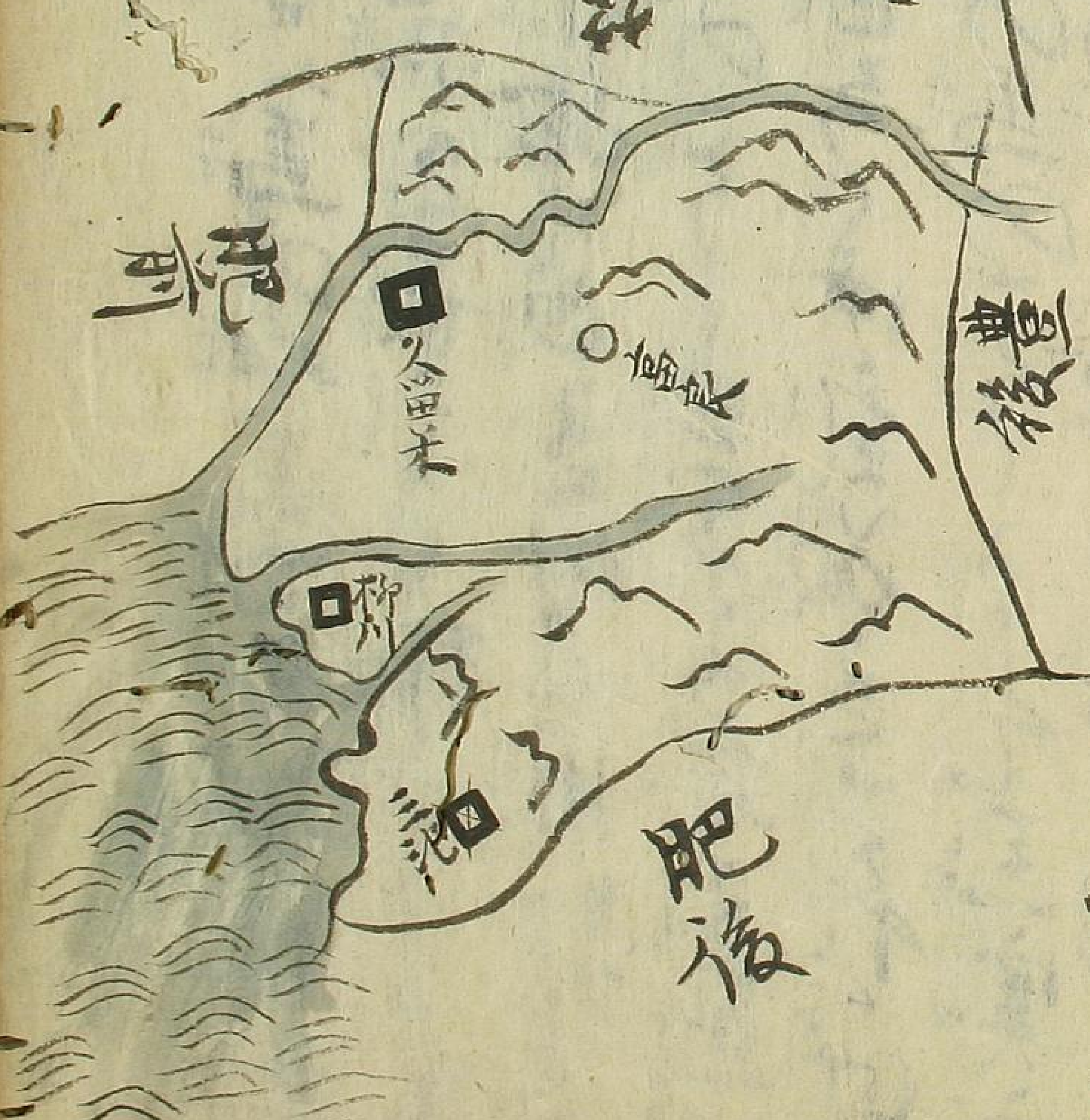
梅当国筑前の隣として入海を隔てゝあり国なりといへども故に風俗別なりといへどもたる嘆きる国や

筑後國圖　大名三人

有馬中務大輔
三十二万石
久留米

立花飛騨
十一万九千六百石
柳川

立花[illegible]
一万石
三池



豊前

當国の風俗譬ハ馬の如し。上るハぬるまゝ曲
るとゝ色々の毛有て長く強くもある也。
色取得るのごとし。然れ共曲まげれバ用かれし。然るに
るとは此れハ曲るのごとし。曲ると足をも止けり。
咏を踏まず甚曲りて中気如きされバ此国の
風俗は中気の馬のごとくにして忠實定り
なく義理なく死生を論ずる場とまでして尤
義をとめ知りてあるは理を捨て命を捨ることの

者も多しされバ一旦の念に一命を捨る者もあれども
此理を知る人を用ひることなくぶ気風とて謂とされ
楊は南ハ長門の国々高り出て緩新の党に
至て国當を改て識ゆる一曲を以て刑の国
なり。温暖の氣や民風志なく死して
一衍の念に捨当ての義けなるかまる一て悪
れ、難ことも此国古の人々義哉をまし志し定
をもとせし変まへんときんハ識ぬ古書の説の風
哉らや

豊前国図 大名三人

奥平大膳大夫 中津 十万石

小笠原遠江守 小倉 十五万石

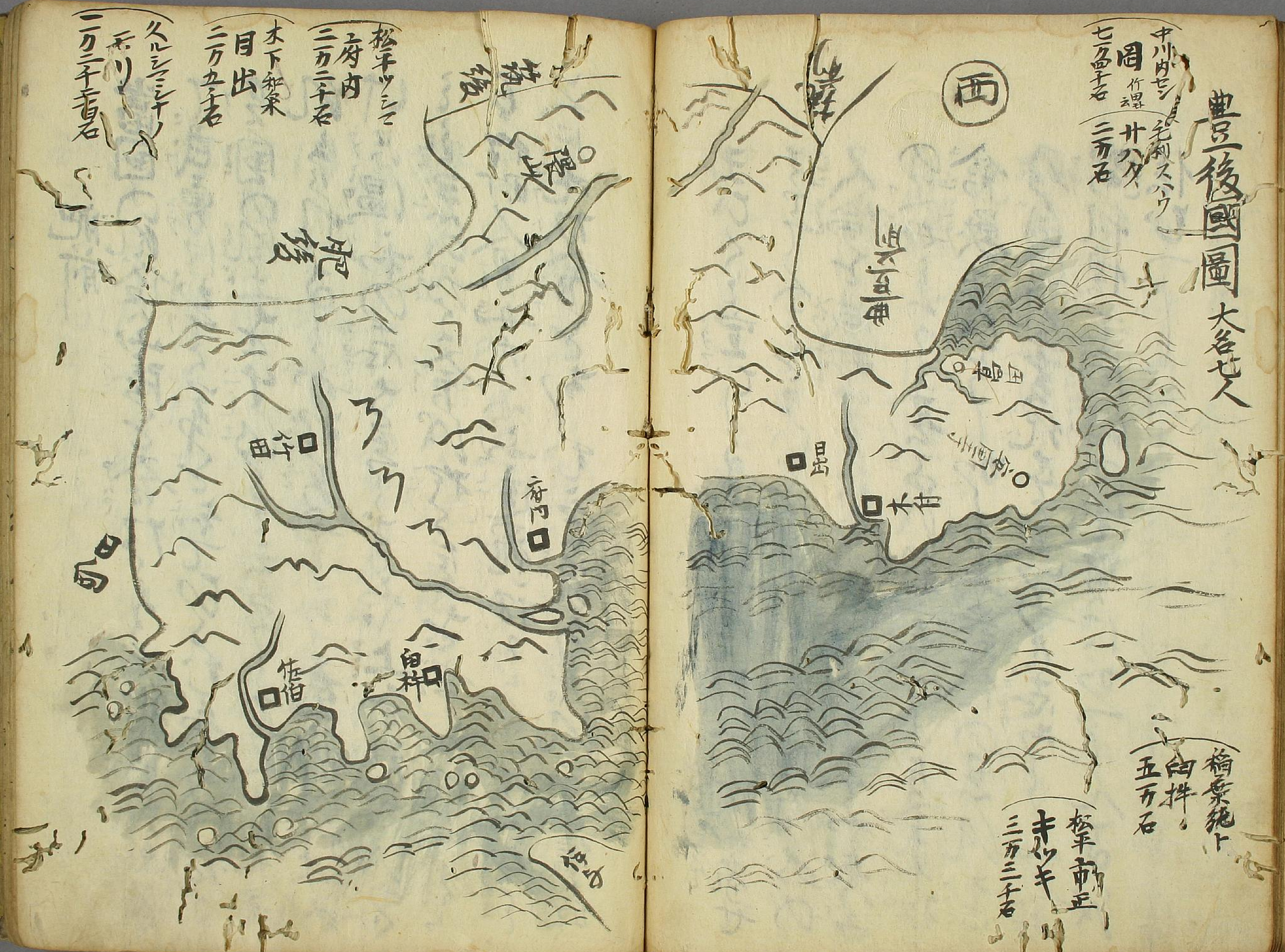
小笠原 小倉新田 一万石

豊後

當国の風俗は氣を稟て偏塞なるゆへに十
が一も恙なく生たるは偏屈の内より出生する者
間あるに於てはしばしば根性あしく邪慳の子をまいくと
宜しく家風せずして子孫断絶する事多きを
け其の人は斯ありとふ并して却てする事を教
害するとも是たるも其れたる末世
て至るべしけるの乱賀なる事を
いとなまず文術毛のごとし別て武士の風俗とは

適〻倫を知しても知すなきをなめんと見つる人まで亡
道に昧き者ハ卓して或ハ邪智に迷ひ僻病を
引入る人多し故に理にくらきものこゝに離れ[illegible]
梅に南北海濱も多く山谷も多きもの有るは暗
気の和らぎたる日外からどより山中ハ少なし
民俗ハ本書に説不詳なり中比の良友の[illegible]を
見るに大槩ハ本書に遠く風義多し根子を
まびくと云ることハ南国は限り九州の門所
の風あるよし本書に聖宝ある事のこと

まびくと宣ひしことは何の書にも出ず況や縦相続せ
ざればとて人を[illegible]まびくところは是天道自然の
人倫を滅却するものなりましてや孝子
の父母をもつて其子を殺害すること夷狄
禽獣もしらざるところなりまして慈仁の恩なき
及びけん変化まで子を志あらん人[illegible]
習れ以て国俗の生質にかへらんるは
嘆む



豊後國圖
大名七人
中川内セン
岡
竹田
七万四千石
毛利スハウ
二万石
稲葉能ト
臼杵
五万石
松平市正
キツキ
三万二千石
松平ツシマ
府内
二万二千石
木下和泉
日出
二万五千石
肥後
日向
竹田
佐伯
府内

肥前

當國の風俗ハ山陰と合たりし猛勇氣を
て武勇にもそいつ筆を取てひそむ和歌しばば
其国の風土をせびしまひるを云ふ石人又其人代
風あられけるしか猛気やうるふ其の風雅をめ
け只温和の志をきてざるや上を致すべく
ミ是人の気に合ひ揺る文を常ニ乱るまじ
百姓町人男女とふふ逍遥神ふら下にて平ちと
之民も又今とをかしむ宣風しく風筆ハ信力

ならびく智をたがれ音楽野鄙なり文人の和
する事ハ俗難及べしかしそれ
梅ニ南畝ハ古国より好ニ南畝に隷ひくるを
無し風土かつての好もあれども都て海底お
ほふ山も又無し世に勝事や民俗たも書畫や
中古龍造寺隆信の氣象の純國風とせれ
ひかたることを又有馬郡下杉海をこに逞こ
者をさうかたる事あれば風もかい皆あるべし杉浦
郡の内又属せし五島もとん海上をもち攝て

大名十人

肥前國圖

東海文化偕し中術有り長崎に唐黒郡の商舶入津の都会とされ異文物あつまれて勇猛の気も薄し

大嶋
西

大名四人

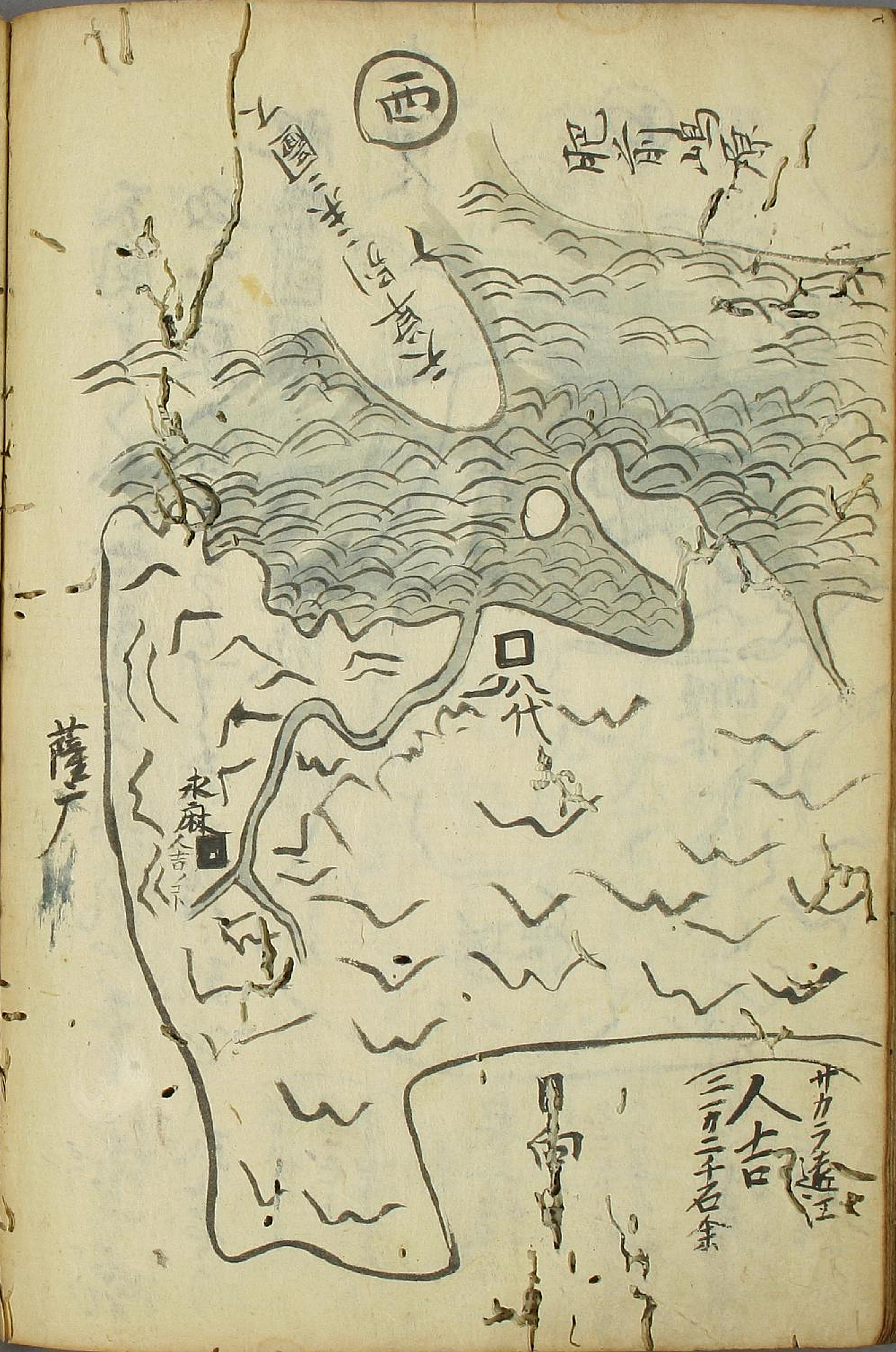
肥後國圖

其風ひろく人に其事をつゝむ風やさらに從て嬌
女を要入し數々ろこすを恥とする

肥後

當國の風俗ハ大てい肥前に似たりされとも其勇
をおもんする事ハ百万が一なり武士の風俗ハ肥前にまさり
て暴なりしかるに其の風俗ハ其前の下流
たるより上ととくしく何事も
さひしくなるゆへ一和せん肥前よりもおもしろし
梅さ(?)志国あり志海濱多くして文學し
下には解水海あり名所のかなり志醍温
の国や民俗を書に洋なりとて上下其この

西
長岡帯刀
八代
三万石
天草


西
サカラ遠江
人吉
三万二千石余

日向

當國の風俗は無躰無法の事のみ多く只乱氣の人
あまりに作て己が理を立る時は形に人を有を
却て男いきに只にまかせ一命を捨る
人と口論するの勢ひ付て見れの類あり風や盛
備早の伴すすみ人倫の理などをも知らで欲
くつき不や嗜死すると云て事を荒たる風俗
多し
梅高國の風土海須多く平原きちかやまた乱氣
也

日向國圖 大名四人

延岡 牧野越中 八万石

飫肥 伊東修理亮 五万千石

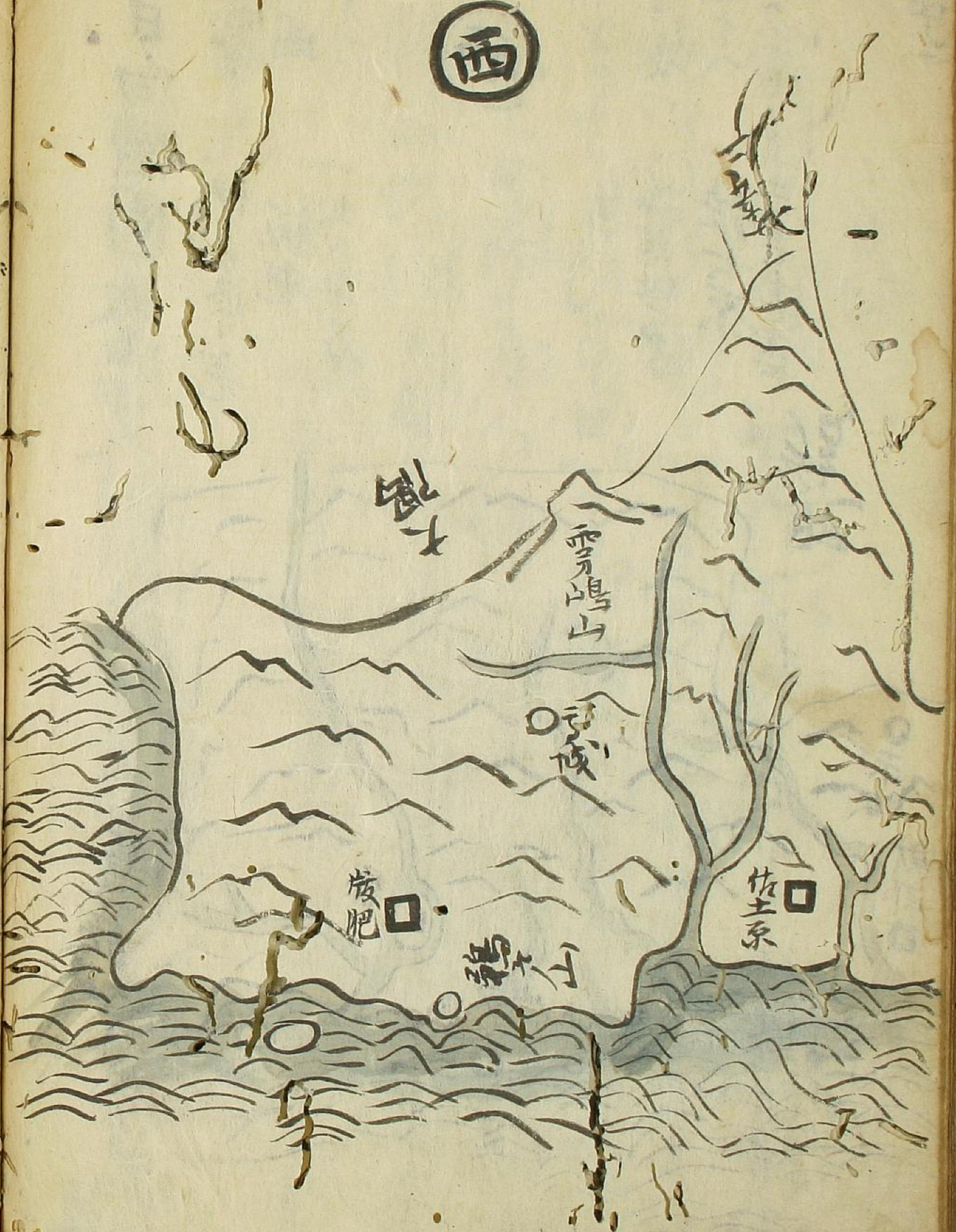
西

高鍋 秋月長門 三万石

佐土原 島津但馬 二万七千七十石

大隅

当国の風俗貴きも死をもつて義とし男子たる者は死
する道にておほえ五常に一陣外の事をしらず
仏法は前後の沙汰なく生死の為を無益とて自然
て常に天下の御法をまもりてなくことと言ふのことを
知行を重んずるを肝と心得百姓は仏の道を重んず
親の仇を討てこれを誉と残陽に於て死すれば
忠義の節を守るは士の工夫なり戦に臨ては死を急ぐ
其うちのものは東西集る年の時も一人怠る事なし



勝ぐこゝ或ひ之との〳〵従射護する類のかぎり在
おのれ〳〵代々それ〳〵けれらうへしこゝを
桜ニ高田国山以後よして海中へおしかゝるゐ
桜子浦なくの浦ろこ云南海の中にいで
に唐すたち暖国なり民俗なき書て詳や

大隅国図

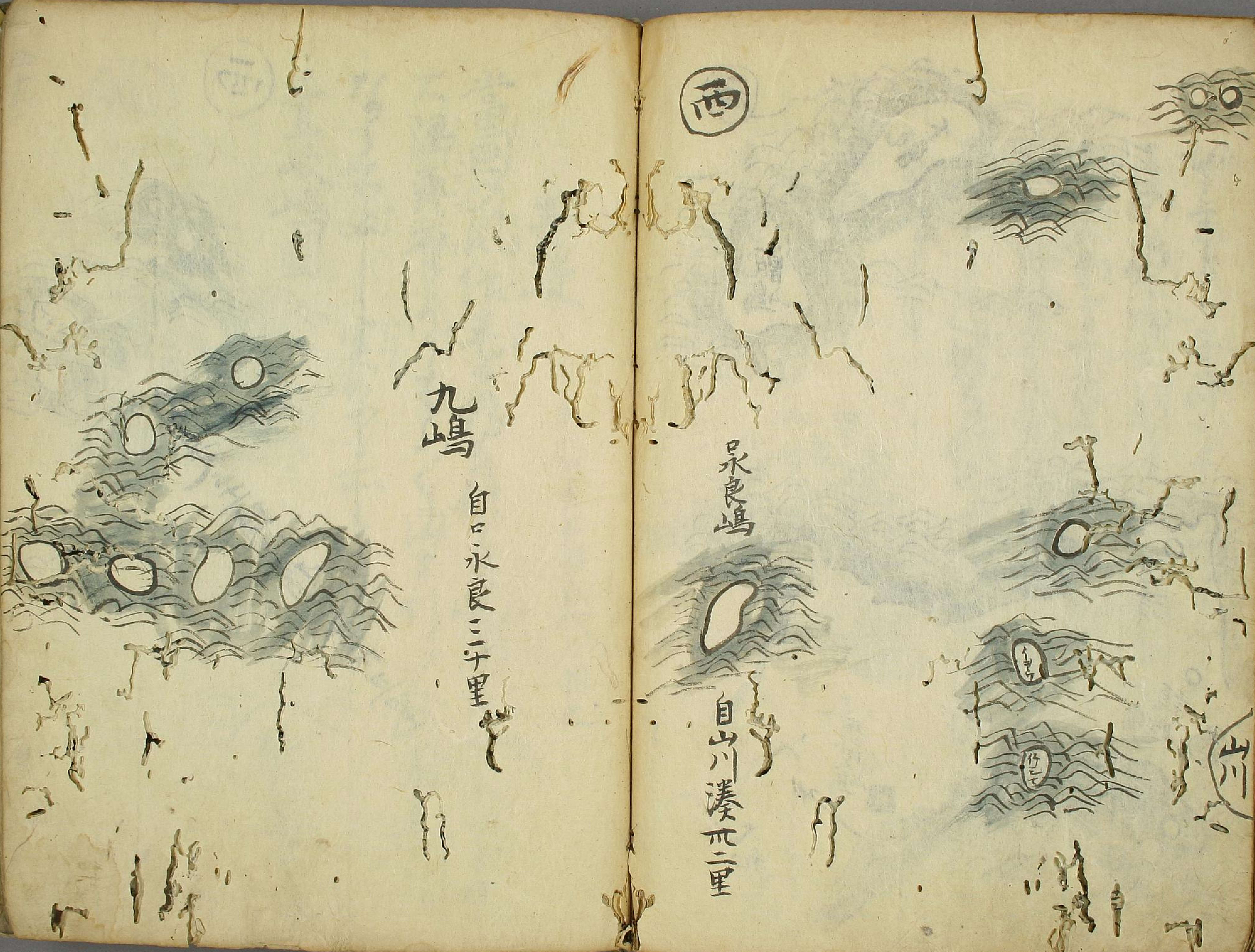
薩摩

當国の風俗大隅に少も違ふことなしされど
梅に南国は大隅の如く江海を隔て北には
山を負ひ西海を受たるゆへに甑嶋長嶋
等九嶋ありとふる七嶋皆南国の隷なり
琉球も南国の附庸にて此の國暖なれは民俗
皆言葉つゝてかく剛強なる事ハ質なるの気
またて粗や掌に論の上に論ずるに
域として数代の渇に兎を通るに自ら

かゝる子孫もそも栄久を守り仮令の児
子の戯論あるってもおの労を恥辱とし
其父もヱ死をとげむる勢のなかりしときに
死をおそれざるは勇猛なれども理非を勘弁せ
ざることを遺憾なれ此やその風俗也かゝる
ことなし

薩摩国圖

嶋津氏領之


西
九嶋
自口永良二十里
口永良嶋
自山川湊亣二里
山川

西

北

壹岐

平戸城主松浦氏代々領之

當国の風俗を語られしに此の嶋なる
大隅薩摩よりもほとく隔たれる人の気柔和
なる事女もし実なる事もこそ

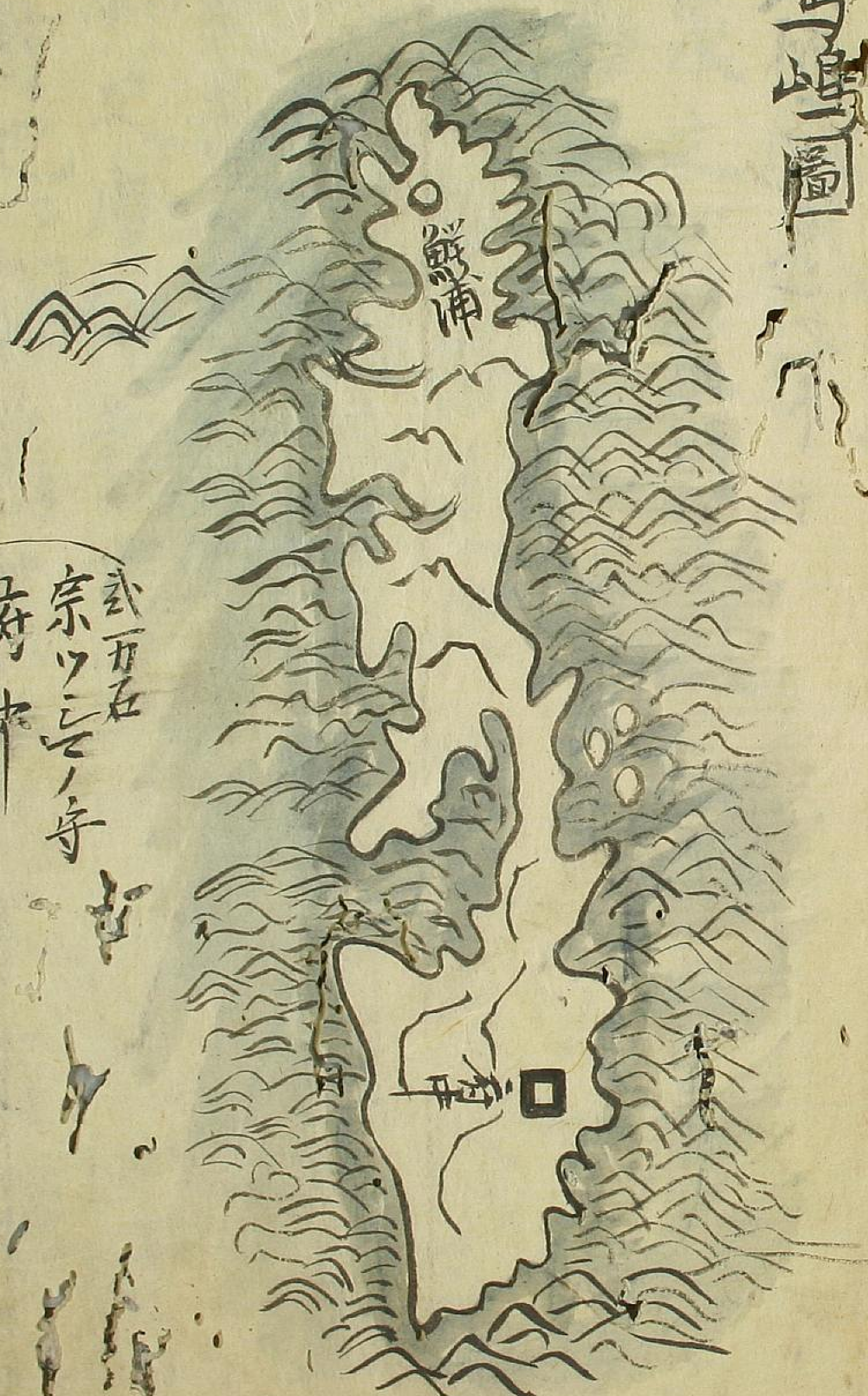
壹岐嶋圖

對馬

當国の風俗壹岐と同じ北は朝鮮にちかく壹岐對馬の両国共に肥前の国の北に当りたる海中の嶋や周通皆海にて何れも山多き壹岐より肥前名古屋迄ハ十三里對馬へ壹岐の勝本浦より四十八里乾の方にあたる北にあたる国なれば寒き事對馬は殊に寒く国雪多し爰より朝鮮へ通路海上又四十八里や

北

對馬嶋圖



弐万石
宗ツしまノ守
府中
十万石以上格式

人國記卷之下 終

題人國記後

國家之理亂繫風俗之美悪風俗之美悪繫人心之情偽民心之情偽繫人牧之賢否。是故移風易俗。王者所以攬面也。嗚呼風俗之所繫。蓋、大矣哉。今此編者、往昔述本邦之風俗者也、或曰、鄙元師時頼所著也、顧為其書。不能無疑焉、然非周流海内而覽察

民情者不能若是詳且盡矣。方今盛時、風移俗化、雖異古音、民情所尚猶有遺風也。蓋民情猶植物、因土地異榮瘁、因灌漑遂其性。是故有北方强、有南方强、嘗土民不才、瘠土民向義、嶮岨幽谷、直而隘、平原海濱、文辯而放、此皆自風氣水土所以使然也。但其善悪原、薄與時皆變化矣。以是觀此、此書之作、非徒記稽古之俗、而當以徴當世、則盡爲風化之規鑒耶。

元禄庚辰端午日

木齋平祖奐